2020 年度
海洋教育パイオニアスクールプログラム
実践記録集

2021 年 3 月

竹富町教育委員会

目次

１．　竹富町の海洋教育の取り組み 1
（１）　本町の特徴とねらい 1
（２）　全体計画 2
（３）　令和２年度の実施スケジュール 3
（４）　今後の予定 4

２．　竹富町各校の海洋教育の取り組み 5
（１）　全体計画及び単元計画等 5
① 竹富島小中学校 5
② 黒島小中学校 10
③ 小浜小中学校 12
④ 波照間小中学校 15
⑤ 大原小学校 16
⑥ 古見小学校 17
⑦ 上原小学校 20
⑧ 西表小中学校 22
⑨ 白浜小学校 23
⑩ 船浮小中学校 25
⑪ 鳩間小中学校 28
⑫ 大原中学校 30
⑬ 船浦中学校 32
（２）　学習指導案（指導の手引き） 33
①サンゴについて学ぼう 33
②海を守るために私たちにできること（ビーチクリーン） 34
③海と祭祀 35
④津波から命を守ろう 37
⑤まわりの島ってどんな島？ 38
⑥私たちの身近な海に棲む生き物 39
⑦海と共に暮らす人たち 43
⑧自然をいかした仕事 44
⑨海に関わる施設に行ってみよう 46
⑩山と海のつながりを考えよう 48
（３）　令和２年度各校の実践記録 49
① 竹富島小中学校 51
② 黒島小中学校 53
③ 小浜小中学校 56

④ 波照間小中学校 58
⑤ 大原小学校 60
⑥ 古見小学校 62
⑦ 上原小学校 64
⑧ 西表小中学校 66
⑨ 白浜小学校 68
⑩ 船浮小中学校 70
⑪ 鳩間小中学校 73
⑫ 大原中学校 75
⑬ 船浦中学校 77

３． 町内で実施した取り組み 78
（１） 海洋教育教職員研修会 78
（２） 海洋教育クリーン週間 79

資料 80

１.竹富町の海洋教育の取り組み

（１）本町の特徴とねらい

本町は、１６の島々（有人島９つ、無人島７つ）で構成される島しょ型海洋自治体であり、様々な営みの中で海洋と密接に関わり、多大な恩恵を受けながら暮らしている。また、日本最大のサンゴ礁海域である石西礁湖をはじめとする恵まれた海洋環境や大自然と、それらを背景に育まれた個性豊かな伝統文化が受け継がれている地域である。町内には、小学校が 4 校、中学校が 2 校、小中併置校が 7 校あり、全校児童生徒数が最少で 2 名の学校がある等、児童・生徒数が様々で、周辺の自然環境や文化なども地域それぞれに異なる 13 校が海洋教育に取り組んでいることが特徴である。

一方で、このような多様な自然や文化が身近であるがゆえに、これらの価値や暮らしとの繋がりを十分には認識できていない面もある。また、各校では自然を生かした様々な体験活動が行われているが、体験に止まり様々なことに関連づけた学習には至っていない部分もある。加えて、町内の各島へは船でしか行き来でないものの各島を結ぶ定期航路はなく、一度石垣島に出なければならないという立地から、同じ町でありながら町内他離島へ行ったり、知る機会は少なく町としての一体感が希薄である。

このようなことから、本町では海洋教育を通して、体験のみならず事前事後学習を充実させたプログラムを地域とともに展開するために、前年度は「竹富町海洋教育基本計画」、今年度は「竹富町海洋教育副読本」を作成した。次年度よりこの副読本を全校で活用し、系統的・体系的な学びを実践するとともに、他の地域への理解も深め町としての一体感の醸成を目指している。また、本町の多種多様で特色ある伝統行事等も海との関わりが深いことから、海洋教育に位置付けて学びを深める。さらに本町では、地域との密な連携を図りながら、海洋教育をはじめ様々な取り組みを行っていることが特徴であり、今後も地域人材を活かしながら地域とともに海洋教育を取り組むことで、より充実した町全体の取り組みとなることを目指している。

（２）全体計画

竹富町海洋教育全体計画

海洋基本法
海洋基本計画

竹富町海洋教育基本計画

竹富町海洋基本計画
竹富町総合計画

竹富町海洋教育の「合言葉」

～　隔ての海を、未来につながる結びの海へ　～

目指す子ども像

～　我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りを持ち、未来に羽ばたくぱいぬ島っ子　～

基　本　目　標

海洋教育を通して我が島、我が町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海（自然）と人が共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる子どもたちを育成する。

基　本　方　針

① 地域と学校の双方が主体となって連携・協力し、海洋教育を推進する。
② 島々の特色ある自然や歴史文化、暮らし等を最大限に活用し、海洋教育の４つの視点と海と人との共生を軸に海洋教育を実施する。
③ 島々を結び、竹富町全体の一体感を醸成する海洋教育を展開する。

重　点　項　目

①海洋教育を通して、自分の地域や島をはじめ竹富町の他の島々へも理解を広げ、それぞれの自然や歴史、伝統文化などの重要性に気づき、竹富町民としての誇りと郷土愛を育む。	②海を取り巻く様々なひと・もの・ことについて可能性や課題などを発見できる力を育む。	③島々の祭祀や文化と繋がる海への畏敬の念を持つとともに、海の脅威を知り安全安心な海との関わり方を育む。	④海（自然）と人が共生できる持続可能な社会となるように自ら考え、行動できる力を育み、将来にわたって本町に貢献できる子どもたちを育成する。

（３）令和２年度の実施スケジュール

日にち	内容（◆：町外の活動に参加）
2020 年 5 月 19 日	第１回副読本編集委員会
7 月 14 日	第２回副読本編集委員会
9 月 2 日	第１回副読本編集コア会議
9 月 8 日	◆九州地域海洋教育連絡協議会「オンライン博多会議」
9 月 15 日	第２回副読本編集コア会議
10 月 6 日	第３回副読本編集コア会議
10 月 14 日	海洋教育教職員研修会
11 月 6 日	第３回副読本編集委員会
11 月 30 日～12 月 4 日	ビーチクリーン週間（町内一斉海岸清掃）
12 月 17 日	第１回海洋教育推進委員会
2021 年 1 月 22 日	◆海洋教育こどもサミット 2021 in おおむた
2 月 11 日	◆第 8 回全国海洋教育サミット
3 月 2 日	第２回海洋教育推進委員会
3 月 12 日	**教育課程特例校及び海洋教育担当者研修会**

（４）今後の予定

海洋教育パイオニアスクールプログラムを通して、町全体の主な取り組みとしては、１年目に「海洋教育基本計画の策定」、２年目に「海洋教育副読本の作成」を行った。３年目となる次年度では、町として、以下のことに取り組み、本事業をより定着させ充実したものにすることを目標としている。

① 海洋教育推進委員会

開催時期：年 2～3 回を予定

概　　要：基本計画に基づき、町全体の海洋教育の推進に向けた各種検討を行う。

② 海洋教育担当者研修会

開催時期：年 3 回程度を予定

概　　要：各学校での取り組みや学校連携、他地域連携等を円滑に行うため情報共有を行う。

③ 教育課程特例校連絡会議

開催時期：適宜開催

概　　要：特例校に指定された学校において、課題の共有や解決策を検討する。また、他の特例校指定を目指す学校への情報提供等を行う。

④ 竹富町海洋教育サミットの開催

開催時期：2021 年 7 月 2 日

概　　要：町内全校の児童・生徒（代表者のみ）が一同に会し、取り組みの発表や情報交換を行い他島のことを学ぶとともに、交流や発表を通して学習意欲を高めたり、発表や発信力を高めることを目的とする。また、このサミットは地域の方も連携して開催する。

⑤ 竹富町海洋教育週間

開催時期：2021 年 7 月 1～7 日

概　　要：過年度の協議を経て、毎年 7 月 1 日から一週間を「竹富町海洋教育週間」とすることが決まった。この期間では、子どもたちや地域の方もより海に関心を持ち、様々な取り組みを行う期間とする。具体的な内容は今後検討する。

⑥ 海洋教育クリーン週間

開催時期：2021 年 11 月 22～28 日

概　　要：町内一斉の取り組みとして、各校の近隣の浜等でビーチクリーン活動を行う。

⑦ 交流事業の推進

町内の学校間や他地域との交流学習を推進する。

⑧ 副読本活用の開始

今年度に作成した副読本の活用を開始する。

２.竹富町各校の海洋教育の取り組み

（１）全体計画及び単元計画等

本町の海に関わる学習・体験活動等は、以前から様々な形で取り組まれいたため、「海洋教育」としての位置付けや、関連教科との関わり等は調整段階である。今年度に副読本が完成し、事前事後学習も充実させた内容に取り組んでいくことから、全体計画や年間指導計画等は次年度に進めながら確立していくことを目標としている。そのため、調整状況についても各校でばらつきがあるが、現時点のものを以下に記載する。

① 竹富島小中学校

【本校の海洋教育目標】

〇ふるさとの自然に関心を持ち、海の環境保全という視点で協同的な学習の良さを知る。
〇海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活の在り方を考える。
〇探究、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発信する力を高める。

【各学年の R3 年度海洋教育目標(案)】

小１，２年生：「私たちの島やまわりの島の良さを見つけよう！」
小３，４年生：「私たちの給食から海の恵みを見つけよう！」
小５，６年生：「私たちの竹富の豊かな海をどのようにして守るか！」
中学生：「私たちの竹富の豊かな海や世界をどのようにして守るか！」

【発信の場・その他】

竹富町子どもサミット（7 月）
学習発表会・中文祭（11 月）
東京大学海洋教育サミット(2 月)
瀬底小他校とのオンライン交流
(５，６年　２回　５月/１月下旬)

【今年度活動内容（令和２年度)】

１，２年生「海に関する体験活動を通して」
３，４年生「海の生き物調べ」
５，６年生「環境に優しい商品作り」
中学生　　「ゴミマップ作り」

【令和３年度の目標を達成するための活動内容案】

１，２年生「海に関する体験活動を通して(島巡り)」
３，４年生「海の恵み」
５，６年生「環境に優しい商品作り」
中学生　　「環境 eco プロジェクト」

	春休み	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
全児童		春の遠足 島巡り	瀬底小と交流 (5, 6年)								瀬底小と交流 (5, 6年)	
全生徒		春の遠足										
全児童生徒		もずく採り・ ビーチクリーン			竹富町子ども サミット				竹富町ビー チクリーン			アーサ採り ビーチクリーン
		各学年海洋教育活動内容(小3, 4年「海の生き物」小5, 6年「環境に優しい商品作り」中学生「未来の観光」										
探求活動		課題設定		情報の収集				整理・分析	まとめ・発表		整理・分析	まとめ・発表
全児童生徒					水泳学習				学習発表会			海洋教育発表

年間計画　小３・４年　海洋教育「おいしさ発信～竹富の給食と海からの恵み」（４１時間）

○本校の海洋教育の目標

①ふるさとの自然に関心をもち、海の環境保全という視点で協同的な学習の良さを知る。
②海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考える。
③探究、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

○３・４年生の目標

探究活動を通して、地域のよさに気づき、自分の考えをまとめることができる。

○評価方法

①発表やプレゼンテーションなどによる評価
②話合い、学習や活動の状況などの観察による評価
③レポート、ワークシート、ノート、絵などの制作物による評価
④学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価
⑤評価カードや学習記録、ふりかえりシートなどによる児童の自己評価や相互評価

○学習指導計画（４１時間）

月	学習内容	評価方法
4	オリエンテーション② ・一年間の学習の見通しを持たせる。 ・年度末にポートフォリオ評価ができるように、年間を通して「ふりかえりシート」を書くように指導する。 モズク採り④ ・モズクについて調べる。 ・体験活動 ・調べたことや体験したことを新聞や絵日記などにまとめ発表する。	①②③
5	海からの恵みって何だろう②（講師）候補：大堀健司（NPO ふくみみ）５/１３（木） ・講師による体験活動を通して、海からの恵みについて考え探究活動へとつなげる。 サンゴ講話②（東京大学　茅根教授） ・珊瑚について学び、守るべきものに興味関心を持つ。 塩作り体験　②　候補：竹富財団・星のや竹富	②③⑤
6 7 8 9 １０	探求活動　㉕「おいしさ発信～竹富の給食と海からの恵み」 ・課題設定　給食の献立に出ている海からの恵みについて調べ、探究したいテーマを決める。（例：もずく料理／アーサ料理／魚料理／海藻サラダ／塩の秘密） ・情報収集　本やインターネット、栄養士から話を聞くなど情報を集める。 ・整理分析　調べたことをパワーポイントや新聞にまとめる。 ・発表　　探究活動の成果を学習発表会で発表する。 ※　自分達で作った塩を給食や種取祭で使用する。	②③
１１	学習発表会	①
2	アーサ採り③ ・アーサの調理方法や保存方法について調べる。 ・体験活動を行う。	②③⑤
3	まとめ① ・一年間の学習をふりかえる。	④

年間計画　「島のまつり」（１９時間）

○本校の島のまつりの目標

①島のまつりについて調べたり、見学・参加したりして、知識及び技能を身に付けることができる。 ②自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 ③自分と島のまつりとの関わりについて考え、島のまつりに参画することができる。

○３・４年生の目標

探究活動を通して、地域のよさに気づき、自分の考えをまとめることができる。

○評価方法

①発表やプレゼンテーションなどによる評価 ②話合い、学習や活動の状況などの観察による評価 ③レポート、ワークシート、ノート、絵などの制作物による評価 ④学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価 ⑤評価カードや学習記録、ふりかえりシートなどによる児童の自己評価や相互評価

○学習指導計画（２５時間）

月	学習内容	評価方法
４	オリエンテーション	
９ １０ １１	結願祭③ ・見学や出演する。 ・見学したことを新聞や絵日記にまとめる。 イーヤチづくり④ ・作り方について知る。 ・イーヤチ作り体験をする。 ・わかったことをふりかえりシートなどにまとめる。 種子取祭⑫　（講話①依頼：候補　上勢頭同子さん、上勢頭立人さん） ・課題設定　自分が調べたいことを決める。 ・情報収集　見学・参加したり、地域の人から話を聞いたりして情報を集める。 ・整理分析　調べたことを新聞や絵日記にまとめる。 学習発表会 ・調べたことをまとめた新聞などを掲示する。	①②③⑤

※時数については１９時間の目安を設定している。

※時数　種子取祭当日　小３～小６（総合６、国２音２道１学１）小１～２（国３音３生３学２道１）

年間計画　小５・６年生　海洋教育「環境に優しい商品作り」（４１時間）

○本校の海洋教育の目標

①ふるさとの自然に関心をもち、海の環境保全という視点で協同的な学習の良さを知る。
②海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考える。
③探究、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

○５・６年生の目標

探究活動を通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることができる。

○評価方法

①発表やプレゼンテーションなどによる評価
②話合い、学習や活動の状況などの観察による評価
③レポート、ワークシート、ノート、絵などの制作物による評価
④学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価
⑤評価カードや学習記録、ふりかえりシートなどによる児童の自己評価や相互評価

○学習指導計画（４１時間）

月	学習内容	評価方法
4	オリエンテーション① ・一年間の学習の見通しを持たせる。 ・年度末にポートフォリオ評価ができるように、年間を通して「ふりかえりシート」を書くように指導する。 モズク採り④ ・モズクについて調べる。・体験活動 ・調べたことや体験したことを新聞や絵日記などにまとめ発表する。	①②③
5	ビーチクリーン・ゴミ調査③（講師）　候補：竹富財団 ・ビーチクリーンをして、海岸にどこの国からペットボトルが漂着しているのかを調べる。 サンゴ講話②（東京大学　茅根教授）　日程調整中 ・珊瑚について学び、守るべきものに興味関心を持つ。 瀬底小学校とのオンライン交流会②５/２０（木）５校時　13：55～14：40） ・自己紹介をしながら次年度の取組や今年度取組みたいことを伝え合う。	②③⑤
6 7 8 9 １０	探求活動㉓「環境に優しい商品作り」 ・課題設定　環境に優しい商品を調べ、自分達が作りたい商品を決める。② ・情報収集　本やインターネット、地域の人から話を聞くなど情報を集める。② ・実践　環境に優しい商品作りをする。（計画→作成→販売）⑩ ・整理分析　調べたことをパワーポイントや新聞にまとめる。⑥ ・発表　探究活動の成果を学習発表会で発表する。② ※ペットボトルのキャップで商品作り（竹富財団に依頼）６月 ※シュノーケリング体験（７月～８月下旬）（熊本の浪崎さんや大堀さんと調整中） ※作った環境に優しい商品を種子取祭で販売する。	②③
１１	学習発表会 竹富町ビーチクリーン　１１/２５	①
1	瀬底小学校とのオンライン交流会②　１/２０（木）５校時13：55～14：40	
2	アーサ採り③ ・体験活動を行う。	②③⑤
3	まとめ① ・一年間の学習をふりかえる。	④

年間計画　「島のまつり」（１９時間）

○本校の島のまつりの目標

①島のまつりについて調べたり、見学・参加したりして、知識及び技能を身に付けることができる。 ②自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 ③自分と島のまつりとの関わりについて考え、島のまつりに参画することができる。

○５・６年生の目標

探究活動を通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることができる。

○評価方法

①発表やプレゼンテーションなどによる評価 ②話合い、学習や活動の状況などの観察による評価 ③レポート、ワークシート、ノート、絵などの制作物による評価 ④学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオを活用した評価 ⑤評価カードや学習記録、ふりかえりシートなどによる児童の自己評価や相互評価

○学習指導計画（１９時間）

月	学習内容	評価方法
4	オリエンテーション	
9 １０ １１	結願祭③ ・見学や出演する。 ・見学したことを新聞やパワーポイントにまとめる。 イーヤチづくり④ ・作り方について知る。 ・イーヤチ作り体験をする。 ・わかったことをふりかえりシートなどにまとめる。 種子取祭⑫　（講話①依頼：候補　上勢頭同子さん、上勢頭立人さん） ・課題設定　自分が調べたいことを決める。 ・情報収集　見学・参加したり、地域の人から話を聞いたりして情報を集める。 ・整理分析　調べたことを新聞やパワーポイントにまとめる。 学習発表会 ・調べたことをまとめた新聞やパワーポイントなどを掲示する。	①②③⑤

※時数　種子取祭当日　小３～小６（総合６、国２音２道１学１）小１～２（国３音３生３学２道１）

② 黒島小中学校

令和２年度　海洋教育　全体計画

関係法規

・日本国憲法　・教育基本法
・学校教育法　・学習指導要領

・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点

・竹富町海洋基本計画

本校の教育目標

○自らよく考え進んで学習する子
○心豊かで思いやりのある子
○たくましく粘り強い子

○地域の特性
・海を活用した職業が少ないが、黒　島研究所があり、ウミガメや珊瑚　についての研究が行われている。

○生徒の実態
・活発的で、色々なことに興味を持って取り組むことが出来る。

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成

・様々な情報を見極め、情報を再構成し、新たな価値につなげる力の育成

・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成

海洋教育のねらい

「２１世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より

○海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立っ　た平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とす　る知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材　の育成を目指す。この目的を達成するために、海洋教　育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用す　る学習を推進する。

本校の海洋教育目標

○黒島の海（海洋）に直接触れることで、自然に関する興味関心を高め、自然の魅力を学ぶ機会とする。

○身近にある、自然環境について学習することで、黒島の海のよさを再発見する。

各学年の海洋教育の内容			学習内容		
小学校低学年	小学校高学年	中学生	小学校低学年	小学校高学年	中学生
【課題解決に必要な知識及び技能】 ・課題解決に向けて学んだことを活用しようとすることができる。 【主体的に課題を解決する思考力、判断力、表現力】 ・実社会や実生活の中から自分で課題を考えることができる。 【学びに向かう力や人間性】 ・身近な人と積極的に関わり、関心を持とうとする。	【課題解決に必要な知識及び技能】 ・探究活動を通して、既に身につけた知識や体験を自分で取捨選択、整理することができる。 【主体的に課題を解決する思考　力、判断力、表現力】 ・実社会や実生活の中から自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析する力を身につける。 【学びに向かう力や人間性】 ・身近な人々や自分の住む地域に関心を持ち、課題を見つける。	【課題解決に必要な知識及び技能】 ・学んだことを活用し、実生活においての課題を解決に必要な知識や技能を身につけられる。 【主体的に課題を解決する思考力、判断力、表現力】 ・実社会や実生活の中から自分で課題を立て、情報を集め整理・分析し、まとめる　力を身につける。 【学びに向かう力や人間性】 ・身近な人々や自分の住む地域に関心を持ち、課題を見つけ、より良い解決に向けて積極的に社会に参画する。	**「海に親しむ」「海を知る」「海を活用する」「海を守る」** の４つの視点から学習活動を整理し取り組む **「海に親しむ」** ・シュノーケリング **「海を知る」** ・ウミガメについての学習 ・豊年祭について ・ビーチクリーン ・海の安全について学ぶ **「海を活用する」** ・アーサ採り		**「海を守る」** ・ビーチクリーン ・３R 活動 （ﾘｻｲｸﾙ・ﾘﾕｰｽ ﾘﾃﾞｭｰｽ） **「海を活用する」** ・海洋漂流物物づくり ・アーサ採り

指導方針	指導体制	評価計画
○学習内容によって学習形態を変える ○生徒の主体的・探究的な学習を推進する ○生徒同士の協働的な学びを重視する ○対話を中心とした個別指導の充実をはかる ○活動や発表の様子は記録に残す	○全職員で指導にあたる ○小中合同での学習内容は海洋教育担当、各学部の取り組みは海洋担当及び担任が担当する ○海洋教育担当と企画委員会、担任の連携を密にする ○地域人材の活用や保護者・関係機関の協力をあおぐ	○観点別学習状況を把握するための評価規準の設定 ○ポートフォリオを活用した評価の充実 ○自己評価

主に関連する教科等			
国　語	○目的や場面に応じ、自分の思いや考えを伝え合う ○調べたことや考えたことを筋道立てて述べる ○他者との関わりなどによって自分の考えを豊かにしたり、深めたりする	道　徳	○生命の尊重　　○人間愛、感謝と思いやり ○個性や立場の尊重、謙虚、広い心 ○郷土愛、先人への尊敬と感謝　　○社会参画、公共の精神 ○自主・自律、自由と責任
数　学	○資料の活用の仕方、考え方、表現方法（グラフ・統計） ○ビーチクリーンでのペットボトルの集計、各国分別集計	家庭科	○魚の料理について学ぶ　○島の伝統食を学び調理する
社　会	○調査や資料から情報を調べ、まとめる ○社会的事象を多面的・多角的に考察する ○課題の解決に向けて選択・判断し、議論をする ○国土（排他的経済水域）に関する知識	美術	○海の絵　　○海に関するポスター等へ応募
		技術	○ICT 機器を活用してレポート作りや発表ツールを活用する ○漂流物でものづくり
理　科	○見通しを持って観察・実験等を行い、自然の事物・現象に対 して科学的に考察する ○海水・淡水の生き物に関する知識 ○生態系、食物連鎖について ○海水淡水化実験	体育	○泳力の向上　　○シュノーケリング ○安全への知識
		音楽	○海に関する楽曲を聴く
英　語	○海洋教育で行ったことを英語で発表	その他	○各教科の「海洋」に関することを積極的に取り入れていく ○SDGs（持続可能な社会の開発）の視点を取り入れた教育活動を意識し実践する

③ 小浜小中学校

教育関連法規
日本国憲法　教育基本法
学校教育法　同施行規則
学習指導要領

沖縄県の条例等
県教育主要施策

学校の教育目標
自ら進んで学習し　心豊かでたくましく
粘り強い小浜っ子

海洋教育全体テーマ
美しい小浜を守ろう　～より豊かな海へ～

小浜島憲章
私たちは健康で明るい美ら島活力とうるおいある豊かなかふぬ島づくりをめざし継承発展するために次の憲章を定めます
一、自然を守り明るく元気な島づくりに努めます
一、島の特性を生かした物づくりに努めます
一、きづなを大切に健康長寿いやしの島づくりに努めます
一、伝統行事と文化の継承発展に努めます
一、２１世紀社会に対応できる人材づくりに努めます

指導方法
①実社会・実生活に密着し,児童の主体性を尊重した課題設定
②個に応じた指導の工夫
③諸感覚を駆使する体験活動の重視
④協働的な学習活動の充実
⑤教科との関連的な指導の重視
⑥対話を中心とした個別支援の徹底
⑦言語活動による体験の意味の自覚化

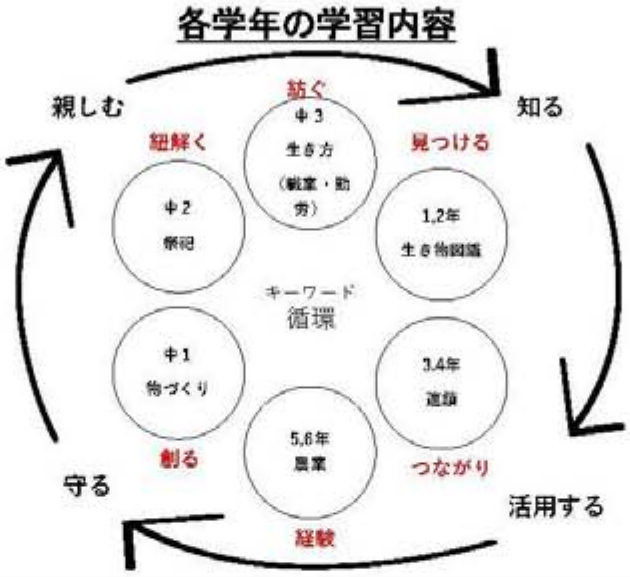
海洋教育目標
知・技）海の偉大さを知り、私たちは自然（海）に生かされていることに気づくことを通して、人と海との共生を目指した知識・技能を活用（実践）することができる。
思判表）実社会や実生活の中から問いを見いだし、探求的な活動を行う中で、自分と海のかかわりについて問い続けることができる。
主体的）ふるさとの自然に関心を持ち、他者と協働的に学習を進めながら、自然とのかかわり方について自律的に適切な行動ができる態度を養う。

児童生徒の実態
○小浜島の自然・伝統行事に興味を持ち島の子という意識を高く持っている。
○小学１年生から中学３年生まで縦の関係つくりの難しさがある。

海洋教育で目指す児童生徒像
海に親しみ、自分と海のかかわり方について問い続ける子

指導・支援体制
①総合担当者と各学年との指導計画,連絡調整
②専科の教師,養護,栄養,司書教諭など教師の協力,全教職員が一体となった指導
③図書資料,情報環境などの整備・充実
④学校図書室や図書館（市立・県立）などの社会教育施設や社会教育団体などの積極的連携活用
⑤校外における活動時の安全指導（保護者ボランティアとの連携・協力）

各学年の学習内容



児童・生徒に身につけさせたい資質・能力
1)自律的行動力
　主体性、実践力
2コミュニケーション力
　対人関係、他者理解
3)問い続ける力
　問題解決能力、発信力
4)つなげる力
　未来予測力　＊ESDの視点含む

生活科でつけたい資質・能力
・身近な人々や地域に関わり,集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度
・身近な自然と関わり自然を大切に遊びや生活を豊かにしようとする態度
・自分のよさや可能性を生かして意欲と自信を持って生活しようとする態度

各教科で育てたい資質・能力

国語
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成

社会
社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の育成

算数
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成

理科
自然に親しみ（事物・現象に関わり）理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を化学的に探究するために必要な資質・能力の育成

音楽
表現及び鑑賞の（幅広い）活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成

図工（美術）
表現及び鑑賞の（幅広い）活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成

家庭(小)
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成

技術・家庭(中)
生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方えを働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成

体育（保健体育）
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てる

特別の教科 道徳
道徳価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てる

特別活動
集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、自己の生活上の課題を解決することを通して資質・能力を育てる

外国語・外国語活動
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聴くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成

＜評価＞

観点	方法
・学習の状況や成果を見て,学習に対する態度,進歩の状況などを踏まえ評価 ・学習の結果でなく，そこに至るまでの経過を重視し,児童の学習状況に顕著な事項がある場合その特徴を評価	具体的な活動の観察,作品分析,ワークシート,ふりかえりシート 意識調査等を通じ小浜っ子のつけたい力を基準として評価

学期末・学年末における指導計画の評価見直しを行い指導と評価の一体化

総合的な学習の時間実施計画

小浜小学校

（主な活動テーマ及び授業時数）

月	【3･4学年　A年度】 地域と福祉(42)	【3･4学年　B年度】 観　光(42)	【5･6学年　A年度】 キャリア(42)	【5･6学年　B年度】 産　業(42)
4 5 6	**マップづくり（12）** ◇沖縄県からみた竹富町の位置や地理的特徴を知る ◇地域安全マップを作る ⇒通学路の安全性 ⇒危険予測能力	**小浜島の観光大使になろう** **(40)** 小浜の観光地は？ ◇自分の調べるテーマを決める ・シュガーロード ・うふだけ ・細崎の海（夕日） ・はいむるぶし ・嘉弥真島 ・お宮（結願祭）	**琉球、そして沖縄** **(40)** ◇活動計画を立てる ・どこに行く？ ・事前学習は？ ・心構え など ◇計画をもとに調べ学習を行う ・空港 ・首里城 ・平和祈念公園	**つながる働き** **(40)** ◇活動計画を立てる ・月ごとの内容 ・どう活動するか ・必要な知識は？ ・６次産業とは？ ◇一次産業を体験 ※まいふな一農園を活用する
7 8 9 10 11 12	**昔の小浜島へ** **タイムスリップ** **(40)** 昔の生活について ◇自分の調べるテーマを決める ・服装 ・食事 ・住まいの様子 ・遊び ・行事 ・一日の過ごし方 など	◇実地調査する ※その場所を調べた人が、案内役となり、仲間に紹介してみる ※五感でその地のよさを感じ、観光案内文に生かす 観光プログラムを作成する ◇対象を決める ・家族？ ・学生（ｶｯﾌﾟﾙ）？ ・高齢者？ ◇観光ルートと時間を考える ・日帰り or　宿泊	・平和の礎 ・美浜ｱﾒﾘｶﾝﾋﾞﾚｯｼﾞ ・美ら海水族館 ・こどもの国 ・県立博物館 ◇調べた事を新聞等にまとめる ・見どころ ・注意点　の共有 修学旅行に行こう ・信頼関係 ・公徳心 ・他者理解 ・郷土理解 を深める ◇まとめ ・これまでの沖縄 ・これからの沖縄	◇二次産業に挑戦（食品加工） ・二次産業？ ・何を作り出す？ ◇三次産業 ・三次産業？ ・何ができる？ ※一連の流れを体験をもって学習できるようにしたい 例） 一次　↓育てる 一次　↓収　穫 二次　↓加　工 三次　↓販　売 ※一次産業を中心に
1 2 3	◇おじぃおばぁに聞いてみよう	**小浜のお土産作り** **(12)** 例）→ストラップ →お守り →置物 など	**キャリアⅠ(好きなこと)** **(12)** ・叶えたい夢 ・自分の長所短所 ・他人の長所短所 ・仕事に就いた後、したいこと ※５年生	**キャリアⅡ（卒業）** **(12)** ・就職までの流れ ・学校、地域、先生仲間、親と自分のつながりを考える ⇒答辞へつなげる ※６年生

⇒Ｒ２年度は【　A年度　】　※学習発表会＆修学旅行の年はＡ年度　※運動会の年はＢ年度

竹富町立　小浜中学校

（主な活動テーマ及び授業時数）

月	【中学1年】環境・福祉(31)	【中学2年】観光・伝統（51）	【中学3年】職業・勤労(51)	【小・中合同】海洋教育(19)
4	◇体験型テーマ（11）			【　】内はSDGs的概念
5 6	**島を残す（31h）** ◇「物づくり」を通して、地域の先輩達の暮らしを知り、物づくりを体験する。 1 祭祀に使われる「もの」と「材料」【学級】 例）あぶる/竹笛/織物など 2調べる「もの」の決定、計画立案 ・材料となる植物 ・植物の分布 ・製作時期 ・名人について 3「もの」づくり体験 ※作業工程や感想をきちんとまとめる。	**島をつなぐ（33h）** ◇「芸能と伝統」の魅力を知るどもに、祭祀との関わりを知る。 1海と祭祀（教科書） ・海神祭について 2暮らしと行事 ・1年間の祭祀 ・旧暦との関係 ・海との繋がり ※ニライカナイ信仰 3小浜島の祭祀について調べる ・織物、芸能など 4伝統芸能「民謡」 ・歌詞について学ぶ（生活・歴史・文化） ・昔の暮らしを知る	**島を守る（22h）** ◇島内の「職」を知り人々の姿から島人としての生き方を学ぶ。 1職種調べ 【農業・観光・公務】 ※保護者アンケート ※ｼﾞｮﾌﾞｼｬﾄﾞｰ　など 調べる方法、内容などを決定する。 2島人の生き方を知る ・手仕事（織物） ・行事の運営 ・島への想い ※インタビュー ※マップの作成 1，2を踏まえて、インタビュー内容を考える	**オリエンテーション** （1h） 事前学習（帯タイム） **もずく採り体験（2h）** ・なぜ少ない？ ・調理法は？ 【相互性・有限性】 事前学習（帯タイム）
7	美ら海体験（サンゴ）	美ら海体験（サンゴ）	**職場体験学習(12h)** 【キャリア教育】 ①はいむるぶしホテル ②地域の企業 ※夏休み又は登校日に実施予定。	・ハーリーとは？
8 9	4「もの」と「祭祀」 ・祭祀での使用 ・つくる人の想い ・実際に使ってみよう	5伝統芸能体験 ・うたを学ぶ（あよー/ゆんた） ・踊りを学ぶ（小浜節）	**高校進学に向けて** 【キャリア教育】(7h) ・高校調べ ・進路先調べ・体験 ・進路決定 ・入試に向けて	**細崎ハーリー（4h）** ・込められた願い ・体験する 【多様性・連携性】
10	**結願祭(4h海洋)** ○衣裳・道具調べ ・使用する「もの」	**結願祭(4h海洋)** ○演目の種類、流れ ・「踊り・芸能」	**結願祭(4h海洋)** ○行事（祭祀）の運営 ・「担い手」	
11	**校内海洋サミットの事前準備** ・これまでの学習のふり返りとまとめ ・発表方法の決定、ポスターやプレゼン等の作成 ・発表練習など			
12	**校内海洋サミット【発信：未来へ残す・つなぐ・まもる】（2h）**			
1	**1年のふり返り(2h)** ・知った事（発見） ・知りたい事（課題） をまとめ・発表する。	**修学旅行(18h)** ・文化、歴史の比較 ・旅行場所の祭り ・郷土理解を深める	**1年のふり返り(2h)** ・知った事（発見） ・知りたい事（課題） をまとめ・発表する。	**サンゴ学習会（1h）**
2		**1年のふり返り(2h)** ・知った事（発見） ・知りたい事（課題） をまとめ・発表する。	**入試・卒業に向けて(10h)** ・面接対策 ・卒業へ向けて ・答辞の作成	
3				真保根御嶽清掃（1h）
	年間時数　50	年間時数　70	年間時数　70	

④ 波照間小中学校

海洋教育とは

海洋教育とは、「海と共に生きる」こと（海との共生）を基礎理念とする海洋に関する教育を指すものである。

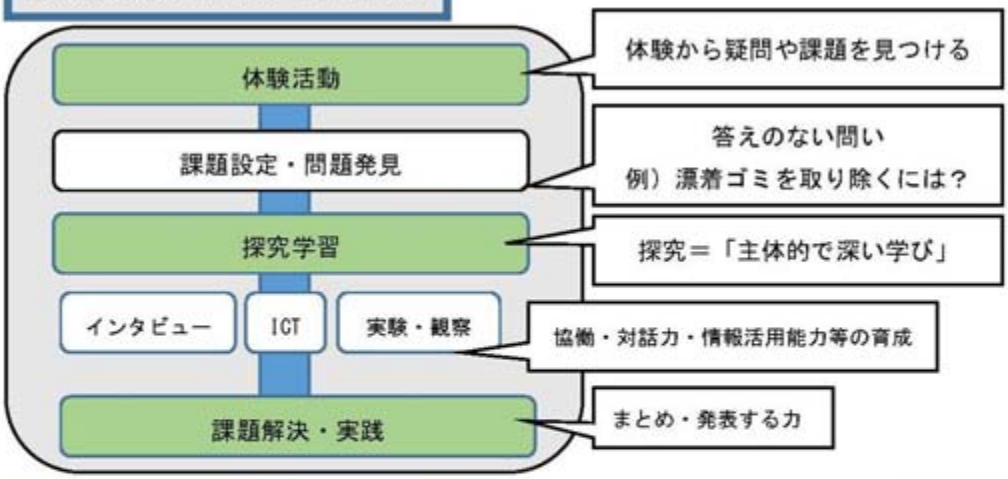
海洋教育のねらい

新学習指導要領の視点から

新学習指導要領の目指すところ	海洋教育
・育成すべき資質能力の三本柱 （課題発見力・課題解決能力・対話能力）	・身近な題材から地球規模まで題材が幅広い →問題解決学習や協働学習に適している。
・どのように学ぶか （アクティブラーニング・体験重視）	・海と人との共生、地域の海を守るには →主体的な学習 正解のない問いをもとにした探究学習
・何を学ぶか （新しい時代に必要なリテラシー）	・海の学びに必要な知識・技能 →海洋リテラシー（自然との接し方）
・社会に開かれた教育課程 （社会との協同・連携）	・地域に学ぶ・地域と学ぶ →郷土愛の育成（ふるさと学習） 地域課題の解決

新学習指導要領の学びに海洋教育は適している

海洋教育の単元デザイン例



海洋教育の４つの視点

海に親しむ　海を知る　海を守る　海を活用する

各教科・領域、道徳、特別活動の指導内容と関連させ、横断的な指導を行う。

⑤ 大原小学校

大原小学校　全体計画

【児童の実態】
本校の児童は、明るく元気があり、男女仲が良く、与えられたことは素直に取り組む良さがある。しかし、指示待ちの傾向があり、自ら課題を解決していく力の育成が必要である。

【地域の実態】
校区は、仲間川を中心とした自然に恵まれた環境にある。また、地域の基幹産業として、さとうきびや稲などの農業も盛んである。その他、畜産業・観光業も地域経済の柱となっている。

【学校の教育目標】
○よく考え、進んで学び合う子
○思いやりがあり、友だちと仲良くする子
○身体をきたえ、ねばり強く頑張る子
○地域の自然・歴史・文化を大切にし、郷土を愛する子

【総合的な学習の時間の目標】
探究的な見方・考え方を働かせ，地域の人，もの，ことに関わる総合的な学習を通して，目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し，自己の生き方を考えることができるようにするために，以下の資質・能力を育成する。
(1) 地域の人，もの，ことに関わる探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに，地域の特徴やよさに気付き，それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
(2) 地域の人，もの，ことの中から問いを見出し，その解決に向けて仮説を立てたり，調べて得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに，考えたことを，根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
(3) 地域の人，もの，ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。

【保護者の願い】
○豊かな人間関係をつくる
○基礎的・基本的な知識及び技能の定着
○思考力，判断力，表現力の育成
○健康で安全な生活

【地域の願い】
○自分たちの地域や文化，歴史等に誇りをもつ子
○豊かな人間性を身に付ける子
○地域と積極的に関わり，行事等にすすんで参加する子

【内容】＜目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力＞

学年			3年	4年	5年	6年
総合的な学習の時間			地域を愛し，地域の未来を創りだす大原っ子			
結の海科			我が島，我が町と海ぬ美しゃに誇りをもち、未来に羽ばたく大原っ子をめざして ～海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する学習を通して～			
探究課題			地域の自然とそれを守る人々	地域の自然環境と福祉	地域の産業	地域の歴史と平和
海洋教育内容			カーナ採り・ウムズナー捕り	マングローブや干潟の生き物について	豊かな自然環境と私たちの暮らし カヌー体験	豊かな自然環境と私たちの暮らし 巻き網体験
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能		地域の自然の素晴らしさやそれを守る人々の工夫が分かる。	地域の環境の現状や環境を保全する人々の工夫や努力が分かる。	地域の産業のよさと課題及びそれに携わる人々の願いが分かる。	地域の歴史と自分たちの生活との関わりが分かる。
			情報を比較・分類するなど，探究の過程に応じた技能を身に付けている。		情報を比較・分類・関連付けるなど，探究の過程に応じた技能を身に付けている。	
	思考力，判断力，表現力	課題の設定	自分の関心から地域についての課題を設定し，解決方法を考えて追究している。		地域の人々等の思いをふまえて課題を設定し，解決方法や手順を考え，見通しを持って追究している。	
		情報の収集	目的に応じた対象を決め，自分たちの身近なところから情報を集めている。		目的に応じて手段を選択し，情報を収集したり，必要な情報を選んだりしている。	
		整理・分析	問題状況における事実や関係を，事象を比較したり分類したり，数量などで客観的に比較したりして，特徴を見付けている。		視点を明確にして問題状況における事実や関係と，整理した情報を関連付けたり，多面的に考察したりして理解し，多様な情報の中にある特徴を見付けている。	
		まとめ表現	相手に応じてわかりやすくまとめ，表現している。		相手や目的，意図に応じ，工夫してまとめ，表現している。	
		振り返り	学習したことをふり返り，生活に生かそうとしている。		学習の仕方をふり返り，学習や生活に生かそうとしている。	
	学びに向かう力，人間性等	主体性	課題の解決に向け，目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。		課題意識をもって，自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。	
		協働性	課題解決に向けて，身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。		課題解決に向けて，他者と協働して探究活動に取り組み，その大切さに気付いている。	
		自己理解	自分のよさや自分にできることに気付いている。		探究活動を通して，自分の生活を見直し，自分の特徴を理解しようとしている。	
		他者理解	自分と異なる意見や考えがあることに気付き，相手の立場を理解する。		異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しながら，探究活動に取り組んでいる。	
		社会参画	自分と地域とのつながりに気付き，地域の活動に参加しようとしている。		探究活動を通して，自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする。	

【学習活動】
・地域の実態，児童の実態を踏まえ，探究課題を設定する。
・地域の人，もの，ことを生かした学習活動を行う。
・学習成果を表現する場を設定する。
・年間１テーマでの取組を基本とする。
・ビーチクリーンの実施

【指導方法】
・児童の課題意識を連続，発展させる支援と工夫を行う。
・個に応じた指導の工夫を行う。
・体験活動を重視する。
・各教科等との関連を重視した指導を行う。
・言語により整理分析したり，まとめ表現したりする学習を重視する。
・協働的な学習を充実させるための指導の工夫を行う。

【指導体制】
・全校指導体制を組織する。
・担当教諭や教頭を中心に校内の連絡調整と指導体制を確立する。
・学校図書館の整備・充実を図る。
・地域の教育資源をデータ化するとともに，日常的な関わりを行う。
・諸機関・派遣人材を活用する。

【学習評価】
・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。
・観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。
・個人内評価を重視する。
・指導と評価の一体化を充実する。
・授業分析による学習指導の評価を重視する。
・期末，学年末には指導計画を評価・改善し，次年度の計画に生かす。

【各教科等との関連】

国語	社会	算数	理科	生活科	音楽
・自分の思いや考えが相手に伝わるように表現する力 ・相手が伝えたい事柄を正確に理解する力 ・言語についての知識や理解，技能など	・社会的な事象に関心を持ち，進んで調べようとする態度 ・統計，資料，年表用を読み取り活用する力 ・観察や調査した事柄を関連付ける力など	・数量や図形に興味を持ち，調べたり試したりしながら課題を解決していこうとする力 ・目的に応じて表やグラフを使って表現する力 ・筋道を立てて考える力など	・自然事象に関心を持ち，進んで調べようとする態度 ・科学的に筋道立てて考え，問題を解決する力 ・見通しを持って観察，実験をする力など	・身近な人々，社会，自然と関わる力 ・自分自身や自分の生活について新たな気付きをする力 ・生活上必要な習慣や技能など	・音楽によって養われる感性や情操 ・感じたことを歌や楽器で表現する力など
家庭	**図画工作**	**体育**	**外国語活動・外国語**	**特別の教科　道徳**	**特別活動**
・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能 ・家庭生活をよりよくしようと工夫する力と実践的な態度など	・表現や鑑賞の活動等で養われた感性や情操 ・つくりだす喜び ・形や色，材料などから発想する力 ・材料や用具を用いる力など	・健康で安全な生活を営む実践力 ・たくましい心身など	・異なる言語や文化を理解する力 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度など	・課題解決に向けて主体的に活動するための道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度など	・話合いの仕方 ・集団をよりよく指定校とする意欲及び態度 ・自発的，自主的に活動を進める力など

⑥ 古見小学校

（１）これまで行われていたように、「体験」を重視した教科内容とし、児童が主体的に学ぶ主体的、対話的な学びとなるよう工夫する。
→「事前学習」、「必要感」、「ふりかえり」を大切にする

（２）児童に１年間の海洋教育をストーリーを持って編成する
→ストーリー案：
地域と共に、地域の中で行われる海洋教育を行うことで、故郷古見の自然や文化の素晴らしさに気づき、感謝の気持ちを持って、それを持続させるために自分達にできることを考え、実行する。

（３）これまで、総合的な学習や行事で行われていた海洋教育を、各教科のもつ特性を活かしながら教科として編成し進めていく。

＜教科編成のイメージ例＞

※教科名がない時数については、総合的な学習（中高学年）、生活科（低学年）からとする

	単元名		
4月	春の遠足：ハマウイ	11月	津波避難訓練
	事前指導（1）		事前指導（0.5）
	ハマウイ体験（2）		津波 避難訓練（1）
	まとめ・ふりかえり（1）		まとめ・ふりかえり（0.5）
5月	カーナ（もずく）採り	12月	学習発表会
	事前指導（1）		地域の踊り・歌（4）
	カーナ（もずく）採り 体験（2）		海洋体験劇（6）
	まとめ・ふりかえり（1）		まとめ・ふりかえり（1）
6月	カヌー（サップ）体験	1月	ゴミゼロ運動
	事前指導（1）		事前指導（1）
	カヌー（サップ） 体験（3）		ゴミゼロ 運動（2）
	まとめ・ふりかえり（1）		まとめ・ふりかえり（1）
9月	巻き網（魚垣）体験	2月	海洋教育発表
	事前指導（1）		発表準備（6）
	巻き網（魚垣） 体験（3）		地域への発表（2）
			他地域への発表（2）
	まとめ・ふりかえり（1）		まとめ・ふりかえり（1）

社会（２）より

特活（１）より

社会（２）より

体育（４）より

道徳（１）より

体育（３）より

国語（１）より

社会（３）より

国語（８）より

1，2年生活科 海洋教育　年間指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

一年の流れ

1年生　海洋教育：３０

【自然・環境】海洋体験　古見の海を好きになろう（１年：２０時間＋１３＜国語１０、体育２、特１＞ ）
○海や川での体験を通して、海やそこに住む生き物に興味を持つ
・４月：他の島を知ろう：生活６：いちねんせいになったら２，がっこうをたんけんしよう４
・５月：SUP 体験：生活２：がっこうをたんけんしよう＋（体２：水辺活動）　・５月カーナ採り：生活５：きれいなはなをさかせたい
・６月：ゴミゼロ運動：生活２:きせつとあそぼう＋（国６：わけをはなそう）
・11 月：地震津波避難訓練：生活１：＋特１）　・12 月：海洋教育講演会：生活２：じぶんでできるよ
・１月：海洋教育まとめ：生活２：もうすぐ２年生＋（国４：これはなんでしょう）

１年生：３０時間＋他教科１７時間＝４７時間

【地域】　伝統芸能に触れよう（１０時間＋４＜体育４＞）
○運動会や学習発表会で，成果を発表する。
☆エイサー：生活４：きせつとあそぼう＋（体育４：フォークダンス）
☆踊り・三線：生活６：きせつとあそぼう

2年生　海洋教育：３０

【自然・環境】海洋体験　古見の海を好きになろう（１年：２０時間＋１９＜国語１６、体育２、特１＞ ）
○海や川での体験を通して、海やそこに住む生き物にさらに興味を持つ
・４月：他の島を知ろう：生活６：２年生がはじまるよ２、町たんけんⅠ４
・５月：SUP 体験：生活２：町たんけんⅠ＋（体２：水辺活動）　・５月カーナ採り：生活５：生き物はかせになろう
・６月：ゴミゼロ運動：生活２:町たんけん＋Ⅰ（国１０：かんさつ名人になろう）
・11 月：地震津波避難訓練：生活１：町たんけん(2)＋特１）　・12 月：海洋教育講演会：生活２：町たんけん(2)
・１月：海洋教育まとめ：生活２：あそび名人になろう＋（国６：見たことかんじたこと）

２年生：３０時間＋他教科２３時間＝５３時間

【地域】　伝統芸能に触れよう（１０時間＋４＜体育４＞）
○運動会や学習発表会で，成果を発表する。
☆エイサー：生活４：町たんけんⅡ)＋（体育４：フォークダンス）
☆踊り・三線：生活６：町たんけんⅡ

総合的な学習の時間　年間指導計画　３・４年生（合計 70 時間）

【3年生目標】自ら課題を見つけ，他者と関わりながら，追究する態度を養う。
【4年生目標】自ら課題を見つけ，他者と関わりながら，喜んで追究する態度を養う。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

一年の流れ

【自然・環境】　チョウ博士になろう（２０時間）
○チョウの観察から生まれた疑問をテーマにして，調べ学習を行う。
☆課題を見つける→調べる→まとめる→発表会　　☆チョウ検定（７・１月）

【地域】　農業体験に出かけよう（１０時間）
〈稲作〉
○稲作の作業を体験や見学を通して，農作業の工夫や苦労を感じ取り，新聞等にまとめる。
☆田植え（２時間）→田草取り（２時間）→稲刈り（２時間）→精米（２時間）→まとめる
〈野菜〉
○野菜や草花を育てる活動を通して，栽培・生産活動の喜びを味わわせるとともに，理科の学習等で活用する。
☆教材園づくり→夏野菜の植え付け→草取り→収穫→秋・冬野菜の植え付け→草取り→収穫（２時間）

海洋教育：３０

【自然・環境】海洋体験　古見の海をもっと好きになろう（３年：２０時間＋１７＜国語１４、体育２、特１＞　４年２０時間＋２３＜国語２０、体育２，特１＞）
○海や川での体験を通して，海の恵みに感謝し，素晴らしい自然を守っていこうとする態度を養う。
・４月：他の島を知ろう（６）　・５月：SUP 体験（２＋体２：３，４年水辺活動）　・５月カーナ採り（５）
・６月：ゴミゼロ運動（２＋国：３年６時間：もっとしりたい友達のこと　４年 12 時間：新聞を作ろう）　・11 月：地震津波避難訓練（１＋特１）
・12 月：海洋教育講演会（２）　・１月：海洋教育まとめ（２＋国８：３年わたしたちの学校じまん　４年：調べて書そう、生活調査隊）

３年生：３０時間＋他教科２１時間＝５１時間
＜国語１４、体育６、特活１＞
４年生：３０時間＋他教科２７時間＝５７時間
＜国語２０、体育６、特活１＞

【地域】　伝統芸能に触れよう（１０時間＋４＜体育４＞）
○運動会や学習発表会で，成果を発表する。
☆エイサー（４時間＋体育４：３，４年フォークダンス）　☆踊り・三線（６時間）

【情報】　パソコンやタブレット PC の基本的な使い方に慣れよう！（１０時間）
○パソコンやタブレット PC を活用して，課題追究にせまる。
☆マウス等の基本操作　☆文字入力　☆インターネットを利用した情報収集　☆プログラミング

総合的な学習の時間　年間指導計画　５・６年生（合計 70 時間）

【5年生目標】見つけた課題を他者と関わりながら，多様な学び方で追究し，わかりやすく表現できる態度や能力を養う。
【6年生目標】見つけた課題を他者と関わりながら，多様な学び方で追究し，学んだことを生活の中で生かす態度や能力を養う。

月	4	5	6	7	8	9	11	12	1	2	3

一年の流れ

【自然・環境】　チョウ博士になろう！　（２０時間）
○チョウの観察や実験を通して生まれた疑問をテーマにして，調べ学習を行う。
☆課題を見つける→調べる→ まとめる→発表会　　☆チョウ検定（７月・１月）

【地域】　農業体験へ出かけよう！（１０時間）
<稲作>
○稲作の作業を体験や見学を通して、農作業の工夫や苦労を感じ取り、新聞等にまとめる。
☆田植え（２時間）→田草取り（２時間）→稲刈り（２時間）→精米（２時間）→まとめる
<野菜を育てよう>
○野菜や草花を育てる活動を通して、栽培、生産活動の喜びを味わわせるとともに、理科の学習等で活用する。
☆教材園づくり→夏野菜を植つけ→草取り→収穫→秋・冬野菜を植えつけ→草取り→収穫　（２時間）

海洋教育：３０

３０時間＋他教科２３時間
＝５６時間
<国語１６，体育３、特活１>

地域】地域の伝統芸能に触れよう（１０時間＋４<体育４>）
○運動会や学習発表会で成果を発表する。
☆エイサー（４時間＋体４：５，６年ノオークダンス）踊り・三線（６時間）

【自然・環境】海洋体験（２０時間＋１０<国語１６、体育２、特活１>）
○海や川での体験活動・調べ学習を通して，
・４月：他の島を知ろう（６）　・５月：SUP 体験（２＋体２：５，６年：水辺活動）　・５月：カーデ取り（２）
・６月：ゴミゼロ運動（２＋国１０：５年みんなが過ごしやすい町へ　６年：私達にできること）
・11 月：地高津波訓練（２＋特１）　・12 月：海洋教育講演会（２）
・１月：海洋教育まとめ（２＋国６：５年・あなたは、どう考える　６年・今、私は、ぼくは）

【情報】パソコンやタブレット PC を使って知りたいことを調べてみよう！（１０時間）
○パソコンやタブレット PC を活用して，課題追究にせまる。
☆インターネットを利用した情報収集
☆パソコンやタブレット PC を活用して新聞づくり等（プレゼンテーションソフトの活用）

⑦ 上原小学校

令和3年度　上原小学校　海洋教育全体計画

関係法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点
・竹富町海洋教育基本計画

本校の教育目標

豊かな自然と文化にめぐまれた「我が島（ぱかすま）西表」に生まれ育ったことを誇りにし、人や地域と関わり合いながら、

○進んで学びよく考える子（知）
○明るく思いやりのある子（徳）
○体をきたえ、ねばり強くやりぬく子（体）
○自然と文化を大切にし、郷土を愛する子（郷土愛）

を学校教育の目標の柱とし、島の未来から、日本の未来に思いをいだき、持続可能な社会の創り手となる児童を育成する。

○地域の特性
・島全体が国立公園に指定されており、イリオモテヤマネコなど、貴重な動植物・自然の宝庫である。
・海を仕事場とする保護者が多い。

○児童の実態
・活動的であり、何事にも積極的に取り組もうとしている。

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成。

・様々な情報を見極め、情報を再構築し、新たな価値につなげる力の育成。

・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成。

海洋教育のねらい

「竹富町海洋教育基本計画」より

～目指す子ども像～
我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りを持ち、
未来にはばたくぱいぬ島っ子

○海洋教育を通して、我が島、我が町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海（自然）と人が共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる子どもたちを育成する。

本校の海洋教育目標

○海に関わる体験活動を通して、ふるさとに誇りと愛着を持ち、持続可能な上原のまちづくりに関わっていこうとする意欲や態度を養う。
○海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考え行動しようとする。
○分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

結ぬ海科

各教科等と連携

「海と共生」する資質・能力の育成の視点から

○各教科等、指導内容と関連させ、横断的な指導を行う。
○SDGs の視点から、「学びの過程」や「学習成果」を家庭、地域に発信する。
○体験活動を重視した、学び方の育成を図る。

上原小　海洋教育の三大学習

「魚まき集会」「ビーチクリーン」「防災学習」

他校・地域との連携

○他校との連携
・西表島内の学校
・竹富町内の学校
・沖縄県外の学校
○地域人材・関係団体との連携

各学年の海洋教育の内容

1,2年	「西表島の海に親しもう」【海に親しむ】
3年	「海と人との関わりについて考えよう」【海を活用する】
4年	「海と山のつながりを考えよう」【海を知る】
5年	「西表島の海の環境を考えよう」【海を守る】
6年	「海と私たちの生活とのつながりを考えよう」【海を守る・海を知る・活用する】

教材化の工夫

○地域の教育資源の活用
・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりを持つため、校区や地域周辺の自然や人材・行事などの学習素材を調査し整備する。
・児童の学習活動に協力・支援できる人材を募り整理する。
○教材化の視点
・各教科等横断し、地域のひと・もの・ことへ子どもの課題意識がつながるように教材化する。
・各教科等で得た知識や技能を総合的に発揮できるように教材化する。
・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるよう教材化する。

問題解決的な学習における学習過程

（1）「課題をつかむ」段階
・教科学習の発展として。
・行事などへの主体的なかかわりから。
・生活の中の気づきから。
・様々な体験から。
（2）「計画・追究する」段階
・どこで、どのような方法で調べるか。
・だれに、どのようにして伝えるか。
（3）「まとめ・表現する」段階
・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
・まとめたことをもとに交流する。
・活動をふり返り見直す。

指導方法・指導体制の工夫

○学習形態の工夫
・学年の枠を超えた異学年での取り組み。
・課題別グループによる取り組み。
○指導体制の工夫
・地域人材の活用。
・近隣小学校との連携した交流学習。
○学習環境の工夫
・調べ学習に対応できる学校図書館の充実。
・町内や県外の学校との交流学習を推進するためのICT の整備・充実。
○評価の工夫
・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定。
・ポートフォリオを活用した指導の充実。
・自己評価、相互評価

令和２年度　上原小学校　「海洋教育」年間カリキュラム

１　単元名　　「まき網漁体験」「ビーチクリーン」「防災訓練」

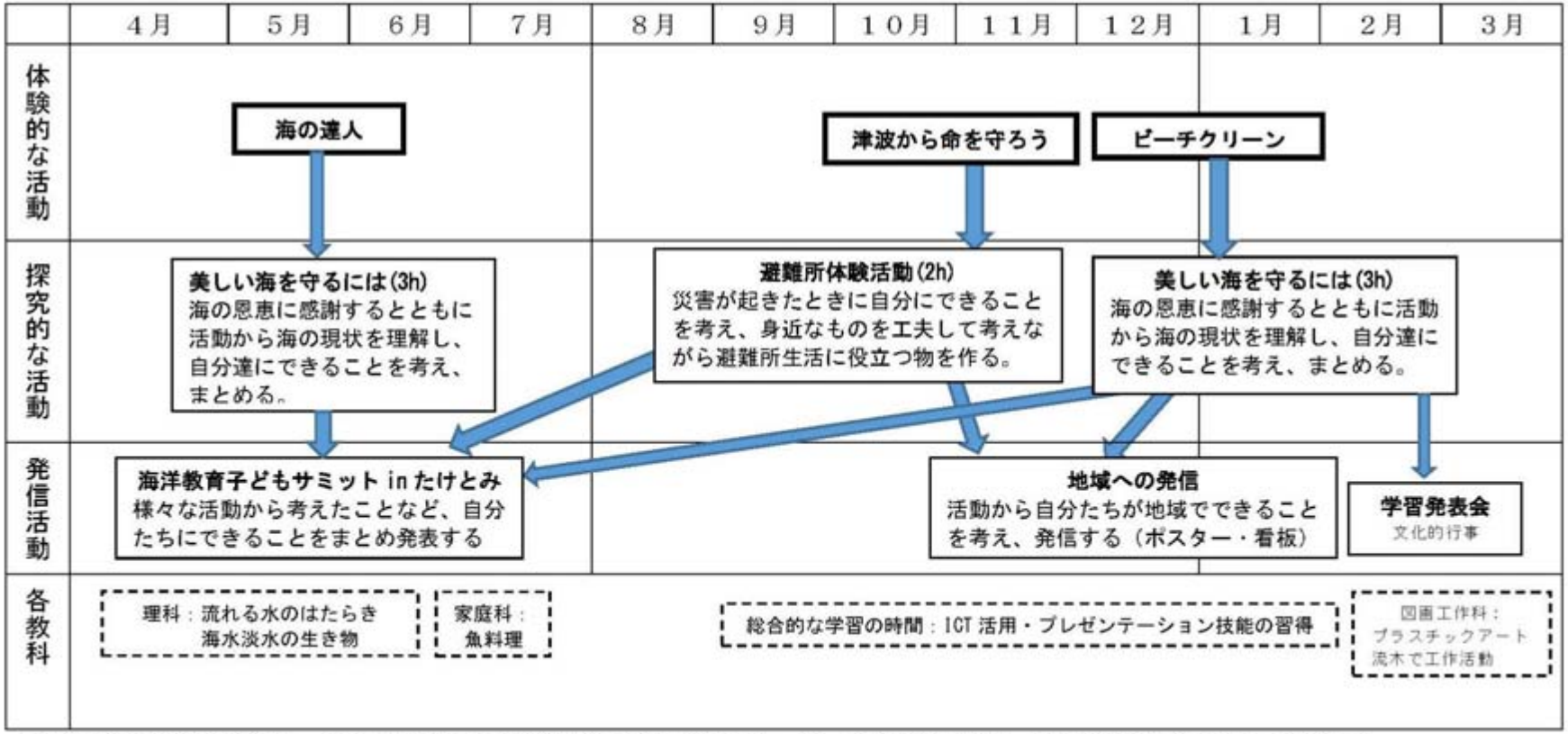
２　本校の海洋教育の目標

・海にかかわる体験活動を通して、ふるさとに誇りと愛着を持ち、持続可能な上原のまちづくりにかかわっていこうとする意欲や態度を養う。

・海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考え行動しようとする。

・分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

３　年間活動計画



海洋に関する共通教養：○サンゴ（石西礁湖）○海洋プラスチック　○地球温暖化　等は副読本を活用し学習する

⑧ 西表小中学校

令和3年度　西表小中学校　海洋教育全体計画

関係法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点
・竹富町海洋教育基本計画

本校の教育目標

小学校	中学校
○よく考え学習する子	○高い知性と創造力に富む生徒
○やさしく助け合う子	○豊かな感性と心情をもつ生徒
○ねばり強くがんばる子	○強い意志で行動する生徒
○明るく元気な子	○心身ともに健康な生徒

○地域の特性
・昔から住んでいる方々は海が身近なものであり、それが児童生徒にも引き継がれている。
・保護者は、海に携わる仕事をしている人が多い。
○児童の実態
・活発な児童が多い。
・海に慣れ親しんでいる児童が多い。

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成。
・様々な情報を見極め、情報を再構築し、新たな価値につなげる力の育成。
・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成。

海洋教育のねらい

「竹富町海洋教育基本計画」より

～目指す子ども像～
我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りを持ち、
未来にはばたくぱいぬ島っ子

○海洋教育を通して、我が島、我が町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海（自然）と人が共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる子どもたちを育成する。

各教科等と連携

「海と共生」する資質・能力の育成の視点から

○各教科等、指導内容と関連させ、横断的な指導を行う。
○SDGs の視点から、「学びの過程」や「学習成果」を家庭、地域に発信する。
○体験活動を重視した、学び方の育成を図る。

本校の海洋教育目標

○海の体験学習を中心として、稲作・和紙づくり学習や教科学習を通してふるさとの自然環境や産業について産業について関心を高め、郷土を愛する心を育む。
○海を愛し、未来に向けて守っていこうとする意欲を高め、自らの生活のあり方を考え行動する態度を養う。
○分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

他校・地域との連携

○他校との連携
・西表島内の学校
・竹富町内の学校
・沖縄県外の学校
○地域人材・関係団体との連携

西表校　海の体験学習
（ダイビング・刺し網・サバニ）

各学年の学習内容

共通科目 ／ 各学年	小学校1年・小学校2年	小学校3年・小学校4年	小学校5年・小学校6年	中学校1年・中学校2年・中学校3年
サンゴについて学ぼう 「海に親しむ・海を活用する」	刺し網漁　ダイビング（シュノーケル）体験 海のかくれんぼ・スイミー（国語） 生き物となかよくなろう（生活）	刺し網漁　ダイビング（シュノーケル）体験 すがたをかえる○○・うなぎのナゾを追って（国語） 水はどこから（社会）	刺し網漁、ダイビング（シュノーケル）体験、固有種が教えてくれること・海の命（国語）、暖かい土地のくらし・水産業のさかんな地域（社会）	刺し網漁、ダイビング（シュノーケル）体験、地域の食材を生かした調理をしよう（家庭科）、南西諸島の自然環境と生活や産業（社会）、鰹節―世界に誇る伝統食（国語）
海を守るために わたしたちにできること 「海を守る」	ビーチクリーン	ビーチクリーン ゴミの処理と利用（社会）	ビーチクリーン 持続可能な社会を目指して（家庭科） 生物のくらしと環境・人と環境（理科））	ビーチクリーン・3Rs In Germany and Japan（英語）、材料と対話して《漂流物アート》（美術） 環境に配慮した消費生活（家庭科）・プラスチックの特徴（技術）
海と祭祀 「海を知る」	節祭・海神祭・サバニ体験	節祭・海神祭・サバニ体験 郷土の伝統と文化と先人達（社会）	節祭・海神祭・サバニ体験	節祭・海神祭・サバニ体験 現代なつながる伝統と文化（社会）
津波から命を守ろう 「海を知る」	避難訓練	避難訓練 自然災害からくらしを守る（社会） 自然の中の水（理科）	避難訓練 自然催芽を訪ぐ・震災復興の願いを実現する政治（社会） 流れるみずの働き（理科）	避難訓練　様々な発電を方式（技術） 気象現象がもたらすめぐみと災害（理科） 暮らしやすいまちづくり（社会）

選択科目（学習活動を整理して、学校の実態にあったものから取り組む）

まわりの島はどんな島・わたしたちの身近な海に棲む生き物・海と共にクラス人たち・自然をいかした仕事・海に関わる施設に行ってみよう・山と海のつながりを考えよう

教材化の工夫

○地域の教育資源の活用
・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりを持つため、校区や地域周辺の自然や人材・行事などの学習素材を調査し整備する。
・児童の学習活動に協力・支援できる人材を募り整理する。
○教材化の視点
・各教科等横断し、地域のひと・もの・ことへ子どもの課題意識がつながるように教材化する。
・各教科等で得た知識や技能を総合的に発揮できるように教材化する。
・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるよう教材化する。

問題解決的な学習における学習過程

（1）「課題をつかむ」段階
・教科学習の発展として。
・行事などへの主体的なかかわりから。
・生活の中の気づきから。
・様々な体験から。
（2）「計画・追究する」段階
・どこで、どのような方法で調べるか。
・だれに、どのようにして伝えるか。
（3）「まとめ・表現する」段階
・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
・まとめたことをもとに交流する。
・活動をふり返り見直す。

指導方法・指導体制の工夫

○学習形態の工夫
・学年の枠を超えた異学年での取り組み。
・課題別グループによる取り組み。
○指導体制の工夫
・地域人材の活用。　・近隣小学校との連携した交流学習。
○学習環境の工夫
・調べ学習に対応できる学校図書館の充実。
・町内や県外の学校との交流学習を推進するための ICT の整備・充実。
○評価の工夫
・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定。
・ポートフォリオを活用した指導の充実。
・自己評価、相互評価

⑨ 白浜小学校

白浜小学校　海洋教育全体計画

関係法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点
・竹富町海洋基本計画

本校の教育目標

○よく考え、進んで学習する子
○心豊かで思いやりのある子
○心身ともに健康でたくましい子

○地域の特性
・島全体が国立公園に指定されており、イリオモテヤマネコなど、貴重な動植物・自然の宝庫である
・漁業関係に従事する保護者が多い

○児童の実態

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成

・様々な情報を見極め、情報を再構成し、新たな価値につなげる力の育成

・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成

海洋教育のねらい

「２１世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より

○海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する学習を推進する。

本校の海洋教育目標

○ふるさとの自然に関心をもち、海の環境保全という視点で協同的な学習の良さを知る。

○海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考える。

○分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

各学年の海洋教育の内容
「海に親しむ」「海を知る」「海を活用する」「海を守る」の４つの視点から学習活動を整理し取り組む

１・２年生	３・４年生	５・６年生
【海に親しむ】 生き物探しや海に入る、砂浜で遊ぶなどの体験活動を通して、海に親しみ進んで海に関わる。 【海を知る】 地域の海に生息する生き物や海の乗り物に関心を持ち、進んで調べることができる。 【海を守る】 漂流物や排水の海洋生物への影響を考え、海の自然を守っていこうとする気持ちをもつ。 【海を利用する】 地域の人々の生活や仕事、季節の変化に気付き、海とかかわり暮らす人々と触れあおうとする。	【海に親しむ】 海の生き物を育てたり海にかかわる施設の見学をしたりして、生き物の生育環境や海洋環境にかかわる人々に関心をもち、進んで海に関わろうとする。 【海を知る】 海の生き物の特徴やその生育環境の違い、海洋環境にかかわる歴史や文化、その地域による違いに関心をもち、比較しながら調べようとする。 【海を守る】 海洋環境を保全する活動を通して、自然環境の状況や自分たちの生活が自然環境に及ぼす影響が分かり、進んで海洋環境の自然を守ろうとする。 【海を利用する】 地域の特徴を生かした海の産業や日本各地は海によってつながっていることを知り、海とともに生活しようとする。	【海に親しむ】 海洋環境の自然や文化に親しんだり、海洋環境にかかわる多様な仕事に触れたりして、進んで海に関わろうとする。 【海を知る】 海の生き物の多様性や生態系、海洋環境の歴史や文化に関心を持ち、関連づけたり推測したりして調べることができるようにする。 【海を守る】 地球規模の環境問題や国際的な取り組みを調べ、環境保全のために自分達でできることを考え、様々な方法で取り組むことができるようにする。 【海を利用する】 日本の水産業や海運、海洋支援について調べ、人々の豊かな生活を支えてきた海の様々な役割やきまりを理解するとともに、世界の国々と強調しながら海を利用とする。

【海に親しむ】	【海を知る】	【海を活用する】	【海を守る】
・海の体験 ・山の体験 ・生き物観察	・ビーチクリーン ・海洋生物 ・外部人材(エコツーリズム)の活用	・魚料理を学ぶ ・プラスチックアート	・ビーチクリーン ・啓発活動

指導方針	指導体制	評価計画
○学習内容によって学習形態を変える ○児童の主体的・探究的な学習を推進する ○児童同士の協働的な学びを重視する ○活動や発表の様子は記録に残す	○全職員で指導にあたる ○合同での学習内容は海洋教育担当、各学年の取り組みは担任が指導にあたる。 ○海洋教育担当と連絡調整を密にする ○地域人材や関係機関、保護者の協力をあおぐ	○観点別学習状況を把握するための評価規準の設定 ○ポートフォリオを活用した評価の充実 ○自己評価

主に関連する教科等

国　語	○目的や場面に応じ、自分の思いや考えを伝え合う ○調べたことや考えたことを筋道立てて述べる ○他者との関わりなどによって自分の考えを豊かにしたり、深めたりする	道　徳	○生命の尊重　○人間愛、感謝と思いやり ○個性や立場の尊重、謙虚、広い心 ○郷土愛、先人への尊敬と感謝　○社会参画、公共の精神 ○自主・自律、自由と責任
算　数	○資料の活用の仕方、考え方、表現方法（グラフ・統計） ○問題解決の過程を振り返り、評価・改善する	家庭科	○エコバッグ作成　○魚の料理について学ぶ
社　会	○調査や資料から情報を調べ、まとめる ○社会的事象を多面的・多角的に考察する ○課題の解決に向けて選択・判断し、議論をする。	図　工	○流木印鑑作り　○ビーチプラスチックアート
		総　合	○ ICT 機器を活用してレポート作りや発表ツールを活用する
理　科	○見通しを持って観察・実験等を行い、自然の事物・現象に対する知見を深める。 ○海水・淡水の生き物に関する知識	その他	各教科の「海洋」に関することを積極的に取り入れていく

令和３年度　白浜小学校　「海洋教育」年間カリキュラム

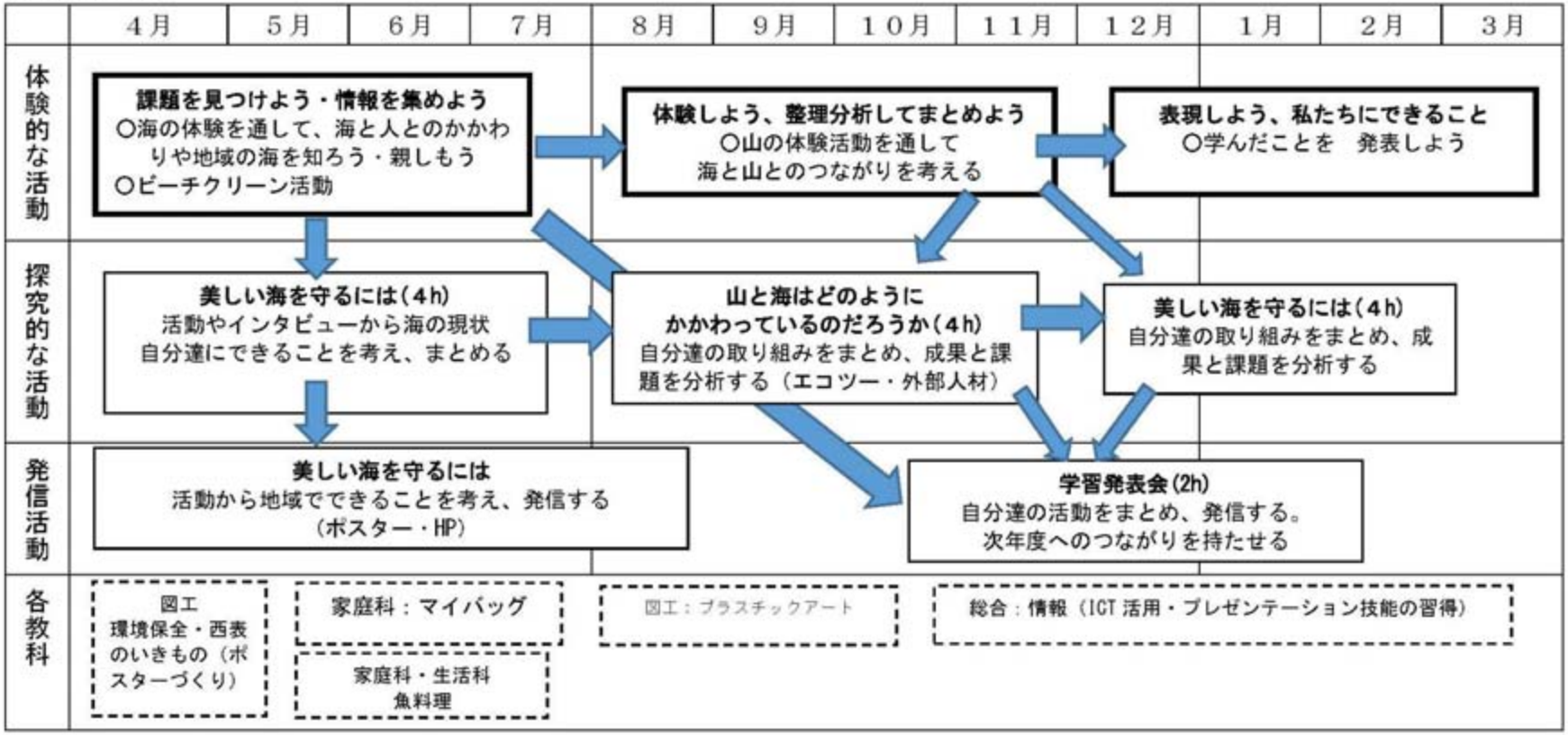
１　単元名　　「～ふるさとの海、山、川を知り、今できることを考えよう～」　総合：海洋教育３０ｈ

２　実践のねらい

・海や山の自然、人との深いかかわりについて関心を持ち、地域の海を知り、進んで海の自然を守ろうとする意欲を高める。

・地域教育資源を活用した海洋教育を通して，西表に住む人々が海洋とどのように関わり、どのような恵みを受けているか理解を深めることで児童の「課題追求能力」「表現力」を育成する。

３　年間活動計画



※竹富町作成副読本を活用し、授業を展開する。

⑩ 船浮小中学校

令和3年度　船浮小中学校　海洋教育全体計画

関係法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点
・竹富町海洋教育基本計画

本校の教育目標

豊かな自然と文化にめぐまれた「陸の孤島　船浮」に生まれ育ったことを誇りにし、人や地域と関わり合いながら、

〇進んで学び、考えぬく子
〇明るく思いやりのある子
〇元気でねばり強い子

を学校教育の目標の柱とし、島の未来から、日本の未来に思いをいだき、持続可能な社会の創り手となる児童生徒を育成する。

〇地域の特性
・島全体が国立公園に指定されており、イリオモテヤマネコなど、貴重な動植物・自然の宝庫である。
・海を仕事場とする地域の方々が多い。

〇児童生徒の実態
・何事にも一生懸命に取り組もうとする反面、大勢の前では萎縮してしまう面がある。

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成。

・様々な情報を見極め、情報を再構築し、新たな価値につなげる力の育成。

・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成。

海洋教育のねらい

「竹富町海洋教育基本計画」より

～目指す子ども像～
我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りを持ち、
未来にはばたくぱいぬ島っ子

〇海洋教育を通して、我が島、我が町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海（自然）と人が共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる子どもたちを育成する。

本校の海洋教育目標

〇海に関わる体験活動を通して、ふるさとに誇りと愛着を持ち、持続可能な社会づくりに関わっていこうとする意欲や態度を養う。
〇海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考え行動しようとする。
〇分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

各教科等と連携

「海と共生」する資質・能力の育成の視点から

〇各教科等、指導内容と関連させ、横断的な指導を行う。
〇SDGs の視点から、「学びの過程」や「学習成果」を家庭、地域に発信する。
〇体験活動を重視した、学び方の育成を図る。

船浮小学校の海洋教育の内容

1,2年	「船浮の海に親しもう」【海に親しむ】
3年	「海と人との関わりについて考えよう」【海を活用する】
4年	「海と山のつながりを考えよう」【海を知る】
5年	「船浮の海の環境を考えよう」【海を守る】
6年	「海と私たちの生活とのつながりを考えよう」【海を守る・海を知る・活用する】

船浮中学校の海洋教育の内容

1年	「船浮の海を知ろう」【海を知る】
2年	「船浮の海に学ぼう」【海を活用する】
3年	「船浮の海の未来を考えよう」【海を守る】

他校・地域との連携

〇他校との連携
・西表島内の学校
・竹富町内の学校
・沖縄県外の学校
〇地域人材・関係団体との連携

教材化の工夫

〇地域の教育資源の活用
・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりを持つため、校区や地域周辺の自然や人材・行事などの学習素材を調査し整備する。
・児童の学習活動に協力・支援できる人材を募り整理する。
〇教材化の視点
・各教科等横断し、地域のひと・もの・ことへ子どもの課題意識がつながるように教材化する。
・各教科等で得た知識や技能を総合的に発揮できるように教材化する。
・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるよう教材化する。

探究の過程

(1)課題の設定
体験的な活動等を通じて課題意識をもつ
(2)情報の収集
必要な情報を取り出したり、収集したりする
(3)整理・分析
収集し、取り出した情報を整理、分析する
(4)まとめ・表現
気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

指導方法・指導体制の工夫

〇学習形態の工夫
・学年の枠を超えた異学年での取り組み。
・課題別グループによる取り組み。
〇指導体制の工夫
・地域人材の活用。
・近隣小学校との連携した交流学習。
〇学習環境の工夫
・調べ学習に対応できる学校図書館の充実。
・町内や県外の学校との交流学習を推進するための ICT の整備・充実。
〇評価の工夫
・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定。
・ポートフォリオを活用した指導の充実。
・自己評価、相互評価

船浮小学校　総合的な学習の時間　年間活動計画　　（ふるさと２５時間　環境３０時間　情報１５時間）

		４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
３年	ふるさと	地域の動物について調べよう ヘチマ・ゴーヤーを育てよう			夏野菜を食べよう	エイサー	社会科見学について		社会科見学まとめ	社会科見学まとめ	野菜の手入れ	収穫祭をしよう（苗作り）
		海の体験学習　・海神祭			エイサー		節祭・豊年祭			太鼓・踊り		
	環　境	課題を見つけよう・情報を集めよう				体験しよう・まとめよう				表現しよう・私たちにできること		
	情　報	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	パソコンの基本的な使い方を知ろう			ローマ字入力をしてみよう				短い文を打ってみよう		
４年	ふるさと	地域の植物について調べよう ヘチマ・ゴーヤーを育てよう			夏野菜を食べよう	エイサー	島の仕事について 社会科見学について		社会科見学まとめ	社会科見学まとめ	野菜の手入れ	収穫祭をしよう（苗作り）
		海の体験学習　・海神祭			エイサー		節祭・豊年祭			太鼓・踊り		
	環　境	課題を決めよう・情報を集めよう				体験しよう・まとめよう				表現しよう・私たちにできること		
	情　報	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	フォントを工夫して文章を作ろう			名刺や年賀状を作ろう				インターネットを使ってみよう		
５年	ふるさと	船浮地域の特色 夏野菜を育てよう			夏野菜を食べよう	エイサー	船浮の魚はどこへ（刺し網漁）			職場見学まとめ	野菜の手入れ	収穫祭をしよう（苗作り）
		・海の体験学習　・海神祭			エイサー		節祭・豊年祭			太鼓・踊り		
	環　境	課題を見つけよう・情報を集めよう				体験しよう・整理、分析してまとめよう				表現しよう・私たちにできること		
	情　報	インターネットを使って知りたいことを調べてみよう				職場見学について調べよう			職場見学のまとめ	ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄを使ってみよう	電子メールを使ってみよう	情報化社会を生きる
６年	ふるさと	白浜地域の歴史 夏野菜を育てよう			夏野菜を食べよう	エイサー	沖縄の文化・伝統について			職場見学まとめ	野菜の手入れ	収穫祭をしよう（苗作り）
		海の体験学習　・海神祭			エイサー		節祭・豊年祭			太鼓・踊り		
	環　境	課題を見つけよう・情報を集めよう				体験しよう・整理、分析してまとめよう				表現しよう・私たちにできること		
	情　報	インターネットを使って知りたいことを調べてみよう				職場見学について調べよう		修学旅行について	修学旅行のまとめ	ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄを使ってみよう	電子メールを使ってみよう	情報化社会を生きる

令和3年度 「総合的な学習の時間」 活動計画

学期	月	週	1年（50時間）	2年（50時間）	2・3年合同（20時間）	3年（50時間）	
テーマ			地域を知ろう	地域に学ぼう	海洋学習	地域の未来を考えよう	
評価の観点			◇知識及び技能　◇思考力，判断力，表現力等　◇学びに向かう力，人間性等				
1学期	4月	1					
		2					
		3					
		4	・総合学習オリエンテーション （1時間）			・総合学習オリエンテーション （1時間）	
	5月	1	ゴールデンウィーク				
		2	【地域の恵みに向けての活動例】 【海】イダの浜　ビーチコーミング 【海】海の体験学習 【海】サンゴの産卵を調べよう		【星降る島編】 （小中合同） ・鹿川調査 （5月T） ・南十字星観察 （6月T）		【自分の未来に向けての活動】 （活動例） ・上級学校（大学・高校）調べ。
		3					
		4					
	6月	1		【修学旅行事前学習】			
		2	平和学習				
		3		（活動例）・長崎自主学習の計画 ・ホテルでの過ごし方 ・九州の文化的遺産についての調べ学習 （※適宜、西表中学校と合同で行う） ・【海】日本の産業革命を支えた炭鉱 ・【海】長崎と造船の歴史	サミット発表練習	【修学旅行事前学習】 （2年生と合同）	・9月の高校訪問に向けての準備 ・地域の先輩方の進路決定 （進路講演等）
		4	地域の恵み体験				
	7月	1	【地域の恵みのふり返り】		海洋教育サミット発表 （西表）		
		2			【風を捕まえる編】 ・風力発電制作 ～夏休み ・試運転		
		3					
2学期	9月	1		【修学旅行事前学習】 （運動会練習と並行に行う） （※適宜、西表中学校と合同で行う）	【風を捕まえる編】 ・発電量測定 ・充電試験 ・電化製品に接続 ・台風時収納		高校訪問 （保護者対応）
		2					
		3					【地域の未来に向けての活動例】 ・【海】地域の海の魅力を発信しよう
		4					
	10月	1	【地域を活かすに向けての活動例】 【海】海を活かした発電体験 【海】船浮全体の電気から エコな発電を考えよう				
		2		修学旅行（行事）		修学旅行	
		3		【修学旅行のふり返り（6時間）】 （※適宜　西表中学校と合同で行う）	サミット発表準備	【ふり返り】 （2年生と合同）	【進路・将来についての探求活動例】
		4					
	11月	1			世界自然遺産サミット発表 （国頭）		
		2	【地域を活かすのふり返り】		【評価とふりかえり】		
		3	学習発表会準備（4時間）	学習発表会準備（4時間）		学習発表会準備	
		4					
	12月	1	学習発表会（1時間）	学習発表会（1時間）		学習発表会	
		2	【評価とふりかえり】	【職場体験に向けての活動例】 ・就職するためには何が必要か？ ・書類の作成 ・電話の応対、マナー ・【海】世界の海で仕事する （キャリア講演） ・【海】GODAC　出前授業 （海を調べる仕事の紹介）		・進路面接指導 ・10年後の将来設計	
		3					
3学期	1月	2					
		3					
		4		職場体験			
	2月	1		【職場体験のふり返り　活動例】 ・新聞づくり パワーポイント			
		2					
		3					
		4		【評価とふりかえり】		【評価とふりかえり】	

【留意事項】
・2年の職場体験は総合学習でカウント。2・3年の修学旅行（4泊5日）は行事・教科カウントで行う。
・12月に学習発表会があり，総合（修学旅行等）の発表を行う。
・【海】が海洋教育につながる活動例である。海洋教育は7月2日に竹富町海洋教育サミット（西表島開催）・11月に世界自然遺産サミット（国頭開催）での発表がある。

⑪ 鳩間小中学校

令和3年度　鳩間小中学校　海洋教育全体計画

関係法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点
・竹富町海洋教育基本計画

本校の教育目標

心豊かに　かしこく　たくましく

海洋教育のねらい

海の自然や文化と人の共生にむけた人材育成
「竹富町海洋教育基本計画」より

～目指す子ども像～
我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りを持ち、
未来に羽ばたくぱいぬ島っ子

海洋教育を通して、我が島、我が町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海（自然）と人が共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる子どもたちを育成する。

○地域の特性

・人口は40名ほどで、島には商店もなく、住民が協力し合って生活している。
・観光業など、海と関わる仕事をする人が多い。
・漂着した発泡スチロールを油化するプラントがある。

○児童の実態

・素直で明るいが、積極性に欠ける一面も見られる。

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成。

・様々な情報を見極め、情報を再構築し、新たな価値につなげる力の育成。

・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成。

本校の海洋教育目標

○海に関わる体験活動を通して、第二のふるさととしての鳩間島に誇りと愛着を持ち、持続可能な島づくりに関わっていこうとする意欲や態度を養う。
○海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活を振り返り、よりよく行動しようとする児童・生徒を育成する。
○体験で得た疑問や課題に対し、自ら調べ、考え、解決しようとする態度を育成する。
○よりよく表現する力や発表する力を育成する。

総合的な学習の時間

各教科等と連携

「海と共生」する資質・能力の育成の視点から
○各教科等、指導内容と関連させ、横断的な指導を行う。
○SDGs の視点から、「学びの過程」や「学習成果」を家庭、地域に発信する。
○体験活動を重視した、学び方の育成を図る。

鳩間小中学校　海洋教育

『ヌチヌユヌ　ヌチドゥ　タカラ』

「ホシスナ採集」「グルクン釣り体験」「島巡り」「海岸清掃」

各学年の海洋教育の内容

小・中学年	「竹富町の海に親しもう」【海に親しむ】
小・高学年	「海と人との関わりについて学ぼう」【海を知る】
中・1年	「竹富町の海洋環境について学ぼう」【海を知る】
中・2年	「海で起こっている問題について考えよう」【海を知る】
中・3年	「豊かな海を守るためにできることを考えよう」【海を守る】
全学年	「豊かな海の恵みに感謝しよう」【海を活用する】

他校・地域との連携

○他校との連携
・竹富町内の学校
○地域人材・関係団体との連携
・美ら島自然学校
・鳩間公民館
・地域おこし協力隊

指導方針	指導体制	評価計画
○児童・生徒の主体的・探求的な学習を推進する。 ○活動や発表などは記録に残す。 ○活動や学習を通して、異年齢の交流や協働の機会とする。 ○体験的、対話的な学習を主とする。 ○発達段階に応じた学習内容、学習方法で指導を行う。	○ねらいを共通理解し、全職員で指導する。 ○海洋教育担当、総合的な学習の担当が中心となり、計画・連絡調整を行う。 ○地域や公民館、関係機関との連携を密にする。	○発表やポートフォリオを活用した評価の充実 ○自己評価

令和3年度 鳩間小中学校 「海洋教育」年間カリキュラム

1 テーマ『ヌチヌユヌ ヌチドゥ タカラ』

2 単元名 「ホシスナ採集」「グルクン釣り体験」「海岸清掃」「カヌー体験」「島巡り」

3 本校の海洋教育の目標

(1)海に関わる体験活動を通して、第二のふるさととしての鳩間島に誇りと愛着を持ち、持続可能な島づくりに関わっていこうとする意欲や態度を養う。

(2)海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活を振り返り、よりよく行動しようとする児童・生徒を育成する。

(3)体験で得た疑問や課題に対し、自ら調べたり考えたりし、解決しようとする態度を育成する。

(4)よりよく表現する力や発表する力を育成する。

4 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的活動	ホシスナ採集 カヌー体験	グルクン釣り体験		海岸清掃①			島巡り体験	地震津波訓練	海岸清掃②			海岸清掃③
探求的活動	ホシスナの生態について疑問を持ったことを調べる。	サンゴや海の生態について学び、考える。		海洋ゴミについて学び、問題について考える。		訪れる島について調べる。	島を巡って疑問を持つ。		SDGsについて学ぶ。			海洋ゴミが引き起こす問題について調べる。
まとめ・発表	・プレゼン作成 ・発表会			海洋教育こどもサミット				・訓練の反省・感想 ・学習発表会				海洋ゴミの原因や問題をまとめ、自分のできることについてまとめる。
各教科	生活科 理科 総合 技術	国語（お礼の手紙） 理科・生活科・総合	美術 技術	総合		学活 総合	総合	技術	道徳 学活 社会			総合

⑫ 大原中学校

大原中学校　海洋教育全体計画

関係法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点
・竹富町海洋基本計画

本校の教育目標

豊かな心を持ち、自ら考え判断し、実践できる知・徳・体の調和のとれた生徒の育成

○地域の特性
・島全体が国立公園に指定されており、イリオモテヤマネコなど、貴重な動植物・自然の宝庫である。
・海や川、山などに関係する、観光業や農業の仕事が多い。
○生徒の実態
・意欲的にボランティア活動に参加している。
・海に慣れ親しんでいる生徒とそうでない生徒がいる

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成
・様々な情報を見極め、情報を再構成し、新たな価値につなげる力の育成
・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成

海洋教育のねらい
「竹富町海洋教育基本計画」より

～目指す子ども像～
我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りを持ち、未来にはばたくぱいぬ島っ子

○豊かな自然や海洋文化を舞台とした海洋教育を通して、自分の住む島や他の島々への理解を深め、誇りと郷土愛を育む。また、国際的な課題などにも関心を持ち、自ら考え行動できる力を身につけ、人と海（自然）が共生できる持続可能な地域・社会づくりに貢献できる子どもたちを育成する。

本校の海洋教育目標

○海（自然）に関わる体験活動を通して、ふるさとの自然に関心をもち、西表島や世界の環境保全に関わっていこうとする意欲や態度を養う。

○海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考え行動しようとする。

○分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

各学年の育成を目指す資質・能力

1年生	2年生	3年生
【知識及び技能】 ・課題解決に向けて学んだことを活用しようとすることができる。 【思考力、判断力、表現力】 ・実社会や生活、仕事から自分で課題を見つけることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の意志で目標をもって課題解決に向けて取り組もうとしている。	【知識及び技能】 ・探究活動を通して身につけた経験や知識を整理し、実生活との関連性を考えながら活用しようとすることができる。 【思考力、判断力、表現力】 ・実社会や実生活から自分で課題を見つけて計画を立て、情報を集め、選択・処理している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の意志で目標を持ち、自他の良さを生かしながら協力して課題解決に向けて取り組もうとしている。	【知識及び技能】 ・探究活動を通して身につけた経験や知識を多面的に捉え、考えを具現化し、実生活においての課題を解決するために活用しようとすることができる。 【思考力、判断力、表現力】 ・実社会や実生活から課題を見つけ、解決に向けた計画を立て、情報を集め処理・選択し、まとめて表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の意志で目標を持ち、自他の良さを生かしながら協力し、実社会・実生活の課題解決に向けて進んで取り組もうとしている。

各学年の学習内容

「海に親しむ」「海を知る」「海を活用する」「海を守る」

の４つの視点から学習活動を整理し取り組む

「海に親しむ」

・西表島横断　　・生き物観察
・体験ダイビング　　・

1年	2年	3年
「海を知る」 ・各教科による関連授業 ・海に生息する生き物に関する学習 ・海の安全について学ぶ	**「海を活用する」** ・魚の料理を学ぶ ・フォトフレーム作り	**「海を守る」** ビーチクリーン 生徒会活動 ボランティア活動

指導方針

○学習内容によって学習形態を変える
○生徒の主体的・探究的な学習を推進する
○生徒同士の協働的な学びを重視する
○対話を中心とした個別指導の充実をはかる
○活動や発表の様子は記録に残す

指導体制

○地域学習、表現力の育成では、全教師で指導にあたる
○合同での学習内容は海洋教育担当、各学年の取り組みはその学年担任・副担任が担当する
○海洋教育担当と企画委員会、各学年の担任・副担任の連絡調整を密にする
○保護者や地域人材、関係機関の積極的な活用を図る（十分な配慮を行うこと）

評価計画

○ポートフォリオを活用した評価の充実
○個人内評価の重視
○指導と評価の一体化の充実

主に関連する教科等

国　語	○目的や場面に応じ、自分の思いや考えを伝え合う ○調べたことや考えたことを筋道立てて述べる ○他者との関わりなどによって自分の考えを豊かにしたり、深めたりする
数　学	○資料の活用の仕方、考え方、表現方法（グラフ・統計） ○問題解決の過程を振り返り、評価・改善する
	１年社会〔地理〕
道　徳	○生命の尊重　　○人間愛、感謝と思いやり ○個性や立場の尊重、謙虚、広い心 ○郷土愛、先人への尊敬と感謝　　○社会参画、公共の精神 ○自主・自律、自由と責任
家庭科	１年〔食生活〕 ・持続可能な食生活を目指して ・生活の課題と実践 ２年〔衣生活・住生活・消費生活〕 ・持続可能な衣生活を目指して ・住まいと気候風土の関わり ・災害への対策（災害に備えてできること） ・持続可能な住生活を目指して ・省エネルギーと持続可能な社会 ・持続可能な消費生活を目指して ３年〔家族・家庭と地域〕 ・地域での協働を目指して
音　楽	○地域の音楽　歌詞から情景を考える

社　会	・日本の姿（日本の領域） ・人々の生活と環境 ・世界の諸地域（ヨーロッパ州の自然環境） ２年社会〔地理〕〔歴史〕 ・日本の地域的特色 ・日本の諸地域（近畿地方） ・近世（江戸時代の産業） ３年社会〔公民〕 ・貧困解消と環境保全
理　科	１年理科 ・身のまわりの物質とその性質(プラスチック) ・動き続ける大地(地震、地震への備え) ２年理科 ・天気とその変化(気象現象がもたらすめぐみと災害) ３年理科 ・化学変化とイオン(中和・塩) ・力のはたらきか方(水圧) ・地球と私たちのみらいのために （環境保全・時速可能な社会)) ○見通しを持って観察・実験等を行い、自然の事物・現象に対して興味関心を持つ。 ○海水・淡水の生き物に関する知識 ○生態系、食物連鎖について
英　語	○海の現状や学んだことを発信する ○自分の島（西表）について紹介する （島の海や川等の紹介含む）
美　術	○フォトフレーム作り
技　術	○水生生物を育てる技術を知ろう ○ ICT 機器を活用してレポート作りや発表ツールを活用する
体　育	○健康と環境 ・水の役割と飲料水の確保 ・生活排水の処理 ・環境の汚染と保全 ○心配蘇生法
その他	各教科の「海洋」に関することを積極的に取り入れていく

⑬ 船浦中学校

船浦中学校　海洋教育全体計画

関係法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・県及び竹富町教育委員会の方針、目標、指導の重点
・竹富町海洋基本計画

社会の要請

・様々な変化に対して他者と協働して解決する力の育成

・様々な情報を見極め、情報を再構成し、新たな価値につなげる力の育成

・SDGs の視点から、持続可能な社会の担い手の育成

本校の教育目標

○自ら学び、考え、実践する生徒
○心豊かで、自他を尊び、思いやりのある生徒
○健康で、根気強く、たくましい生徒

○地域の特性
・島全体が国立公園に指定されており、イリオモテヤマネコなど、貴重な動植物・自然の宝庫である
・海を仕事場とする保護者が多い

○生徒の実態
・活動的である
・海に慣れ親しんでいる生徒とそうでない生徒が混在している

海洋教育のねらい

「２１世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より

○海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する学習を推進する。

本校の海洋教育目標

○ふるさとの自然に関心をもち、海の環境保全という視点で協同的な学習の良さを知る。

○海を愛し、未来に向けて守っていこうとする態度を養い、自らの生活のあり方を考える。

○分析、まとめ、表現などの学習活動を取り入れ、目的や意図に応じて表現する力、発表する力を高める。

OCEAN EDUCATION

各学年の海洋教育の内容

１年生	２年生	３年生
【課題解決に必要な知識及び技能】 ・課題解決に向けて学んだことを活用しようとすることができる。 【主体的に課題を解決する思考力、判断力、表現力】 ・実社会や実生活の中から自分で課題を立てることができる。 【学びに向かう力や人間性】 ・身近な人と積極的に関わり、関心を持とうとする。	【課題解決に必要な知識及び技能】 ・探究活動を通して、既に身につけた知識や体験を自分で取捨・選択、整理することができる。 【主体的に課題を解決する思考力、判断力、表現力】 ・実社会や実生活の中から自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析する力。 【学びに向かう力や人間性】 ・身近な人々や自分の住む地域に関心を持ち、課題を見つける。	【課題解決に必要な知識及び技能】 ・学んだことを活用し、実生活においての課題を解決に必要な知識や技能を身につけられる。 【主体的に課題を解決する思考力、判断力、表現力】 ・実社会や実生活の中から自分で課題を立て、情報を集め整理・分析し、まとめる力。 【学びに向かう力や人間性】 ・身近な人々や自分の住む地域に関心を持ち、課題を見つけ、より良い解決に向けて積極的に社会に参画する。

学習内容

「海に親しむ」「海を知る」「海を活用する」「海を守る」

の４つの視点から学習活動を整理し取り組む

「海に親しむ」

・筏くだり　・生き物観察
・体験ダイビング

１年	２年	３年
「海を知る」	**「海を活用する」**	**「海を守る」**
・マングローブや干潟の生き物に関する学習 ・ビーチクリーン ・海の安全について学ぶ	・魚の料理を学ぶ ・プラスチックアート	ビーチクリーン ３Ｒ活動 生徒会活動

指導方針	指導体制	評価計画
○学習内容によって学習形態を変える ○生徒の主体的・探究的な学習を推進する ○生徒同士の協働的な学びを重視する ○対話を中心とした個別指導の充実をはかる ○活動や発表の様子は記録に残す	○全職員で指導にあたる ○合同での学習内容は海洋教育担当、各学年の取り組みはその学年担任・副担任が担当する ○海洋教育担当と企画委員会、各学年の担任、副担任の連絡調整を密にする ○地域人材や関係機関、保護者の協力をあおぐ	○観点別学習状況を把握するための評価規準の設定 ○ポートフォリオを活用した評価の充実 ○自己評価

主に関連する教科等

国　語	○目的や場面に応じ、自分の思いや考えを伝え合う ○調べたことや考えたことを筋道立てて述べる ○他者との関わりなどによって自分の考えを豊かにしたり、深めたりする
数　学	○資料の活用の仕方、考え方、表現方法（グラフ・統計） ○問題解決の過程を振り返り、評価・改善する
社　会	○調査や資料から情報を調べ、まとめる ○社会的事象を多面的・多角的に考察する ○課題の解決に向けて選択・判断し、議論をする ○国土（排他的経済水域）に関する知識
理　科	○見通しを持って観察・実験等を行い、自然の事物・現象に対 ○海水・淡水の生き物に関する知識 ○生態系、食物連鎖について
英　語	○海の現状や学んだことを発信する　○ To save the earth
道　徳	○生命の尊重　○人間愛、感謝と思いやり ○個性や立場の尊重、謙虚、広い心 ○郷土愛、先人への尊敬と感謝　○社会参画、公共の精神 ○自主・自律、自由と責任
家庭科	○エコバッグ作成　○魚の料理について学ぶ
美術	○流木印鑑作り　○ビーチプラスチックアート
技術	○ ICT 機器を活用してレポート作りや発表ツールを活用する
その他	各教科の「海洋」に関することを積極的に取り入れていく

（２）学習指導案（指導の手引き）

学習指導案については、学校によってはまだ明確に定まっていないことや１つのプログラムに関しても学校ごとに取り組み方が異なることから、ここでは基準となる副読本の 10 テーマに関する指導の手引きを取りまとめる。

①サンゴについて学ぼう

テーマ	**サンゴマップを作ろう（サンゴ礁の観察）**	
ねらい	様々なサンゴの色や形などをもとに分類、記録することを通して、海の豊かさについて学習する	
カテゴリー	☑海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	□海を活用する
実施学年とカテゴリー		
教科と時数	総合３	
場所	サンゴ礁	
準備物	サンゴカラーチャート、デジカメ	
学習の流れ	**副読本ページ数：サンゴ礁について** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ（総合３・美術２）** １，つかむ：「サンゴ礁について学ぼう」 （１）学習課題について把握する（サンゴマップを作る） （２）サンゴ礁・サンゴについての基礎知識 （３）サンゴの種類 ２，体験する：「サンゴを見付けてマップを作ろう」 （１）サンゴ礁の広がる浜でサンゴカラーチャートをもとにサンゴの観察 １２色相環の各色と一致する色を海で協力しながら見つけ、海で見つけた１２色を完成させる（美術２） （２）マップ上にサンゴの色・形状を記録していく （３）できれば、４月・７月、A 浜・B 浜などと二点比較ができるようにする **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（１）** ３，まとめる：サンゴマップをつくる ４，いかす：サンゴマップが地域や観光にどのように役に立つか考える ５，ふりかえり	
外部連携	個人	

②海を守るために私たちにできること（ビーチクリーン）

テーマ	**地域の海をきれいにしよう（ビーチクリーン）**	
ねらい	ビーチクリーンを通して、現在の課題や解決について考え、海との持続可能な付きあい方を探る。	
カテゴリー	□海に親しむ	☑海を知る
	☑海を守る	□海を活用する
実施学年とカテゴリー	全学年	
教科と時数	総合３　道徳１　美術４	
場所	地域の海岸	
準備物	トン袋、軍手、ビニール袋（ビーチクリーン） 画用紙、ボンド（美術）	
学習の流れ	**副読本ページ数：ビーチクリーンについて** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→内容をつかむ（総合１）** １，つかむ：「海洋ごみ・漂着ごみの問題について知る」 （１）海洋ごみの現状について考える （２）自分たちの暮らしとごみの問題について考える ２，ビーチクリーン （１）漂着ごみをごみの種類ごとに分類しながら拾っていく （２）ペットボトルのラベルのバーコードをもとに国別に記録する **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（道徳１　美術４）** ３，まとめる：ごみについて特徴やその原因について考える ４，いかす：プラスチックごみをもとにモザイクアートを作成し、海の現状を伝える作品を作る ５，ふりかえり	
外部連携	エコツーリズム協会	

③海と祭祀

テーマ	**祭祀１（結願祭）**	
ねらい	国指定重要無形文化財となった結願祭と小浜集落との関わりに関心を持ち、結願祭に参加することを通して地域やその歴史を知り、郷土を愛する心を育てる	
カテゴリー	□海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	☑海を活用する
実施学年とカテゴリー	１～４年（活用する）、５～６年（知る、活用する）、中１～中３（	
教科と時数	事前２、参加４、事後４	
場所	小浜島	
準備物		
学習の流れ	**副読本ページ数（P61～）** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習（総合２）** つかむ：竹富町の祭祀について （１）祭祀クイズに答えよう（祭祀の概要） （２）学習課題を決めよう （３）結願祭 **Ⅱ、実際の体験　（総合４）** 体験する：結願祭に参加しよう （１）１週間の稽古（リハーサル） （２）当日（嘉保根御嶽） （３）３日目に来年に向けた祈願納め **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（総合４）** まとめる：各学年の視点に沿って、絵日記としてまとめる いかす：これからの島の在り方、自分ができることについて考える ふりかえり	
外部連携	個人、小浜公民館	
※副読本作成時の参考文献、HP	『　竹富町史　小浜島　』	

テーマ	**祭祀２　（海神祭について調べてみよう）** 海洋教育～ふるさとの海、山、川を知り、今できることを考えよう～
ねらい	・地域の自然、歴史、文化、環境についてその魅力を再発見し、郷土愛を育む。 ・地域行事への参加を通して、伝統文化を継承していくことの大切さや誇りについて考える機会とする。 ・海や山の自然、人との深いかかわりについて関心を持ち、地域の海を知り、進んで海の自然を守ろうとする意欲を高める。

	・地域教育資源を活用した海洋教育を通して，西表に住む人々が海とどのように関わり、どのような恵みを受けているか理解を深めることで児童の「課題追求能力」「表現力」を育成する。	
カテゴリー	☑海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	□海を活用する
実施学年とカテゴリー	１～２年生（海に親しむ） ３～６年生（海を知る）	
教科と時数	総合的な学習、生活科	
場所	西表、白浜	
準備物	・水筒　・白い帽子　・濡れてもいい服　・着替え　・バインダー　・メモ帳 ・カメラ　・副読本	
学習の流れ	**Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ** １つかむ：「海神祭ってなんだろう」 （１）学習課題をきめよう （２）学びの手引き ・海神祭の歴史、目的などを調べてみよう ２体験する：「西表島白浜の海神祭に参加してみよう」 （１）ハーリーまでにどんなことをするの？？ （２）ハーリー当日はどんなことをするの？？ （３）白浜に住んでいる人たちの声を聞いてみよう。 **Ⅱ、実際の体験** **海神祭の学校対抗ハーリーに参加してみる** ・前日までに一度、ハーリーの練習をして、エークの持ち方や姿勢などを学ぶ ・当日の朝、ハーリー大会に参加→ふりかえり **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、（いかす）、ふりかえり** ３まとめる：「海神祭新聞をつくってみよう」 ４いかす：　「海神祭を未来へ持続させるために」 ５ふりかえり ６さらに広げる　「他の地域の海神祭との違いはあるのかな？」 ※４，６については学校の実態に応じて行う	
外部連携	白浜公民館	
※副読本作成時の参考文献、HP	『八重山探検隊レポート５　八重山のハーリー』 著者：八重山探検隊（入嵩西千鶴子、飯田泰彦、飯田あかね） 発行：2014 年（平成 26 年）６月１日 『竹富町制施行５０周年記念誌』平成 10 年６月発行	

④津波から命を守ろう

テーマ	**津波から命を守ろう**	
ねらい	津波についての基礎知識や八重山地方における津波の歴史などを学び、避難訓練を通して津波から命を守るためにどのような行動をとるとよいか体験的に学ぶ。	
カテゴリー	□海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	□海を活用する
実施学年とカテゴリー	１～６年（知る）	
教科と時数	１～２年（生活３・健康安全１）、３～６年（総合３・健康安全１）	
場所	教室・上原小学校避難場所	
準備物	防災バッグ、防災頭巾	
学習の流れ	**副読本ページ数（P90）** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ（生活２、総合２）** １，つかむ：「津波について学ぼう」 （１）学習課題を決めよう （２）津波についての基礎知識 （３）明和の大津波 ２，体験する：「避難訓練をしよう」 （１）地震が起きたら！ （２）避難をしよう！ （３）とにかく高いところへにげよう！ **Ⅱ、実際の体験　（健康安全１）** 沖縄県広域地震・津波避難訓練に参加避難訓練を行う。 ・各学校から第二次避難場所へ避難をする→全体会→ふりかえり **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（生活１、総合１）** ３，まとめる：防災新聞をつくってみよう ４，いかす：家族防災会議を開こう ５，ふりかえり	
外部連携	地区消防分団、個人	
※副読本作成時の参考文献、HP	・最新科学が明かす 明和大津波　後藤和久・島袋綾野 ・防災システム研究所「津波石」 http://www.bo-sai.co.jp/yaeyamajisintsunami.html ・津波Ｃｈ「津波のメカニズム」 http://weathernews.jp/tsunami/html/mechanism/index.html	

⑤まわりの島ってどんな島？

テーマ	**島巡り「まわりの島はどんな島？」**	
ねらい	竹富町の他の島々への理解を広げ、それぞれの自然や歴史、伝統文化などに気づき、竹富町民としての誇りと郷土愛を育む。	
カテゴリー	☑海に親しむ	□海を知る
	□海を守る	☑海を活用する
などの実施学年とカテゴリー	小１～６年（親しむ）（活用する） 中１～３（親しむ）（活用する）	
教科と時数	遠足・集団宿泊的行事５　学活１　児童会・生徒会１　国語２	
場所	竹富町の島	
準備物	遠足に必要な物	
学習の流れ	**副読本ページ数（P91-104）** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ（学活１、児童会１）** １，つかむ：「自分が住む島の特徴を発見しよう」 （１）学習課題を決めよう 「他の島のここが見たい、知りたい、やってみたいを考えよう」（個人） 「学級で遠足に行く場所を決めよう」（学級） 「学校全体で遠足に行く場所を決めよう」（児童会又は生徒会） 「その島で何をするのか計画を立てよう」（児童会又は生徒会） **Ⅱ、実際の体験　（遠足・集団宿泊的行事５）** ２，体験する：「〇〇島へ遠足に行こう」 （１）乗り物の安全な利用方法を学ぼう （２）島を周ろう （３）島の方の話を聞こう **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（国語２）** ３，まとめる：〇〇島を訪れて分かったこと新聞にまとめよう ４，いかす：〇〇島の観光案内パンフレットを作ろう ５，ふりかえり	
外部連携	八重山観光フェリー、又は、安栄観光、個人	
※副読本作成時の参考文献、HP	竹富町 HP https://www.town.taketomi.lg.jp/ 竹富町観光協会 https://painusima.com/	

⑥私たちの身近な海に棲む生き物

テーマ	**⑥－１（カーナ採りに出かけよう）**	
ねらい	カーナ採り体験を通して、カーナやその調理法を体験的に知る。	
カテゴリー	☑海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	☑海を活用する
実施学年とカテゴリー	低学年（親しむ）、中学年（知る）、高学年（活用する）	
教科と時数	生活科４、総合３、家庭科１	
場所	前良川河口付近、古民家カフェ	
準備物	水筒、帽子、はさみ、カーナを入れる袋、雨具、着替え 服装：濡れてもいい服（長袖、長ズボン）、マリンシューズ	
学習の流れ	**副読本ページ数（P　　）** **Ⅰ　副読本を利用：事前学習→体験の内容をつかむ** １つかむ：「カーナってなんだろう」 （１）学習課題をきめよう （２）学びの手引き ２体験する：カーナ採りに出かけよう （１）海や川に適した服装・道具を確認しよう （２）カーナの採り方を確認しよう （３）カーナを調理してみよう **Ⅱ　実際の体験** カーナ採り体験をする **Ⅲ　副読本を利用：まとめ、いかす、ふりかえり** ３　まとめる：カーナ新聞を作る ４　いかす：限りある自然を未来へ持続させるために ５　ふりかえり	
外部連携	個人：地域の詳しい方	
※副読本作成時の参考文献、HP	・最新科学が明かす 明和大津波　後藤和久・島袋綾野 ・防災システム研究所「津波石」 http://www.bo-sai.co.jp/yaeyamajisintsunami.html ・津波Ｃｈ「津波のメカニズム」 http://weathernews.jp/tsunami/html/mechanism/index.html	

<table>
<tr><td>テーマ</td><td colspan="3">⑥－２（ウムズナー）
西表島にある豊富な資源、食の大切さを知り、海への感謝の気持ちをもとう</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="3">西表島の海で捕れる豊富な資源を知り、捕る体験活動、そして実際に調理し食することで、食の大切さ、海への感謝の気持ちをもつ。</td></tr>
<tr><td>対象学年とカテゴリー</td><td colspan="3">３年（海に親しむ）
３年（海を守る）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">６分野（仮）</td><td>□A 生活・健康安全</td><td>□B 産業・観光・国際</td><td>□C 歴史・文化</td></tr>
<tr><td>□D 地球・物質</td><td>□E 生命</td><td>□F 環境・循環・持続</td></tr>
<tr><td>教科（時間数）</td><td colspan="3">総合的な学習の時間（１６）</td></tr>
<tr><td>関連教科</td><td colspan="3">理科</td></tr>
<tr><td>場所</td><td colspan="3">後良川、由布島周辺</td></tr>
<tr><td>学習の流れ</td><td colspan="3">Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ
１つかむ：「うむずなーについて知ろう」
（１）学習課題を決めよう
（２）学びのてびき
（３）講師への依頼
２体験する：「うむずなー捕り体験に出かけよう」
（１）海に適した服装・道具の確認
（２）うむずなーを捕るための餌、しかけについて知ろう
（３）見つけ方・捕り方を知ろう
（４）調理の仕方を知ろう
Ⅱ、実際の体験：保護者や地域の方の協力のもと、体験活動を行う
・餌となるカニを捕る→しかけを作る→ウムズナーを捕る→下ごしらえ
調理の仕方を学ぶ→実際に食する
Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり
３まとめる：体験活動新聞をつくってみよう
４いかす：海の生き物を未来へ持続させるために自分にできることは何か考える
５ふりかえり</td></tr>
<tr><td>体験時の準備物</td><td colspan="3">児童：水筒、帽子、手袋、マリンシューズ
学校：網、タンク、しかけセット、バケツ、救急セット、調理道具等</td></tr>
<tr><td>外部連携</td><td colspan="3">個人</td></tr>
</table>

テーマ	**⑥－３．私達の海に住む生き物（まき網漁を体験しよう！）**	
ねらい	・竹富町に生息する魚や危険生物、まき網漁についての基礎知識を学ぶ。 ・とれた魚で調理をし、海の恩恵に感謝をしながら海の環境を守っていこうとする心情を高める。	
カテゴリー	☑海に親しむ	□海を知る
	□海を守る	☑海を活用する
実施学年とカテゴリー	１～６年（親しむ・活用する）	
教科と時数	１～２年　１６時間（国語１・生活８・音楽１・図工４・道徳１・特活１） ３～４年　１９時間（国語２・社会２・理科２・音楽１・道徳１・総合９・特活２） ５～６年　２０時間（国語１・社会２・理科２・音楽１・家庭科２ 道徳１・総合９・特活２）	
場所	教室・活動しやすい海岸	
準備物	長そでの服・長そでのズボン・マリンシューズ・帽子・軍手・たも・水筒 【終了後】着がえ・タオル・帰りのくつ・ふくろ２～３枚	
学習の流れ	**副読本ページ数（　　）** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ（学校の実態に応じて）** １，つかむ：「竹富町に住んでいる海の生き物について調べよう」 （１）学習課題を決めよう （２）学びのてびき （３）竹富町の海に住む主な生き物 （４）竹富町の海に住む危険生物 ２，体験する：「まき網漁を体験しよう」 （１）安全に活動するために （２）まき網漁をしよう！ （３）とった魚をさばいてみよう！ **Ⅱ、実際の体験　（１・２年：生活３・特活１）** **（３～６年：総合３・特活１）** 地元の海に詳しい方の指導のもと、まき網漁体験を行う ・スタート地点でめあての確認・安全指導→まき網漁体験→ふりかえり **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（学校の実態に応じて）** ３，まとめる：まき網漁新聞をつくってみよう ４，いかす：とれた魚で調理をしよう ５，ふりかえり	
外部連携	個人	

テーマ	**⑥－４　ホシスナの採集に行ってみよう！**	
ねらい	ホシスナなどの有孔虫についての学習と採集を通して、その生態や海の環境について学ぶ。	
カテゴリー	□海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	☑海を活用する
実施学年とカテゴリー	小学生（知る）、中学生（活用する）	
教科と時数	総合７、美術２	
場所	鳩間島　外若浜・学校	
準備物	水筒、タオル、ホシスナを入れる網、まがり鎌、着替え、バスタブ、バケツ、土嚢袋、ホシスナを洗うための網、スコップ、水管 服装：濡れてもいい服、マリンシューズ、帽子、軍手	
学習の流れ	**Ⅰ　副読本（P123～127、141～145）を利用：事前学習→体験の内容をつかむ** １つかむ：「ホシスナってなんだろう」 （１）学習課題をきめよう （２）ホシスナの生態について学習しよう ２体験する：ホシスナ採集に出かけよう （１）海に適した服装・道具を確認しよう （２）ホシスナを採集してみよう （３）ホシスナを活用しよう **Ⅱ　実際の体験** ホシスナ採集体験、洗浄作業をする。 **Ⅲ　副読本を利用：まとめ、いかす、ふりかえり** ３　まとめる：ホシスナ新聞又はプレゼンテーションを作る ４　いかす：豊かな海を守るために何ができるか考えて実行する ホシスナを活用した製品やパッケージを考える ５　ふりかえり	
外部連携	美ら島自然学校	
※副読本作成時の参考文献、HP	・沖縄美ら島財団　総合研究センター　編集「ホシスナのふしぎ」 ・gooddo: http://gooddo.jp/magazine/	

⑦海と共に暮らす人たち

テーマ	**海人の仕事**	
ねらい	海人の仕事を通して海を大切にする気持ちや、海と共に生きる人たちはどのように海を活用しているのかを知り、自分達が海に対してできることを考える。	
カテゴリー	□海に親しむ	□海を知る
	☑海を守る	☑海を活用する
実施学年とカテゴリー	小学全学年 中学全学年	
教科と時数	総合４、理科２、国語２	
場所	上原小学校避難場所	
準備物	防災バッグ、防災頭巾	
学習の流れ	**副読本ページ数（P90）** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ（総合２）** つかむ：「海人の仕事について知ろう」 （１）学習課題を決めよう （２）海人の仕事についての基礎知識 （３）海の危険生物について知ろう **Ⅱ、実際の体験　（総合２、理科２）** 体験する：「刺し網漁をしよう」 （１）刺し網漁の仕組みについて知り、網から魚を外してみよう！ （２）捌きながら、捕れた魚の種類や構造を知ろう！ （３）捕れた魚を美味しく食べよう！ **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（国語２）** ３，まとめる：体験したことを新聞にまとめよう。 ４，いかす：そのほかの海人の仕事を知ろう ５，ふりかえり	
外部連携	南ぬ風水産、個人	
※副読本作成時の参考文献、HP	・沖縄県漁協協同組合　　http://www.jf-okinawa.jp/	

⑧自然をいかした仕事

テーマ	**自然をいかした仕事**　①川でカヌー・サップをしてみよう	
ねらい	カヌーやサップの安全なのり方を学ぶと共に、その魅力や竹富町の自然の素晴らしさを知り、それが仕事に繋がることを学ぶ。	
カテゴリー	☑海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	☑海を活用する
実施学年とカテゴリー	低学年（親しむ)、中学年（知る)、高学年（活用する）	
教科と時数	体育３，生活科１、総合１	
場所	前良川、後良川	
準備物	水筒、帽子、着替え 服装：濡れてもいい服（長袖、長ズボン)、マリンシューズ、ライフジャケット	
学習の流れ	**副読本ページ数（P　　）** **Ⅰ　副読本を利用：事前学習→体験の内容をつかむ** １つかむ：「竹富町の自然の魅力やそれをいかした仕事について」知っていることを話そう （１）学習課題をきめよう （２）学びの手引き ２体験する：カヌー・サップの安全な乗り方を学ぼう （１）カヌーやサップに適した服装・道具を確認しよう （２）安全な乗り方やきまりを確認しよう （３）川の自然を確認しよう **Ⅱ　実際の体験** インストラクターの指導の下、カヌー・サップ体験をする **Ⅲ　副読本を利用：まとめ、いかす、ふりかえり** ３　まとめる：カヌー・サップ体験を新聞やポスターなどにまとめる ４　いかす：限りある自然を未来へ持続させるためにできることを考える ５　ふりかえり	
外部連携	・カヌー：Natures Delight Iriomote　（代表者：今村弘明） ・サップ：IRIOMOTE St. East（代表者：鈴木一慶）	
※副読本作成時の参考文献、HP	・特定非営利活動法人マングローバル　https://www.manglobal.or.jp ・竹富町観光協会　https://painusima.com ・竹富町役場　https://www.town.taketomi.lg.jp	

テーマ	**⑧－２　竹富町の海でシュノーケルをしよう**	
ねらい	シュノーケリングを通して、竹富の海（海洋）に直接触れることで、自然に関する興味関心を高め、自然の魅力や危険性を学ぶ。	
カテゴリー	☑海に親しむ	□海を知る
	□海を守る	□海を活用する
実施学年とカテゴリー	１～６年（親しむ）	
教科と時数	総合３	
場所	竹富町の海	
準備物	帽子・タオル・水筒・着替え・水着 マリンシューズ・シュノーケル・水中メガネ・フィン（学年に応じて） ライフジャケット	
学習の流れ	**副読本ページ数（P176～）** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ（総合１）** １，事前学習：シュノーケリングの事前確認」 （１）準備する物の確認 （２）シュノーケリングの仕方（海上保安ＤＶＤ 下記 ※副読本作成時の参考文献　参考） ２，体験する：「シュノーケルをしよう」 （１）道具や格好をインストラクターと確認 （２）浅瀬で、器具の確認。 （３）沖へ出て、シュノーケリング **Ⅱ、実際の体験　（総合１）** インストラクターと器具・格好の確認→浅瀬で器具の確認→深いところでシュノーケリング→帰ってきて着替え→ふりかえり **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（総合又は国語１）** ３，まとめる：絵日記や感想を書かせる。 ４，いかす：シュノーケリング学習を通して私たちにできることは何かを考える ５，ふりかえり	
外部連携	個人	
※副読本作成時の参考文献、HP	シュノーケルを安全に楽しむために （石垣海上保安にＤＶＤあり）	

⑨海に関わる施設に行ってみよう

テーマ	**⑨－１　水はどこから来ているの～海水淡水化施設を見学しよう～**	
ねらい	①飲み水はどのように作られるかを学び、山や川のない波照間では水をどのように得ているか考える。 ②水道のなかった時代の島の人々の生活から、水を得るための工夫と努力を知る。 ③淡水化施設を見学し、海水を真水に変える工夫と努力について知る。 ④水の大切さを知り、生活を振り返って自分に出来る事を考える。	
カテゴリー	□海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	☑海を活用する
実施学年とカテゴリー	小３～４年（知る）、 中１～３年（活用する）	
教科と時数	事前：社会１、　当日：総合２、　事後：総合（社会）１、（理科１）	
場所	波照間小中学校（事前・事後）　波照間簡易水道淡水化施設（当日）	
準備物	筆記用具、社会科副読本「結び合うしま島」、ワークシート、（小３社会科教科書）	
学習の流れ	**副読本ページ数（P195）** **Ⅰ、社会科教科書・副読本を利用して事前学習。** **→学習の概要をつかむ（社会１）、見学の事前確認** １，つかむ：「水はどこから来ている」 （１）学習課題を決めよう （２）飲み水についての基礎知識 （３）竹富町の島々の水事情 **Ⅱ、実際の体験　（総合２）** ２，体験する：「淡水化施設を見学しよう」 （１）水源地はどこか。 （２）どのように真水に変えているのか。 （３）水を作る工夫と苦労は何か **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（総合１、理科１）** ３，まとめる：水の大切さを知り、自分に出来る事を考えよう。 ４，いかす：節水ポスターを作ろう さらにいかす：〔中学生〕実験「水を作ろう」（理科） ５，ふりかえり	
外部連携	竹富町水道課、（淡水化施設管理人）	
※副読本作成時の参考文献、HP	・小学校３年社会科教科書　〇〇〇 ・小学校社会科３年副読本「結び合うしま島」竹富町教育委員会編	

テーマ	**⑨－２　海の施設に行ってみよう**	
ねらい	海の施設に行って、人の生活と海の関係について調べる。	
カテゴリー	□海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	□海を活用する
実施学年とカテゴリー	小１～中３年（海を知る）	
教科と時数	総合４	
場所	黒島研究所	
準備物	帽子・タオル・水筒・筆記用具	
学習の流れ	**副読本ページ数（P183～）** **Ⅰ、副読本を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ（総合１）** １，事前学習：黒島研究所には何が展示されているのか。 （１）黒島研究所で調べたいことや見たいものを考える。 （２）準備する物の確認 ２，体験する：黒島研究所へ行ってみよう。 （１）黒島研究所の展示室を見学しよう。 （２）黒島研究所にいる動物たちを見学しよう。 （３）もっと知りたいことを研究員に聞こう。 **Ⅱ、実際の体験　（総合２）** 黒島研究所の展示室を見学→黒島研究所にいる動物たちを見学→見学や観察をして不思議に思ったことや質問したいことを研究員に質問する。 **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（総合又は国語１）** ３，まとめる：絵日記や感想を書かせる。 ４，いかす：黒島研究所見学を通して私たちにできることは何かを考える ５，ふりかえり	
外部連携	黒島研究所	
※副読本作成時の参考文献、HP	黒島研究所 HP【http://www.kuroshima.org/】	

⑩山と海のつながりを考えよう

テーマ	**山と海のつながりを考えよう**	
ねらい	西表島にある山を中心に、登山体験を通して山と海の繋がりについて体験的に知る。	
カテゴリー	□海に親しむ	☑海を知る
	□海を守る	□海を活用する
実施学年とカテゴリー	４～６年生（海を知る） 中学生　　（海を知る）	
教科と時数	総合（16）　　関連：理科、保健体育	
場所	西表島：古見岳(469.5m)、テドウ山(441.2m)、御座岳(420.4m)	
準備物	事前踏査：鉈、鎌、チェーンソー、ロープ、衛星電話(借用)、 事前学習：本、パソコン 登山当日：(個人）リュックサック、弁当、飲み物(水は３ℓ程度は必要)、タオル、ちり紙・ゴミ袋、着替え、虫除けスプレー、ゴミ袋、適当な菓子(塩分補給ができる飴等)、雨具（ウィンドブレーカーも可)、簡易トイレ （全体）簡易便座（あると便利)、ブルーシート、トランシーバー(借用)、救急箱 衛星電話(借用)	
学習の流れ	**Ⅰ、副読本（P　）を利用して：事前学習→体験の内容をつかむ（総合６）** １,つかむ：「山の役割ってなんだろう」 （１）学習課題をきめよう （２）山について調べよう（調べた内容について発表会を通して全体で共有） （３）竹富町で登山ができる場所を確認 **Ⅱ、実際の体験　（総合７）** ２,体験する：登山に行こう （１）外部機関による登山安全講話（林野庁・自衛隊） ※講話前に副読本(P　)の読み合わせを行う。 ・登山の心得を学ぼう　　・山に登ろう～登り編～ ・山に登ろう～山頂付近～　・山に登ろう～下り編～ （２）実際に登山をする **Ⅲ、副読本を利用して：まとめ、いかす、ふりかえり（総合３）** ３,登山体験記の作成 ・登山前にどのような記事を書くか考えておき、登山中にネタを集めると書きやすい。 ４,副読本(P　)を読んで海と山の繋がりを考える。 ・漁民の森の活動や北海道襟裳岬の取り組みなどを紹介しつつ、海の環境を守るためには山を守ることが大切であり、海と山は密接に関係していることを学ぶ。 ５,全体の振り返り	
外部連携	林野庁西表森林生態系保全センター、環境省自然保護官事務所、森林管理署 大原警察署、大原診療所、西表島交通・いりおもて観光株式会社	

（３）令和２年度各校の実践記録

今年度、町内 13 校では海洋教育として下表に示した活動に取り組んだ。

各校の代表的な活動の実践記録を数点ずつ紹介する。

＜令和２年度竹富町各校の海洋教育の取り組み＞

１．竹富小中学校	まわりの島ってどんな島（小浜島）
	水はどこへ（星のや見学）
	海の現状を知る（グラスボート乗船）
	漂着ゴミ調査、マイクロプラスチック調査
	プラスチックゴミ削減（みつろうラップづくり）
	サンゴ礁の学習
	水泳学習
	海洋教育関連工作
２．黒島小中学校	ウミガメ勉強会、放流、調査
	シュノーケリング体験
	ビーチクリーン
３．小浜島小中学校	マングローブ観察
	他島交流（黒島小中学校）
	祭祀
	湧水調査
４．波照間小中学校	海の絵画、工作
	水泳教室
	かまぼこ作り
	シュノーケリング教室
	ビーチクリーン
	ボトルレター
	海水淡水化施設見学
	釣り体験
	祭祀学習
５．大原小学校	サンゴ学習
	ウムズナーとり体験
	カーナとり体験
	仲間川遊覧（マングローブ観察）
	カヌー体験
	巻網体験

６．古見小	カーナとり体験
	SUP 体験
	他の地域の自然観察（西表島）
	防災減災（地震・津波避難訓練）
	海洋教育の学習発表、講話
	ビーチクリーン、ゴミ箱設置活動等
	他地域交流（広島県木原小学校）
７．上原小学校	ビーチクリーン
	防災教育
８．西表小中学校	ビーチクリーン
	山・川・海のつながり（カヌー体験）
	水田跡地・滝見学、くり船体験
９．白浜小学校	ビーチクリーン
	祭祀参加（海神祭）
	海洋教育実践発表会
	他島交流（黒島小中学校）
１０．船浮小中学校	サンゴの産卵観察
	海の再生可能エネルギー
１１．鳩間小中学校	グルクン釣り体験
	ビーチクリーン
	海洋体験（西表島）
	海洋体験（カヤック等）
	ホシスナ採集
１２．大原中	筏下り
	SUP 体験
	ダイビング体験
	鍾乳洞体験
１３．船浦中	体験ダイビング

① **竹富島小中学校**

学校名		竹富町立竹富小中学校
テーマ		環境教育出前講座【サンゴ礁について学ぼう】
実施学年と カテゴリー		小３～中３ 【海を知る】
教科と時数		小３～小４　総合１　　小５～中３総合１
内容	目的	サンゴやサンゴ礁についての基礎知識や、食物連鎖のつながりの中から生態系について考える。
	進め方	講師　NPO ふくみみ　大堀さん
	日時	令和２年９月２４日（木）
	場所	３，４年教室（５校時）／５，６年教室（6 校時）
	行程	５校時に小学３、４年生、６校時に小学５、６年生と中学生が、サンゴについて貴重な学習をすることができました。 導入：食物連鎖パズル 展開：食物連鎖のつながりを探せ サンゴの４つの段階 サンゴ深化じゃんけん まとめ：振り返り
	準備物	教師：特になし 児童生徒：特になし
	外部連携	沖縄こどもの国、NPO ふくみみ
活動の成果と課題		食物連鎖パズルを通して、私たちは、生物や、人間社会、すべてのつながりの中で生活している、または生かされていることを視覚的に感じることができました。また、海の生物の仲間探しをしながら、食物連鎖について理解を深めました。 参加した児童生徒からは、「サンゴが４つの段階（卵→プラヌラ→ポリプ→群体サンゴ）を経て、できていると知り、驚きました。」や「今日の給食の魚天ぷらも食物連鎖を経て、私たちがいただくことができるんだなと知りました。」などの感想が聞かれました。

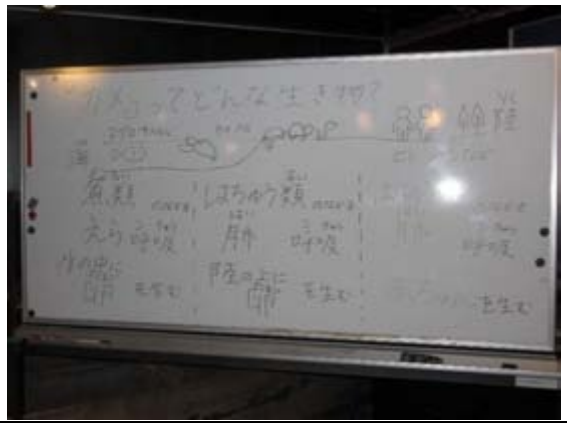
学校名		竹富町立竹富小学校
テーマ		となりの島ってどんな島？（in 小浜島）
実施学年と カテゴリー		小１～６年 海を知る、海に親しむ
教科と時数		遠足・集団宿泊的行事（５H）
内容	目的	○小浜島と竹富島の共通点や相違点を見つけることで、竹富町や自分達が住んでいる島の良さを見つける。
	進め方	竹富港→石垣港→小浜港→バス移動(観光スポット)→小浜港→石垣港→竹富港→学校着
	日時	令和２年１２月１１日（金）
	場所	小浜島（小学生に事前にアンケートにて調査）
	行程	７：４０ 竹富港　集合　出席確認 ７：５０　竹富港出発－石垣 ８：０５　石垣港到着（朝の会、注意事項、クイズ、ミニレク等） ９：１０　石垣港出発－小浜 ９：４０　小浜島着 ９：５０　公民館～集落散策（島の公民館長の案内） １１：００　小浜島内バス観光（コハマ交通） シュガーロード、細崎、大岳（あるいは西大岳）、小浜小 １２：００　やらますビーチ（昼食、自由時間） １３：１０　ビーチ－小浜港 １３：３０　小浜港発－石垣 １４：００　石垣港着、ミニ映画鑑賞（八重山の海と星） １５：００　石垣発 １５：１５　竹富着　学校　解散
	準備物	遠足に必要な物（弁当、水筒、帽子、その他）
	外部連携	八重山観光フェリー（担当：花城さん）
活動の 成果と課題		隣の島である小浜島。竹富島との共通点・相違点に視点をおきながら学習することができた。公民館長の話からも島の立地や伝統文化の様子についても詳しく知ることができた。【共通点⇒島を守ろうとする文化･伝統芸能等＊相違点⇒産業（サトウキビ・稲・漁業等）・立地（山があり起伏が激しい）等】 また、小浜小中学校の学習成果発表会（展示会）を参観させてもらい、同じ学年の児童がどのような学習（海洋教育）に取り組んでいるか等も知ることができた。新たな刺激を受け、有意義な時間を過ごすことができた。

② 黒島小中学校

<table>
<tr><td colspan="2">学校名</td><td>黒島小中学校</td></tr>
<tr><td colspan="2">テーマ</td><td>ウミガメ放流</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施学年と
カテゴリー</td><td>小学２年生　～　中学３年生
【海を知る】</td></tr>
<tr><td colspan="2">教科と時数</td><td>総合２</td></tr>
<tr><td rowspan="7">内容</td><td>目的</td><td>・黒島の海（海洋）に直接触れることで、自然に関する興味関心を高め、自然に魅力を学ぶ機会とする。
・身近にある自然環境についてウミガメを中心に学習することで、黒島の海のよさを再発見する。</td></tr>
<tr><td>進め方</td><td>１．ウミガメについての事前学習
２．放流するウミガメについて（甲長・甲幅・体重・標識番号①、②・命名）
３．海に連れて行き、放流</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>２０２０年　８月２５日（火）１３：５０　～</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>保慶（ふき）海岸</td></tr>
<tr><td>行程</td><td>【ウミガメ放流】
１３：５０　　学校で事前確認・グループ確認
１３：５５　　学校出発
１４：００　　黒島研究所着
１４：１０
〜
１５：２０　　放流するウミガメについて（甲長・甲幅・体重・標識番号①、②・命名）
１５：２５　　海に連れて行き放流
１５：３０　　学校着
１５：３５　　振り返り</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td>ワークシート</td></tr>
<tr><td>外部連携</td><td>黒島研究所</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動の成果と課題</td><td>【成果】
・実際にウミガメに触ったり、洗ったりすることができた。放流するウミガメで、いろいろな調査や研究をすることができる事を知ることができた。
・ウミガメ放流を通して、ウミガメが安心して暮らせる海は、どんな海なのかを改めて考えることができた
【課題】
・中学校に関しては、時間や時数の関係上、単発的な取り組みとなってしまった。</td></tr>
</table>

学校名		黒島小学校
テーマ		黒島研究所でウミガメ勉強会（２回）
実施学年と カテゴリー		小学２年生　～　小学６年生 【海を知る】
教科と時数		総合４
内容	目的	・黒島の海（海洋）に直接触れることで、自然に関する興味関心を高め、自然に魅力を学ぶ機会とする。 ・身近にある自然環境についてウミガメを中心に学習することで、黒島の海のよさを再発見する。
	進め方	１．ウミガメについての勉強会に行く（６月４日） （１）３種類のウミガメについて （２）リクガメとウミガメの違い （３）雄と雌の見分け方 ２．１回目の勉強会で疑問に思った事や知りたいことを質問しに行く（６月２９日） （１）各グループで調べたいウミガメについての質問 （２）産卵調査の方法や産卵巣の見つけ方
	日時	１回目の勉強会（２０２０年６月４日）　２回目の勉強会（６月２９日）
	場所	黒島研究所
	行程	・事前にグループ分け（アオウミガメ・アカウミガメ・タイマイ） 【１回目のウミガメ勉強会について】 ９：４０　学校出発 ９：５０　黒島研究所到着 １０：００ ～　ウミガメ勉強会（１回目）内容に関しては、上項「進め方」の１（１）～（３）に記載。 １１：３０ １１：４０　黒島研究所出発 １１：５０　学校到着 ウミガメ勉強会で分かったことなどを振り返り、疑問に思った事をまとめる。 （次回の勉強会へつなげる。） 【２回目のウミガメ勉強会について】 ９：４０　学校出発 ９：５０　黒島研究所到着 １０：００ ～　ウミガメ勉強会（２回目）内容に関しては、上項「進め方」の２（１）～（２）に記載。 １１：３０

		１１：４０　　黒島研究所出発 １１：５０　　学校到着
	準備物	ワークシート
	外部連携	黒島研究所
活動の成果と課題		【成果】 ・話を聞くだけでなく、実際にウミガメを触ったり持ったりすることで、ウミガメに関する多くの情報や特徴を見つけることができた。 ・ウミガメを専門で研究している分、分かりやすく説明して頂き、児童もさらに興味関心を持つことができた。 【課題】 ・２回目の時の質問では、講師が１人しかいなかったので質問ができないグループが時間を持て余していた部分があった。



③ **小浜小中学校**

<table>
<tr><td colspan="2">学校名</td><td>竹富町立　小浜小中学校</td></tr>
<tr><td colspan="2">テーマ</td><td>黒浜サミティッシュ　（他校との交流学習会）</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施学年と
カテゴリー</td><td>小学校１年生　～　中学校３年生　（全児童生徒）</td></tr>
<tr><td colspan="2">教科と時数</td><td>小１・２年生･･･生活科６　　小３以上･･･総合６</td></tr>
<tr><td rowspan="8">内容</td><td>目的</td><td>自分たちの住む島とのちがいについての発見をしよう</td></tr>
<tr><td>進め方</td><td>事前学習１～２Ｈ　・当日（施設見学・交流会）　・振り返り（絵日記）</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>令和 2 年 10 月 23 日（金）</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>黒島【黒島研究所・ビジターセンター・黒島小中学校】</td></tr>
<tr><td>行程</td><td>〇事前学習
小１・2／中学校「マングローブ」　小３・４【湧き水】
小５・６【マイクロプラスチック】　中学校【各島々の祭祀】
〇当日
午前【黒島研究所見学(亀の放流)・ビジターセンター見学】
午後【黒島小中学校との交流学習】
〇交流学習内容
小学校：事前学習の発表
中学校：1 年「小浜のものつくり」2 年「小浜の祭祀（絵本の朗読)」
３年「小浜の職について」
〇事後（振り返り）
全学年「絵日記」の宿題を出し、振り返りとした。
※学習成果展示発表会にて展示し共有を行った。</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td>交流会に必要なプレゼン資料（各学年）
放送機器・ＰＣ・スクリーン</td></tr>
<tr><td>外部連携</td><td>黒島研究所　・　ビジターセンター　・八重山観光フェリー　他</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動の成果と課題</td><td>〇何よりも、町内にある別の島へ足を踏み入れることで町民としての郷土愛を育てることができた。

〇全学年、学習発表会に合わせて資料作成することを通して、ふり返り学習する場もあった。</td></tr>
</table>

学校名		竹富町立　小浜中学校
テーマ		マングローブと海の繋がりについて考えよう
実施学年と カテゴリー		１～３年（中学生）
教科と時数		総合３（マングローブ観察)、学活２（講演会、感想・お礼状作成）
内容	目的	小浜島に自生しているマングローブについて学び、マングローブの役割と 海との繋がりについて考える。
	進め方	マングローブ観察（事前学習なし)、観察後に講演会を実施 感想・お礼状作成（事後学習）
	日時	令和２年１０月１４日（水曜日）
	場所	小浜島　島内（ヒルギ林）
	行程	※本時の学習は、黒浜交流会の事前学習にあたる。 【マングローブ観察】 ２校時～３校時：マングローブ観察（島内　ヒルギ林） ４校時：講演会（・マングローブの役割・八重山の海 ・私たちにできること） ５校時：事後学習（お礼状作成、感想シート記入）
	準備物	水、ハンドマイク、長靴等、水筒、帽子、タオル、着替え、ビニール袋
	外部連携	島内の人材の活用（ネイチャーガイド：中村航大さん）
活動の成果と課題		○自然観察の学習を取り入れる良い機会となった。 ○小浜島島内の自然を活用しての学習を行うことができた。 ○島内の人材を活用することができた（ネイチャーガイドの中村さん)。 ●黒浜交流会の事前学習としての取り組みだが、観察前に事前学習を実施した方が良い。また、視点を明確にしてマングローブの観察を行うと、深い学びに繋がっただろう。 ●総合・学活での実施であったが、理科などの他教科を活用して、今後継続できるよう努めていく。

④ 波照間小中学校

学校名		波照間小中学校
テーマ		海水淡水化施設見学
実施学年と カテゴリー		小学 3～4 年〔海を知る、海を活用する、海を守る〕 中学 1～3 年〔海を知る、海を活用する、海を守る〕
教科と時数		総合 2
内容	目的	①私たちの飲み水はどこから来ているのか関心を持つ。 ②かつて水に困った歴史を学び、現在飲み水が海水からできている様子や その工夫と苦労を知る。 ③飲み水の大切さを知り、資源や環境を大切にする心を養う。
	進め方	(1)講師紹介（自己紹介） (2)小中 2 班に分かれて施設見学 (3)感想発表・お礼
	日時	令和 2 年　9 月 14 日（月）13:55～15:45
	場所	波照間簡易水道海水淡水化施設
	行程	13:40　正面玄関前集合・諸注意 淡水化施設へ移動 13:55　(1)講師紹介（自己紹介） 14:00　(2)小中 2 班に分かれて施設見学 15:30　(3)感想発表・お礼 学校へ移動
	準備物	小学 3･4 年社会科副読本「結びあう島しま」　　ワークシート
	外部連携	波照間簡易水道海水淡水化施設　管理人
活動の成果と 課題		○海水が真水になる仕組みや機械の管理が難しく飲み水を作るには大変 な苦労があることが分かった。 ●施設内は機械の音がうるさく、管理人の説明が十分に聞き取れない部分があっ た。

学校名		波照間小中学校
テーマ		地域の伝統文化「ムシャーマ」を知ろう　～南の海からやってくる神様～
実施学年と カテゴリー		小学３・４年〔海を知る〕 ※職員（職員研修）〔海を知る〕
教科と時数		総合（社会）１、　　※職員＝校内研修
内容	目的	①地域にはどのような伝統文化があるか知る。 ②南の海からやってくる「ミルク」の神様は何をもたらすのだろうか。 ③伝統に生きる私たちの生活にはどのような風習や習慣があるか考えよう。
	進め方	(1)講師紹介 (2)講話 (3)感想発表・お礼
	日時	令和２年　11 月６日（金）４校時 ※校内研（職員対象の講話）　12 月 16 日（水）
	場所	波照間小学校　小 3･4 年教室 ※校内研：職員室
	行程	(1)講師紹介・・・・・・学級担任 (2)講話 ①地域の行事・祭りと海とのつながりはなんだろう ②南の海からやってくる神様は何をもたらしてくれるのだろうか。 ③私たちの生活の中にある海との関わりを考える。 (3)感想発表・お礼
	準備物	・パソコン　　・電子黒板
	外部連携	・波照間島出身の自然・文化・歴史の研究家
活動の成果と課題		○島で最大の行事であり、毎年見ている（参加している）ものであるため、良く理解できたようである。 ●ニライカナイからの来訪神についてと島の神行事についてもう少し話しが欲しかった。

⑤ **大原小学校**

学校名		竹富町立大原小学校
テーマ		我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りをもち、未来に羽ばたく大原っ子をめざして ～海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する学習を通して～
実施学年と カテゴリー		３学年 ウムズナー捕り　海に親しむ　海を守る
教科と時数		総合１３時間
内容	目的	西表島の海で捕れる豊富な資源を知り、捕る体験活動、そして実際に調理し食することで、食の大切さ、海への感謝の気持ちをもつ。
	進め方	事前学習（iPad を活用しての調べ学習）→体験活動→ふりかえり・まとめ（新聞づくり）
	日時	令和２年　１１月　１２日（木）
	場所	後良川、前良川
	行程	8:40　大原小学校出発 10:00～　ウムズナー捕り体験 ・餌や罠の作り方の説明 ・穴の見つけ方、ウムズナーの捕り方の説明 ・ウムズナー捕り 12:15　帰校 14:05～　家庭科室でウムズナー調理 ・ウムズナー下処理 ・調理（チャンプルー・刺し身） 15:45　質問タイム・ふりかえり
	準備物	準備物 児童（水筒、帽子、手袋、マリンシューズ） 学校（網、しかけセット、バケツ・救急セット・調理道具など） ワークシート（次年度の副読本掲載予定の資料を使用）
	外部連携	※地域関係者：宇根信夫さん
活動の成果と課題		◯地域の方に、えさの捕り方や罠のつくり方など、昔から伝わる捕り方を直接教えてもらい、先人の知恵や工夫を知る事ができた。 ◯自分達で捕ったウムズナーを実際に下処理や調理をすることで、自分たちが自然の恩恵を受けていることを実感し、自然や生き物に対して感謝の気持ちを言葉にする児童が見られた。 ◯様々な体験をしたことで、さらなる疑問が生まれ、学習意欲を高めることができた。

学校名		竹富町立大原小学校
テーマ		我が島、我が町と海ぬ美しゃに誇りをもち、未来に羽ばたく大原っ子をめざして ～海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する学習を通して～
実施学年と カテゴリー		２学年 海に親しむ
教科と時数		生活科７　図工２
内容	目的	・南風見田の浜へ行き、生き物を見つけたり周辺の様子を観察することまた、集めたサンゴを活用して「サンゴ風鈴」作りを通して、身近な海に親しむ。
	進め方	事前に海で観察したいことを決める。当日は、海の生き物や周辺の様子を iPad で撮影し、サンゴ集めやゴミ拾いを行う。図工でサンゴ風鈴を作ったり、見つけて撮影した写真をロイロノートで発表できるようにまとめ、授業参観で発表する。
	日時	１１月２日（金）
	場所	南風見田の浜
	行程	〈準備〉iPad の使い方の事前学習と何を観察するのか決定。 〈当日〉1 年生と合同で南風見田の浜へ行き、生き物や周辺の様子を撮影したり、サンゴ風鈴の材料集め。帰りに浜に落ちているゴミ拾いを実施。 ９：３５　学校出発 １０：００　観察・材料集め・お弁当・ゴミ拾い １３：００　帰校 〈振り返り〉発表に活用できる写真の選定を行い、それに沿って発表用アプリ「ロイロノート」を使ってプレゼンテーションの作成と発表原稿を仕上げた。そして、授業参観に合わせて一人ひとりがまとめたことを発表をした。
	準備物	・iPad　・袋　・たこ糸　・ビーズ　・ボンド
	外部連携	
活動の成果と課題		○子ども達にとって身近な南風見田の浜へ行き、生き物を観察したり周囲を見渡したり、ゴミ拾いを行ったことで、改めて自分たちの地域の海の美しさやどんな生き物が生息しているのかを知ることができた。また、学習のまとめとして授業参観で iPad を活用して一人ひとりが分かったことや感じたことを、保護者や友だちに伝えることができた。 ●２年生の海洋教育の内容を決定するのに迷い、学習計画を立てるのが遅くなってしまった。次年度は、年度の初めにいつ頃、どのような内容で取り組むかを早めに決定する必要があると感じた。

⑥ **古見小学校**

学校名		竹富町立古見小学校
テーマ		カーナ採り
実施学年と カテゴリー		低学年：海に親しむ　　中学年：海を知る 高学年：海を活用する
教科と時数		総合５
内容	目的	身近な海にあるカーナ採り体験を通して （低学年）自然の中の食べ物を採取する楽しさを知り、海の食べ物に興味をもつ。 （中学年）自分の住んでいる地域の海の食物について、その生息地や生態などを調べる。 （高学年）自然の海の食物に対して感謝の気持ちを持ち、それを持続させる方法を後輩に伝え、美味しく調理する。
	進め方	・「カーナ採り」について知る：副読本活用 ・現地にて安全確認、カーナの採り方について知る ・「カーナ採り」を楽しむ ・「カーナ」を調理して食べる ・「カーナ採り」の感想を発表する ・「カーナ採り」のことをまとめる（新聞等）
	日時	令和２年６月１５日（月）
	場所	西表島　前良川河口
	行程	学校発 9:00→前良川 9:20→10:30 カーナ採り体験→10:40 カーナ調理 （終わりの会：感想等）　13:35 カーナ採りふりかえり
	準備物	副読本、水とう、帽子、濡れても良い服、マリンシューズ、手袋、はさみ、着替え、カーナを入れる入れ物
	外部連携	地域の方：新盛基代　　保護者
活動の成果と課題		・持続可能な「カーナ」の採り方について知る事ができた(全体)。 ・自然の中の食べ物を採取する楽しさを知り、海の食べ物に興味をもつことができた（低)。 ・自分の住んでいる地域の海の食物について、その生息地や生態、食べ方などを調べようとする意欲付けになった（中)。 ・自然の海の食物に対して感謝の気持ちを持ち、それを持続させる方法を後輩に伝えることができた（高)。

学校名		竹富町立古見小学校
テーマ		他の地域の自然を観察しよう：カンピレ-、マリウドの滝
実施学年と カテゴリー		低学年：海に親しむ　　中、高学年：海を知る
教科と時数		生活科、総合５
内容	目的	地域で行われてきた漁の体験を通して、 （低学年）他の地域の自然を観察し、海や川の生き物に興味をもつ。 （中学年）他の地域における自然観察を行い、そこの自然の特徴や生き物を知る。 （高学年）他の地域の自然について実感を持って知り、自分の住んでいる地域と比較しながら自然の特徴や生き物について知る。
	進め方	・現地にて自然観察の方法について知る ・「植物・生き物観察」を行う ・「マリウド・カンピレ-の滝見学」を行う ・「他の地域の自然」について新聞や絵日記でまとめる
	日時	令和２年１１月２日（月）
	場所	西表島西部　浦内川：マリウド・カンピレ-の滝
	行程	学校出発 8:30（はじめの会）→9:00 浦内川河口（説明） →自然散策→11:30 マリウド・カンピレ-の滝見学→自然散策 →14:00 学校着（終わりの会：感想等）
	準備物	水とう、弁当、帽子、動きやすい服
	外部連携	保護者（カヌーインストラクター）
活動の成果と課題		・自然観察の方法について理解することができた。 ・みんなで自然散策する楽しさを実感しながら、川の植物や生き物に興味をもつことができた（低）。 ・場所によって植物や生き物に違いがあることを知ることができた（中）。 ・他の地域の自然の特徴について実感を持って知り、自分の地域と比較しながら自然の特徴や生き物について知ることができた（高）。

⑦ **上原小学校**

学校名		竹富町立上原小学校
テーマ		自然災害と向き合おう（防災学習）
実施学年と カテゴリー		全学年（海を知る）
教科と時数		（１～２年生）生活１、特活２　（３～６年生）総合１、特活２
内容	目的	地震が発生した場合に児童が安全に避難できるように、地震・津波時における基本行動を身につけさせる。
	進め方	避難訓練当日に向けて、各学級で事前学習（ＤＶＤの視聴・ワークシートを使っての学習）を行う。 当日は１０：００に沖縄県全域で強い地震が観測され、大津波警報が発表されたことを想定して訓練を行う。教室での初期対応を行った後、第二次避難場所へ避難を開始する。全員の安否が確認できた後に全体会を行う。 事後指導は各学級に戻り、ワークシートを書きながら振り返りを行う。
	日時	１１月５日（木）　２校時
	場所	教室・本校の第二次避難場所
	行程	【事前指導】 ①ＤＶＤ視聴「津波からにげる」 ②パワーポイントによる事前学習 （地震時の対応・避難経路・避難時の合い言葉） 【訓練当日】 ①初期対応（教室での授業中を想定） ②大津波警報が発令（避難への準備をする→防災頭巾・防災バック） ③第二次避難場所への避難を開始 ④全体会 【事後指導】 ①各学級でワークシート記入しながら振り返りを行う。
	準備物	【事前指導】 ＤＶＤ「津波からにげる」・パワーポイント「自然災害と向き合おう」 ワークシート 【避難当日】 ストップウォッチ・拡声器・防災頭巾・防災バック 【事後指導】 ワークシート
	外部連携	・上原地区消防分団

活動の成果と課題	・事前指導を充実させたことで地震・津波の恐ろしさを感じ、正しい避難の仕方もきちんと学ぶことができた。そのことが避難訓練当日の児童の様子からもうかがうことができた。 ・避難訓練は学校だけでなく、幼稚園・保育所・地域と合同で行い、合同防災連絡会も事前と事後に行ったことによって地域全体としての成果や課題も共有することができた。 ・振り返り学習も訓練終了後すぐに行うことで、一人一人が避難訓練を振り返ることができ、また全体で共有しあうことで防災意識えお高めることができた。 ・事後指導を充実させ、学んだことを家庭での生活にも活用できるようにしたい。

⑧ **西表小中学校**

学校名		西表小中学校
テーマ		仲良川水田跡地とナーラの滝巡り・くり船体験
実施学年とカテゴリー		中学校全生徒（１４名）
教科と時数		総合２、理科２、社会２、体育２
内容	目的	・海洋教育の一環として山、川、海が繋がりや西表島の自然・歴史についての理解を深め、それを守ろうとする態度を育てる。 ・自然と体験学習や地域行事との繋がりを考える機会とする。（稲作体験：稲刈り時に歌う「仲良田節」）（「節祭」で披露する「牛狂言」） ・くり船を体験することで、先人の苦労に思いを巡らす。
	進め方	①事前学習（海と山、川の繋がりを学習、日程説明、安全指導） ②体験学習（仲良川水田跡地とナーラの滝とくり船体験学習） ③事後学習（学んだことや感じたことをまとめる）
	日時	令和２年１０月３０日（金）
	場所	仲良川水田跡地とナーラの滝
	行程	８：１５　各教室集合・出席点検・健康観察 ８：４５　事前学習・諸注意・確認事項 ９：３５　学校出発（白浜港へ） ９：５０　白浜港集合、安全面説明 １０：００　船出港（６０分）・徒歩（３０分）《交替でくり船体験》 １１：３０　ナーラの滝で昼食・休憩（１５０分） １４：３０　徒歩（３０分） １５：００　船による移動（３０分）・徒歩（２０分）《交替でくり船体験》 １５：５０　仲良川水田跡地・講師による講話（３０分） １６：２０　船による移動（３０分）《交替でくり船体験》 １６：５０　白浜港着 １７：００　終了・片付け・学校へ移動・解散
	準備物	マスク・弁当捕食（おにぎり２個～・おかず等）、水筒、ラッシュガード サーフパンツや水着、帽子、靴（マリンシューズ可）、リュックサック、 レインコート、タオル、バスタオル、ビニール袋、着替え、その他必要な物
	外部連携	水田跡地講師：那良伊孫一さん（祖納公民館館長）、滝案内とくり船講師：山下義雄さん（干立公民館副館長）、船による移動：山下輝雄さん（PTA 副会長）
活動の成果と課題		・海、川、山の繋がりを知ることができた。西表の自然・歴史について理解し、島を大切にしようとする態度を育てることができた。 ・稲作体験や伝統行事「節祭」との繋がりを再確認することができた。 ・くり船を体験することで、先人の苦労を体感することができた。 ・今後の学習としっかり関連づけていくことが課題。

学校名		西表小中学校
テーマ		「マリウドゥ・カンビレーの滝とカヌー体験学習」
実施学年とカテゴリー		小学校５・６年児童（８名）
教科と時数		総合２、理科２、社会２、体育２（合計８時間）
内容	目的	・海洋教育の一環として山、川、海が繋がって、その周りの様子（岩石や小石、砂、動植物、上流・中流・下流）について理解する。 ・西表島の自然についての理解を深め、それを守ろうとする態度を育てる。 ・自然と体験学習や地域行事との繋がりを考える機会とする。
	進め方	①事前学習（海と山、川の繋がりを学習、日程説明、安全指導） ②体験学習（マリウドゥ・カンビレーの滝とカヌー体験学習） ③事後学習（学んだことや感じたことをまとめる）
	日時	令和２年１１月１２日（木）
	場所	浦内川周辺、マリウドゥ・カンビレーの滝
	行程	８：１５　児童集合。出席点検、健康観察、諸注意 ８：５０　学校出発　浦内川へ。コース説明や安全指導 ９：３０　遊覧船出発（３０分） 徒歩（３０分） マリウドゥ・カンビレーの滝見学、休憩（６０分） 徒歩（３０分） １２：００　遊覧船上流出発（３０分） １２：３０　昼食 １３：３０　カヌー体験学習（浦内川） １５：３０　カヌー体験学習終了。学校移動 １６：００　閉会集会
	準備物	ラッシュガード、帽子、タオル、着替え、水筒、レインコート、靴（マリンシューズ）、ＡＥＤ
	外部連携	（資）浦内川観光 カヌー体験時、ガイドによるマングローブについての現地説明や炭坑跡について解説が行われた。
活動の成果と課題		・事前学習によって、海、川、山の繋がりや川の流れの特徴について知ることができた。 ・西表の自然を大切にしようとする態度の育成、自然のありがたさを再確認することができた。 ・体験だけにならず、今後の各教科の学習としっかり関連づけていくことが課題。

⑨ **白浜小学校**

学校名		竹富町立白浜小学校
テーマ		海神祭
実施学年と カテゴリー		１～６年
教科と時数		【調べ学習・インタビュー活動】総合８時間（３年生以上） 【当日】総合２（３～６年）、生活２（１・２年）
内容	目的	・白浜地域の伝統行事海神祭に参加することを通して、先人達の思いや地域の誇りを感じ、郷土愛を育てる
	進め方	海神祭に向けて、総合学習にて海神祭について書籍やネットなどを活用して調べ学習。その中で出たギモンや分からないことなどを、白浜地域の海人へインタビューなどをして海神祭についての理解を深めた。そのうえで、海神祭に臨んだ。 ※新型コロナウイルスの影響で規模縮小して実施。
	日時	令和２年６月２４日（木）
	場所	白浜新桟橋
	行程	８：１５　出席確認･健康観察 ８：３０　学校出発 ８：４０～　海神祭参加 ９：００　開会式 御願ハーリー・東西ハーリー １０：００　学校に戻って振り返り １２：００　昼食　公民館にて地域住民と昼食 １３：００　学校に戻る
	準備物	・水筒　・帽子 ※鉦うちの子は、上は衣装（赤サージ）、下は体育ズボン ※ライフジャケット着用
	外部連携	白浜公民館
活動の成果と課題		○白浜地域には、海を生業にして生活している方が多いことに気づき、改めて、海を大切にしたいという思いを持つことができた。 ○今までは、海神祭に参加するだけだったが、今年度は、白浜海神祭についてのインタビューを通して、海神祭の歴史や先人・地域の人の思いを肌で感じることができた。その中で、歴史をつないでいくことの大切さと、時代に応じて変化していくことも必要であるという声があることに気づき、自分たちがそのバトンを受け継いだ時に「何ができるか真剣に考えたい」などの声も聞こえた。

学校名		竹富町立白浜小学校
テーマ		第一回ビーチクリーン
実施学年と カテゴリー		全学年
教科と時数		総合２時間（３年以上）
内容	目的	１　西表島の海の現状を知り、自然保護の意識を育てる。 ２　西表に漂着する海洋ゴミを調べ、どんなゴミが流れ着いているのか実態を知る。 ３　これからの生活を振り返り、海や地球を守るためにゴミを減らしたり、行動を変えたりしようとする意識を育む。
	進め方	ビーチクリーンを実施。その後ペットボトルの国別分別を行い、どの国の排出ゴミが多いのかを調べた。西表エコツーリズム協会の方から、西表のゴミの現状や、ごみを減らすためにできる取り組みの事例などを紹介していただいた。
	日時	令和２年７月１５日（水）
	場所	中野海岸
	行程	７：５０　通常登校、朝の会・健康観察、お手洗い ８：１５　開始式　①はじめのことば（児童会）　②校長先生の話 ③ゴミの集め方・分別について（教務）　④諸注意（担当） ８：３０　学校出発 ８：　５５～９：５５　ビーチクリーン １０：００　解散式 ①児童感想発表　②ゴミについての話（エコツーリズム協会） ③終わりのことば（児童会）④諸連絡（担当）　⑤記念撮影 １０：１５　ビーチ出発 １０：４５　西表島エコツーリズム協会徳岡さんによる講話（チャレンジ教室） ☆西表島に漂着するゴミの現状について ☆ゴミが環境や海洋生物に及ぼす影響について ☆ゴミをへらすための事例や自分に何ができるのか？ １１：５０　児童は振り返りシートの記入
	準備物	児　童：軍手、帽子、水筒、ハンカチ 職　員：携帯、ホイッスル、水筒、カメラ、簡易テント、
	外部連携	西表島エコツーリズム協会、竹富町世界遺産推進課
活動の成果と課題		○漂着ゴミの現状について知ることができた。 ○ゴミを正しく分別することの大切さが分かった。 ○西表島エコツーリズム協会の講話を通して、ごみを減らすための実践例などを知ることができ、考えに広がりが見られた。 ●白浜は風向きの関係や、ビーチがないので地元に漂着するゴミを実感することができない児童がいたので、次年度は、白浜近辺で調査を実施したい。

⑩ **船浮小中学校**

<table>
<tr><td colspan="2">学校名</td><td>沖縄県竹富町立船浮小中学校</td></tr>
<tr><td colspan="2">テーマ</td><td>サンゴの産卵を観察しよう</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施学年と
カテゴリー</td><td>小学校３学年，中学校１学年
海を知る</td></tr>
<tr><td colspan="2">教科と時数</td><td>総合的な学習の時間　2</td></tr>
<tr><td rowspan="7">内容</td><td>目的</td><td>船浮近海に生息するサンゴの産卵の様子を観察記録し，サンゴの生態を学ぶ</td></tr>
<tr><td>進め方</td><td>オリエンテーション→事前学習→観察会（本時）→事後学習</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>７月８日</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>船浮湾　内離島</td></tr>
<tr><td>行程</td><td>オリエンテーション：何を知ることが海の学習になるのだろうか
事前学習①：イダの浜でビーチコーミング
事前学習②：船浮湾の多様な海の環境を観察しよう
事前学習③：サンゴの産卵と写真の撮り方を学ぼう
観察会当日の活動
<table>
<tr><td>時間</td><td>行程</td></tr>
<tr><td>～18：00</td><td>船浮港　桟橋に集合</td></tr>
<tr><td>18：00～18：30</td><td>講師紹介・準備</td></tr>
<tr><td>18：30～19：00</td><td>船浮港出発～内離島到着</td></tr>
<tr><td>19：00～19：30</td><td>ポイントのチェック</td></tr>
<tr><td>19：30～21：00</td><td>サンゴの産卵観察</td></tr>
<tr><td>21：00～21：30</td><td>内離島出発～船浮湾到着</td></tr>
<tr><td>21：30～22：00</td><td>お礼・片付け・解散</td></tr>
</table>
事後活動①：サンゴとの関わり方について思考ツールを使って考えよう
事後活動②：考えたこと・体験したことを新聞にまとめよう。</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td>iPad（ＬＴＥモデル），水中用カメラ</td></tr>
<tr><td>外部連携</td><td>（事前学習① 外部講師）NPO 法人西表エコツーリズム協会
（事前学習② 外部講師）琉球大学 熱帯生物圏研究センター 西表研究施設
（事前学習③・当日 外部講師）西表島ダイビングサービス遊びなーら
（授業全般における iPad(LTE モデル)利用）NTT ドコモ　沖縄振興推進室</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動の成果と
課題</td><td>（成果）船浮湾における体験を通して，地域にある海の多様な環境について学ぶことができた。更に，多様な環境の一つとしてサンゴやサンゴ礁について学び，産卵の観察を通して，地球の生き物たちにとってのサンゴの存在の大切さを感じ，自分たちがサンゴとどのように関わっていくかを考えることができた。
（課題）事前活動毎の振り返りに時間を十分とれず，各授業の繋がりを子供たちに意識させることができていなかった。そのため自分事にまで持って行けず，事後学習でのシンキングツールでのアイデアが活発に出てこなかった。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">学校名</td><td>沖縄県竹富町立船浮小中学校</td></tr>
<tr><td colspan="2">テーマ</td><td>海の再生可能エネルギーを学ぼう</td></tr>
<tr><td colspan="2">実施学年と
カテゴリー</td><td>小学校３学年，中学校１学年
海を守る・海を活用する</td></tr>
<tr><td colspan="2">教科と時数</td><td>総合的な学習の時間　7</td></tr>
<tr><td rowspan="6">内容</td><td>目的</td><td>海をエネルギー利用の視点で捉え，海とともにどう生きるのかを考える</td></tr>
<tr><td>進め方</td><td>オリエンテーション→出前授業（本時）→事後学習</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>10 月 15 日～16 日</td></tr>
<tr><td>場所</td><td>船浮小中学校多目的室，船浮地区海岸</td></tr>
<tr><td>行程</td><td>オリエンテーション：なぜ海でエネルギーなのか？発電って？
出前授業（１日目）の活動
<table>
<tr><td>時間</td><td>内容</td></tr>
<tr><td>10：45～11：35</td><td>発電と省エネを体験・理解しよう。二酸化炭素による地球温暖化と発電【講義】
火力発電のモデル実験，自転車発電【体験】</td></tr>
<tr><td>11：45～12：35</td><td>再生可能エネルギーによる発電　風の力・太陽の力で電気を作り出そう。【講義】
ペットボトル風車を作ろう・コンデンサーカーを走らせよう①【実験・制作】</td></tr>
<tr><td>13：45～14：35</td><td>ペットボトル風車を作ろう・コンデンサーカーを走らせよう②【実験・制作】
波の力で電気を作り出そう。機器説明及び海へ移動【講義・準備】</td></tr>
<tr><td>14：45～15：30</td><td>波の力で電気を作り出そう【体験】
海を利用した再生可能エネルギーを知ろう【講義】
【ふり返り】</td></tr>
</table>
出前授業（２日目）の活動
事後活動①：ミライの船浮　エネルギーマップをつくろう
<table>
<tr><td>時間</td><td>内容</td></tr>
<tr><td>9：45～10：35</td><td>資源エネ庁　電力バランスゲームから再生可能エネルギーの弱みを知る【ゲーム】</td></tr>
<tr><td>10：45～11：35</td><td>船浮に必要なエネルギーはどれくらい？これをすべて再生可能エネルギーで賄うには【モデルで考える】
→天気が悪い・夜・風波がない日は電気を貯めることも考える。</td></tr>
<tr><td>11：45～12：35</td><td>船浮で現実的なエコ発電の体制を考えてみよう
【話し合い→発表】</td></tr>
</table>
事後活動②：海のエネルギー動画をつくろう【情報活用能力】</td></tr>
<tr><td>準備物</td><td>iPad（ＬＴＥモデル）</td></tr>
<tr><td>外部連携</td><td>（出前授業 外部講師）琉球大学教育学部，沖縄エネルギー教育地域会議
（授業全般における iPad(LTE モデル)利用）NTT ドコモ　沖縄振興推進室</td></tr>
<tr><td colspan="2">活動の成果と
課題</td><td>（成果）船浮の海岸で多様なエネルギーによる発電ができること、そしてＬＥＤ等による省エネの効果を実体験できた。学習のなかで，地球温暖化を防ぎ，うみを守るために再生可能エネルギーを活かすことを学んだ。安定した電</td></tr>
</table>

	源供給・発電装置の大きさや価格を意識して，陸の孤島 船浮にあった再生可能エネルギーを考えることができた。 （課題）電力計算の理解が難しく，エネルギーマップの制作に時間がかかった。また，シンキングツールで考えた動画の構成を上手く活かして動画制作することができなかった。

⑪ **鳩間小中学校**

学校名		竹富町立鳩間小中学校
テーマ		星砂採集
実施学年と カテゴリー		全児童・生徒（小学 5 年生～中学 3 年生） 海に活用する
教科と時数		総合 7、美術 2
内容	目的	（1）星砂の生態について総合学習で学習することによって探求心を養う。 （2）保護者、地域の方々の協力を得て、作業を積極的に行い、最後までやり通す態度と保護者地域の方々への感謝の念を育てる。 （3）星砂から得られた資金が、児童生徒会活動費としてまかなわれていることを知る。
	進め方	事前学習　（午前）→採集（午後） 事後学習→発表会
	日時	6 月 5 日（金）～
	場所	西表島西部地区・学校
	行程	事前学習　（午前）：美ら島自然学校の講師 による学習・観察 採集（午後）：干潮時間に合わせて浜に行き、星砂の採集と洗浄作業を行った。 事後学習：星砂について学んだこと、わかったことをパワーポイントにまとめ、発表会を行った。美術の時間に星砂を使った商品パッケージをデザインした。
	準備物	筆記用具・水筒・マリンシューズ・着替え・帽子・軍手 曲がり鎌・タオル・網・バスタブ・バケツ
	外部連携	美ら島自然学校から講師の招聘、地域の方々、鳩間公民館
活動の成果と 課題		成果：事前学習では研究者ならではの興味深い話を聞けた。また実際に生きている様々な種類の星砂（有孔虫）を顕微鏡で観察し、星砂を始めとする海の生物や、鳩間島の海洋環境に興味を持った。 課題：鳩間島の海について調べるなど、事前学習をもっと充実させたい。

学校名		鳩間小中学校
テーマ		グルクン釣り体験
実施学年と カテゴリー		全学年（小５～中３年） 海に親しむ・海を活用する
教科と時数		総合２
内容	目的	鳩間の豊かな自然環境を生かしたグルクン釣りを体験することにより、自然の豊かさや釣りの楽しさ、海の幸の感謝を育む。
	進め方	※準備～振り返りまでの全体の流れの概要
	日時	令和２年８月２７日（木）１３：００～１６：３０
	場所	鳩間島周辺の海域・鳩間港
	行程	１３：００　港集合 １３：１５　出港 １３：３０　釣り開始　※熱中症が疑われる場合のみ途中帰港。 １５：００　帰港 １５：３０　魚の鱗（うろこ）と腸取り（場所：船置き場） ※魚は括弧の冷凍庫保存。
	準備物	【学校で準備するもの】 （１）釣りセット（竿、リール、サビキ、おもり、バケツ） （２）餌（オキアミ大）（４個） （３）クーラーボックス （４）鱗取り・包丁 （５）ミニテント２張り 【各自で準備するもの】 （１）竿、リール、鱗取り （２）水筒 （３）携帯電話、マリンレジャー用の携帯ケース
	外部連携	船２艘・地域の方 鱗取りは地域の方・保護者・児童生徒・全職員
活動の成果と課題		【成果】・児童生徒は船釣り体験を通して、鳩間島の豊かな海の幸を感じた。 ・グルクンのさばき体験では、命をもらっているんだと感じた。 【課題】・船酔い者多数。５月頃開催が望ましい。 ・釣船からの連絡がなく、陸では地域の人を待たせてしまった。 ・タイムキーパーがいなかった。担当は要準備。

⑫ **大原中学校**

学校名		船浦中学校
テーマ		筏くだり
実施学年と カテゴリー		全学年 海を知る
教科と時数		総合８　技術４
内容	目的	山と川、海のつながりを学ぶ
	進め方	①マングローブについての学習する ②地域のマングローブについて観察する ③浦内川の特徴、生き物について学習する ④筏・パドル・帆制作（技術） ⑤浦内川筏下り・SUP 体験 ⑥体験のまとめ
	日時	体験（９～１０月）
	場所	船浦湾・浦内川
	行程	・マングローブについて学習する（副読本の活用） ・琉球大学亜熱帯研究所の協力のもとマングローブフィールドワークを行う （オヒルギ・メヒルギ・ヤエヤマヒルギ・ニッパヤシ） ・筏・パドル・帆制作 ・浦内川上流（軍艦岩）～浦内橋を筏下り オヒルギとヤエヤマヒルギの生息の分岐点を記録する SUP 体験 ヤエヤマスオウノキの群生の観察 ・体験のまとめ・お礼状の作成
	準備物	副読本　デジカメ　筏材料
	外部連携	琉球大学亜熱帯生物研究所　西部石油　浦内川観光　林野庁　救急救命士 プラス合同会社
活動の成果と課題		体験を通して山と川、海のつながりを学ぶことができた。また、マングローブについて学習することで、西表の自然を理解することができた。 筏をゴールに向かって、自分たちで力を合わせて漕ぐことで、目標を共有し協働的に物事を進める経験を学ぶことができた。

学校名		大原中学校
テーマ		西表島の魅力を感じよう！～故郷のディープな自然に触れる～
実施学年と カテゴリー		２年生 海に親しむ
教科と時数		総合２　特別活動１　放課後
内容	目的	講話や洞窟体験を通して、自然環境を新たな視点から見聞し、理解を深め、 郷土の良さや地域の未来について考える機会とする
	進め方	事前確認→当日→お礼状作成
	日時	１１月１０日（火）１３：４５～１６：４５
	場所	ユツンの洞窟
	行程	○当日（総合２　放課後） １３：４５　ユツンへ移動 １４：１５　書準備、説明 １４：２５　洞窟体験 １６：４５　学校へ移動 １７：１５　下校 ○お礼状作成（特別活動１）
	準備物	サンダル、軽装（長袖）、汚れていい靴、必要分の着替え一式、タオル、水筒
	外部連携	西表島カヌー＆トレッキングツアー空風
活動の成果と課題		○日頃観察できない鍾乳洞を探検・観察することで、新しい西表島の魅力を発見することができた。 ○西表島の自然と観光業の繋がりについて考える良い機会となった。 ●移動や体験自体に時間がかかり、放課後の時間にかなり食い込んでしまった。（部活動が行えなかった）

⑬ 船浦中学校

学校名		船浦中学校
テーマ		体験ダイビング
実施学年と カテゴリー		中３ 海を知る
教科と時数		総合４、美術２、道徳１
内容	目的	体験ダイビング・シュノーケルを通して、海の素晴らしさを知り、海を守っていこうとする態度を養う。
	進め方	①サンゴ礁について学習する（副読本） ②ダイビング・シュノーケルで、事前に学習したサンゴ・サンゴ礁のいきものについて実際に探してみる。 ③サンゴ礁にすむ魚の特徴に注意して、水彩画で作品を作る。（美術） ④サンゴ礁とそこに住む魚が１００年後も生きていけるために、現在の課題と解決方法について考え、まとめる。
	日時	体験（５～６月）
	場所	サンゴ礁の広がる浜
	行程	副読本でサンゴ礁とサンゴについて学ぶ 体験で実際に出会いたい生き物を決め、その特徴や生息場所について調べ、体験中どのような場面で実際見ることが出来るのか予想する 体験ダイビング・シュノーケル 自分の海でのお気に入りの生き物についてその特徴に注意しながら立体作品をつくる 美しい海を守るために出来ること、現在の課題と未来に向けた行動を考える ACT　LOCAL　THINK　GLOBAL
	準備物	副読本　デジカメ　美術作品　図鑑
	外部連携	西表ダイビング協会　エコツーリズム協会
活動の成果と課題		体験を通して海のすばらしさを感じることができた。また、協力してくれる方々の働く姿から西表で海とともに生きて行く１つの生き方を感じることができたようだ。

３.町内で実施した取り組み

（１）海洋教育教職員研修会

当初、今年度は、各島の子ども達が一同に会する海洋教育サミットの開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響を考慮してサミットの開催は断念し、教職員の海洋教育に対する理解を深めるための研修会の開催へと方向転換した。状況が落ち着いたタイミングで対面での開催を予定し準備を進めていたが、こちらも直前で開催がかなわず、最終的にオンラインで全校全職員が参加する研修会を10 月に開催した。町内の全校全職員がオンラインで参加する取り組みは、町内初であり今後の取り組みが期待できる機会となった。

研修会では、各校の取り組み発表に加え、東京大学海洋教育センターの及川幸彦先生、田口康大先生よりご講演及び総評を頂いた。また、事前に教職員を対象、海洋教育に関する意識調査アンケートを実施した。当日の資料等は、巻末に添付する。

次年度は、子ども達の発表・交流の場となる海洋教育サミット及び教職員研修会を対面で実施することを予定している。

教育委員会（運営本部）の様子

各校参加画面

（２）海洋教育クリーン週間

竹富町では、海洋教育の学習・取り組みにおいて、共通テーマを４つ設定しており、その１つが、「海の現状を知り、海を守るために出来ることを考える」を念頭に実施するビーチクリーン活動である。今年度は、11 月の最終週の１週間を「海洋教育クリーン週間」と定めて、各学校が地域の方たち共にビーチクリーンを実施した。回収したゴミを分別したり、ペットボトルのバーコードから産出国を特定したりするなどして、学習的要素を持たせた取り組みを進めている学校もある。今後は、こうしたデータ収集も合わせて行い、共通の調査用紙を作成する等して、各島や海岸の場所、向き等によって漂着物の量や種類に違いがあるのか等も調べながら、島の大きな課題である漂着ゴミ問題に取り組んでいく。

なお、この活動は次年度も引き続き実施し、毎年秋ごろにクリーン週間を設けて地域の方とともに取り組んでいく予定である。

ゴミ回収の様子

背中に分別方法、バーコードと国名が書かれたシャツ

現場で種類ごとに集計

学校でペットボトルを国別に仕分け

結果発表

資料

○海洋教育教職員研修会資料

令和２年度

竹富町海洋教育教職員研修会

結 ぬ 海

～ 隔ての海を結びの海に ～

日時：2020 年 10 月 14 日（水）

会場：各学校（オンライン開催）

主催：竹富町教育委員会
後援：海洋教育パイオニアスクールプログラム主催団体

目次

1.　開催要項 1
2.　プログラム 2
3.　講師紹介 3
4.　各校の発表要旨 4
竹富小中学校 4
黒島小中学校 6
小浜小中学校 7
波照間小中学校 8
大原小学校 10
大原中学校 12
古見小学校 14
船浦中学校 16
上原小学校 18
西表小中学校 20
白浜小学校 22
船浮小中学校 24
鳩間小中学校 25
5.　資料 27
〇事前アンケート結果 27

1. 開催要項

【目的】

本町では昨年度より、「海洋教育パイオニアスクールプログラム」に参加し、海洋教育の取り組みに力を入れているところであります。各校では、既に様々な特色ある海洋体験活動を実施しておりますが、それらの活動がより系統的・体系的な学びとなるよう昨年度には、「竹富町海洋教育基本計画」を策定し、今年度は「海洋教育副読本」の完成を目指し作成を進めています。

今年度は本取組の２ヶ年目になることから、教職員のみなさまに、海洋教育の意義や本町が海洋教育で目指すことについて理解を深めて頂き、町内一丸となって充実した海洋教育を展開していけるようにすることを目的として教職員研修会を開催いたします。

【日時】

令和２年１０月１４日（水）　午後２時～午後４時３０分

【会場】

各学校（オンライン開催）

【対象】

竹富町全小中学校教職員

2. プログラム

14:00－14:07	１．開会
	２．教育長挨拶
14:07～14:32	３．講演（東京大学：及川幸彦先生）
14:32～16:12	４．各学校の活動発表　（13 校×6 分） ① 14:32-14:38 竹富小中学校 ② 14:39-14:45 黒島小中学校 ③ 14:46-14:52 小浜小中学校 ④ 14:53-14:59 波照間小中学校 ⑤ 15:00-15:06 大原小学校 ⑥ 15:07-15:13 大原中学校 ⑦ 15:15-15:21 古見小学校 ⑧ 15:22-15:28 船浦中学校 ⑨ 15:29-15:35 上原小学校 ⑩ 15:36-15:42 西表小中学校 ⑪ 15:43-15:49 白浜小学校 ⑫ 15:50-15:56 船浮小中学校 ⑬ 15:57-16:03 鳩間小中学校
16:12－16:27	５．総評（東京大学：田口康大先生）
16:27－16:30	６．閉会

3. 講師紹介

	おいかわ　ゆきひこ 及川 幸彦 東京大学大学院 教育学研究科附属海洋教育センター　主幹研究員 （学位）地球環境学博士 （研究分野）環境学、人文地理学 教育学、教科教育学 海をフィールドに、主に環境や防災の視点から「持続可能な開発のため教育（ESD）」の研究・実践に取り組んできました。特に、東日本大震災以降は、自身の被災や復旧・復興プロセスの経験や知見を活かし、ESD の視点からの防災・減災教育の改革に努めてきました。「持続可能な社会」は、人類共通の願いであり、教育の究極的な目標です。生命の根源である海、人間の生活や文化を支える社会環境としての海、そして、災害等の脅威をもたらす畏敬の対象としての海、それらを包含して、海と人との共生をめざすことは、まさしく持続可能な社会の創造そのものです。海を地球環境をつかさどる根幹と捉え、その保全と活用への教育の果たす役割を研究することを通じて、その道筋を明らかにしていきたいと思います。
	たぐち　こうだい 田口 康大 東京大学大学院 教育学研究科附属海洋教育センター　特任講師 （学位）教育学修士 （研究分野）　教育学、教育哲学、人間学 教育学を専門とし、人間という存在と教育との関係について考え続けています。海洋教育においては、海と人とのかかわりについて、様々な理論や研究を横断しながら、実践的かつ理論的に探究しています。また、それらの探究をベースに、学校や自治体と連携の上で、地域や団体の特性を生かしたカリキュラムやプログラムをデザインしたり、いままでにない試みを構築することを得意としています。近年は「対話」をテーマにプロジェクトを実施しています。一般社団法人 3710Lab 主宰。

4. 各校の発表要旨

竹富小中学校

◆実施している海洋教育

①海洋教育全校朝会（小 5，6 年，中１）

令和元年度～令和 2 年度 5 月までに竹富校で取り組んだ取り組みを発表。

（もずく採り、アーサ採り、海浜清掃、海洋プラスチックゴミの講話、海の危険生物調べ、SDGs、竹富の地域の皆さんにアンケート調査、企業の取り組み、など）

②海洋プラスチックゴミ調査（with 竹富財団）（小 5，6 年生）

アイホーシ浜に漂着しているペットボトルを集めてどこの国から流れ着いたのかを調べた。

（日本、中国、韓国、台湾、フィリピン等）

③海洋プラスチックゴミ（ペットボトル）を使って、お魚を作ろう。（小 5，6 年）

海で拾ってきたペットボトルを使ってお魚を作った。工作。

④海洋プラスチックゴミのキャップを商品化するには（with 竹富財団）（小 3，4，5，6 年生）

海洋プラスチックゴミを資源として捉え、サーキュラーエコノミーの視点で商品化するとしたら何を作りたいかを考えた。（児童の案：下敷き、給食トレー、コップ、皿、など）

⑤海の生き物調べ（小 3.4 年生）

自分が好きなテーマを決めて、魚調べをする。

⑥グラスボートにのって海の様子を観察しよう（小１～6 年生）

竹富の海の現状を知ることで、竹富の海の良さや課題を発見する。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

『グラスボートにのって海の様子を観察しよう。』

２．ねらい

竹富の海の現状を知ることで、竹富の海の良さや課題を発見する。

（①珊瑚を見つける。②魚を見つける。③海洋プラスチックゴミを見つける）

３．対象学年とカテゴリー

海に親しむ、海を知る

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

総合、生活科（２）

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習

①珊瑚について調べる　②海の魚について調べる　③海洋プラスチックゴミについて調べる

６．地域や他機関とのかかわり

南西観光（小２保護者）にグラスボートに乗ることを依頼した。

竹富交通さんに港までの送迎依頼。

７．成果と課題　（○＝成果、●＝課題）

○竹富の海の良さや課題を発見することができた。
（良さは、海が綺麗で魚たちが元気よく泳いでいる。海洋プラスチックゴミは海面や海底には見当たらなかった。課題は、珊瑚が予想以上に白化している。）

●珊瑚についての事前学習が足りなかった。事前に珊瑚の写真を見せて、何色の珊瑚が多いかを予想させても良かった。何色の珊瑚が生きていて死んでいるのかの区別がつきにくかった。

黒島小中学校

◆実施している海洋教育

①アーサ採り：毎年 3 月に全児童生徒・教職員・保護者・地域の方々と一緒に行っている。

②ウミガメと黒島の海：黒島の海で、よく見かけるウミガメについて調べ学習。

③シュノーケリング：黒島の海は、どのような状態なのかを実際に観察する。

④ビーチクリーン：前児童生徒・教職員・保護者・地域の方々と黒島の海岸清掃を行っている。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

【ウミガメと黒島の海】黒島の海で、よく見かけるウミガメについて調べ学習

２．ねらい

①黒島の海（海洋）に直接触れることで自然に関する興味関心を高め、自然の魅力を学ぶ機会とする。
②身近にある自然環境について、ウミガメを中心に学習することで黒島の海の良さを再発見する。

３．対象学年とカテゴリー

【対象学年】小学校 3 年生～6 年生　【カテゴリー】海に親しむ・海を知る

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

【総合的な学習の時間】32 時間

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

【ウミガメと黒島の海】取組中

5 月 13 日（水）昨年度の総合的な学習のまとめから・・・
黒島の海でよくウミガメを見かけることから今年度のテーマを設定。
1 年間の学習内容の確認。

5 月 25 日（月）黒島研究所に行く計画を立てる。グループ分け。

6 月 04 日（木）勉強会①（ウミガメとは）

6 月 08 日（月）黒島研究所での勉強会の振り返りと新たな疑問点を発見。

6 月 29 日（月）勉強会②（アカウミガメ・アオウミガメ・タイマイ）グループで疑問点の質問。
※５．６年生は勉強会のまとめをパソコン入力

7 月 14 日（火）勉強会③　ウミガメ産卵調査　　※５．６年生は勉強会のまとめをパソコン入力

7 月 28 日（火）勉強会④　シュノーケリング・ウミガメがよく訪れる黒島の海の様子を観察。

６．地域や他機関とのかかわり

○黒島研究所の方々が、日々調査（ウミガメ）を行っているので、研究所の協力を得ての調べ学習。

７．成果と課題

○成果として期待できることは

・自然豊かな海に囲まれた黒島の良さを改めて実感することが出来る。

・黒島のみならず、竹富町の各島々も海からの恩恵を受けて今日があることを再確認できる等。

●継続可能な学習にするための工夫等。

小浜小中学校

◆実施している海洋教育

①もずく採り体験学習・・ビーチクリーン後、縦割り班で活動

②ハーリー・・・・・・・海神祭に参加（小⇒ハーリー体験、中⇒職員と対決）

③結願祭・・・・・・・・各部落に分かれ棒術や踊りを体験、不参加者は中日に見学

④アーサ採り体験学習・・ビーチクリーン後、縦割り班で活動

⑤美ら海体験・・・・・・ＰＴＡ子ども育成部による体験学習

小）シュノーケル　中）スキューバダイビング

◆発表する活動の詳細

１．行事名

アーサ採り体験学習

２．ねらい

○海の美しさと豊かさに触れ、自然に対する畏敬の念及び海洋問題への意識を高めるとともに、収穫を通して勤労の喜びや尊さを学ぶ機会とする。

○活動を通して、縦割り班のよさを生かしながら児童生徒同士、児童生徒と教師相互の温かい心のふれあいや絆を深める。

３．対象学年とカテゴリー

全児童生徒（親しむ・活用する）

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

総合的学習の時間【２時間】

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習・・・帯タイムを活用（主に安全指導）

当　　日　・・・給食後、現地へ移動・・・・・・・・・・・・15

↓　ビーチクリーン・・・・・・・・・・・・25

↓　縦割り班に分かれて、アーサを採る

↓　小１・２年生・・・・・・・・・・・・・55

↓　作業終了・・・・・・・・・・・・・・・70

↓　帰　校・・・・・・・・・・・・・・・・85

↓　処理作業(小６以上)・・・・・・・・・　・100 分

下　校

事後指導・・・学習的なことは　特になし

６．地域や他機関とのかかわり

細崎地区の方に海岸にいることや駐車場使用について連絡を入れる

７．成果と課題

○直接、海に出て活動することで豊かさや偉大さを感じられる

○小中、共通の課題に取り組むことで、共通の話題ともなり縦のつながりがより強くなる

●学校だけでの取り組みであり、体験しっぱなしになっている（前後の指導に困り感）

●なにより、教師側の知識が少なすぎる（⇒どう指導展開していいかイメージがわかない）

波照間小中学校

◆実施している海洋教育

①水泳教室：泳力によりグループに分かれ、海に親しみ遊ぶとともに水泳学習。
高学年以上は、沖へ出て海の醍醐味を味わいサンゴや魚を観察。

②カマボコづくり：波照間伝統のカツオを使ったカマボコづくり体験。

③ビーチクリーン：海岸に打ち上げられた漂着ゴミの回収。

④海の絵コンクール応募：海をテーマにした絵画コンクールへの応募。

⑤海のアート作品作り：貝殻や珊瑚のかけらを使ってアート作品作り。

⑥釣り体験（任意）：魚を釣って種類・大きさを確かめ、さばき方を学び、最後に調理して食す。

⑦海の生き物観察（任意）：早朝や夜間、満潮・干潮時に海の生き物観察。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

「水泳教室」　2020,07,06～07

２．ねらい

①いろいろな水遊び・浜遊び、浮き方・潜り方、泳ぎ方ができるようになる（小）
②自己の能力に適した泳ぎ方を身に付け、距離や時間に挑戦し泳ぎを楽しむ。（中）
③海での危険を学び、安全に楽しむ方法と命を守る行動ができるようになる。（小中）
④郷土の豊かな自然に親しみ、自然や生き物を愛し海を守る心を育む。（小中）

３．対象学年とカテゴリー

○小学校低学年・中学年＝「海に親しむ」
○小学校高学年・中学生＝「海に親しむ」「海を知る」

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

○「体育」・・・・４時間×２日間　　合計８時間

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習

①自分の泳力について。健康安全について。
②海の危険と安全で楽しい海遊びの方法について。
③心肺蘇生法講習（職員）（昨年度は高学年・中学生も実施）

当日の様子

①各学年（低・中・高、中学）に合わせ泳法・泳力向上の取り組み。

②命を守る安全な海の楽しみ方について。「浮いて待て！」の練習

③「こぎ出せ海原！」　大海原を楽しもう。

６．地域や他機関とのかかわり

〇多くの保護者が仕事を都合つけ、水泳教室に参加。

〇波照間島で海案内をする観光業経営者の方が中心となり、海の楽しい遊び方を指導。

〇県内で活躍するライフガードの方々が、毎年水泳教室にボランティアで指導参加。（６年目）

（医師、消防隊員、各地ビーチのライフセーバー、水泳指導員など職種は様々）

７．成果と課題

〇多くの保護者・指導員の参加で安全・安心に実施できた。

〇楽しく遊ぶだけで無く、危険についての学習や対処法を学べた。

〇潮の干満や潮の流れを見極め、身の安全を確保する方法を実践できた。

〇島の自然の雄大さを実感し、誇らしく思う気持ちが育まれた。

●波や流れのある海での水泳実習のため、泳法の習得や泳力の向上の面では課題が残る。

●毎年、全面的な協力いただいているライフセーバーの方々の好意に甘えてはいないか。また、指導をお任せで良いのか疑問が残る。（特に渡航費・宿泊費など経済面及び泳力向上面）

大原小学校

◆実施している海洋教育

①カーナ採り体験

３年生を対象に地域に住んでいる方に講師を依頼し、カーナ採り体験に出かけている。

採ったカーナはその日で持ち帰り児童の夕食の一品へとなっている。下ごしらえまで体験している。

②マングローブについて知ろう（仲間川遊覧船ボート体験活動）

４年生を対象に仲間川遊覧船ボートでの体験活動を通し、マングローブ観察に出かけている。

③ウムズナー捕り体験

３年生を対象に地域に住んでいる方に講師を依頼し、ウムズナー捕り体験に出かけている。

エサとなるカニは事前に捕まえに行く。（担当教諭と講師）

◆発表する活動の詳細

１．行事名

ウムズナー捕り体験

２．ねらい

西表島の海で捕れる豊富な資源を知り、捕る体験活動、そして実際に調理し食することで、食の大切さ、海への感謝の気持ちをもつ。

３．対象学年とカテゴリー

３学年　海に親しむ

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

総合的な学習　時数：８

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

①つかむ

・事前学習から学習課題を決める。ウムズナーについて知りたいこと、やってみたいこと

・学びのてびきの活用。講師紹介。

・海には豊富な資源があることを知る。

②体験する

・海に適した服装、体験に適した道具等の確認をする。（海での心がまえ等）

・見つけ方、捕り方を知る。（講師）

③まとめる

・体験活動新聞を作成する。

④いかす

・海にある豊富な資源を未来へ持続させるために自分たちにできることは何か考える。

・島への誇り・愛着に結びつける工夫が必要。

⑤振り返り

・体験活動を通し学んだこと、感じたことを講師へお礼の手紙として書く。

６．地域や他機関とのかかわり

・地域の方へ講師依頼（実際の体験時）

・竹富町・教育委員会（町・委員会の車借用）

７．成果と課題

〇自分たちの住んでいる西表島の海には豊富な資源があることを知ることができた。

〇ウムズナー捕りを体験することで身近に住む他の生き物の存在にも気づくことができた。

〇ウムズナーがカニ等をエサにしていることを発見でき、今後習う食物連鎖にも関連させることができた。

〇ウムズナーのすみかを知ることで、天敵などに狙われない工夫をしていることに気づくことができ理科の学習にも結びつけることができた。

〇実際の体験を通し、先人たちの海との関わりや活用方法を知ることができた。

●捕ってきたウムズナーを実際に調理し、食することができたら良かった。

●婦人会など地域の方々へ協力依頼し、調理の仕方や料理方法なども学ぶことができたら更に良かった。

●西表島にある豊富な資源（ウムズナー以外）との関わり、教えが弱かった。

●豊富な資源を守っていくために自分たちにできることは何か。（振り返りの充実）

●身近な海のすばらしさを発見した後、その島への誇りと愛着の持たせ方。指導の仕方。

●竹富町周辺の海と水産業を結びつけた指導、授業づくり。

大原中学校

◆実施している海洋教育

①体験ダイビング：竹富町の補助を受け、３年生が西表島西部でダイビング体験を行った。

②筏下り事前授業「山・川・海のつながり」：海の環境を良くするために植林をする活動に目を向け、山・川・海の関係性について考えた。

③筏下り事前講話：「仲間川とマングローブ・川の危険性＆応急処置」。筏下りを行う前に大原森林事務所の地域技術官に講話をして頂きました。

④仲間川筏下り：仲間川を自作の筏で下る学校行事。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

仲間川筏下り

２．ねらい

（１）郷土理解を図り、たくましく生きる知・徳・体を身につける。
（２）地域の人材(住民や林野庁の関係職員)を活用し、学校と地域で行事を創り上げる。
（３）生徒、教師、地域の方がお互いに協力し合い、協調性をやしなう。
（４）西表島を代表する仲間川に親しみ、西表島の自然や地域について知識や関心を高める機会とする。（マングローブ・生物・地域社会との関わり）
（５）地域素材を生かし、創意工夫をこらした筏づくりをする。
（６）建築用工具や木工具等、物づくりの正しい方法を学習する。

３．対象学年とカテゴリー

対象：中学生　　カテゴリー：海を守る

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

総合的な学習の時間：21 時間

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

・ロープワーク講習会

・筏作製

・事前講話（仲間川とマングローブについて、川の危険性＆応急処置）

・筏下り当日

６．地域や他機関とのかかわり

・林野庁　九州森林管理局西表森林生態系保全センター　職員２名派遣
・林野庁　九州森林管理局沖縄森林管理署　大原森林事務所　地域技術官１名派遣
・マリーンレジャー金盛　事前に筏を上流へ、参加者輸送
・西表島交通株式会社　エークの借用
・竹富町立児童生徒交流センター　ライフジャケット・２ｔトラック借用
その他、多くの保護者・地域の方々にお世話になりました！！

７．成果と課題

○生徒が主体となって筏上の装飾、昼食の計画をし、保護者の指導の下、筏作製を行うことが出来た。
○事前授業で行った山・川・海の関係性を意識しつつ、行事に取り組むことができた。
●林野庁の職員と、筏上での学習内容の計画を練る。
●これまでの筏下りや仲間川を取り巻く環境・暮らしの変化など、歴史について事前学習で学ぶ。

古見小学校

◆**実施している海洋教育**　（〇→昨年度実施　●→今年度実施予定）

①〇**はまうり体験**：浜辺の海を散策し、海の生き物に親しむ。「はまうり」について知る。

②〇●**カーナ採り**：カーナ（古見周辺の海で採れる海藻）を採り調理し、食事する。

③〇**カヌー体験**：カヌーでシイラ川を上り、生き物や海の循環について知る。

④●**サップ体験**：観光業に携わる方のお話を聞き、西表の観光業の実態や思いについて知る。

⑤〇●**ゴミ０運動**：バギナカーに漂着してきたゴミを拾い分別し、ゴミを減らすためにはどうしたらよいかを考える。※今年度は、全ての海洋体験を終えた後に行う予定。

⑥〇**地域の踊り、じかた**：地域に伝わる舞踊を自分達で弾き・歌い、踊りを披露する。歴史ある集落の伝統を引き継ぎ継承しようとする心情を育てる。

⑦●**遠足**：竹富町内の他の島を訪れ、自分達の島との違いや共通点を知る。

⑧●**祖内しち祭りの見学**：地域の伝統行事を知る。

⑨●**リサイクルセンターの見学**

※今年度は，海洋教育のストーリーを作ることを意識し活動をする。

◆**発表する活動の詳細**

１．行事名

カーナ採り体験

２．ねらい

カーナ採り体験を通して、カーナやその調理法を体験的に知る。

３．対象学年とカテゴリー

対象学年　：１～６年
カテゴリー：海に親しむ

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

１・２年：生活科４時間
３～６年：総合的な学習の時間４時間

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習

副読本を使用し学習を進める。カーナについて知りたいこと（学習課題）を持ち、それを意識して体験ができるようにした。持ち物等も副読本を活用し、確認した。

当　　日

カーナ採り体験→カーナの下処理→調理

事後学習

振り返りシート（副読本）で体験活動を振り返った。

６．地域や他機関とのかかわり

地域の方を講師に、カーナの採り方や調理の仕方、昔の様子やカーナと地域のかかわりや生活等を教えてもらった。

７．成果と課題

〇目的意識を持って体験に臨んでいた。

〇体験では分からなかったことを夏休みの自由研究で取り組もうと考える児童もいた。

〇地域の方を講師に招いたことにより、以前の様子と比べることができ、地域の歴史や生活様式の発展などを考えることもでき、学習の広がりを感じた。

●地域の人材を活用できたことは良かったが、講師の方に頼る部分が多かったので、学校でも進められるようにすること必要かと感じた。

船浦中学校

◆実施している海洋教育

①サンゴ礁について学習（総合的な学習の時間）

３年生の体験ダイビングの事前学習でサンゴとそこに住む生きものたちについて学習

②サンゴ礁に住むいきものの立体作品つくり（美術）

サンゴ礁の学習で見つけた、自分のお気に入りの魚を作成。自分の選んだ魚がどのように生きているのかを知ることで海についての関心を深めるきっかけとする。

③体験ダイビング

中３を対象に、地域のダイビング協会に協力を仰ぎ、バラス島周辺でシュノーケルと体験ダイビング。サンゴやそこに住むいきものを実際に観察し、海の素晴らしさ、いきものの豊かさをサンゴ礁が支えていることを、体験を通して学ぶ。

④ビーチクリーン

学校の近くの浜を清掃。ビーチクリーンでの集まったゴミから、自分達の生活や今の社会の問題点を考え、海を守る行動につなげる。

⑤筏下り（三大行事）

川、マングローブについて事前学習を持ち、海とのつながりを学ぶ

ビーチクリーンで見つけたウキや巨大な発泡スチロールなどを筏の浮力体として使用予定

（ビーチクリーンと筏をつなげる）

⑥理科室に海水水槽を置くことで、生徒達が興味をもって水槽内の魚を見るようになった。

（ウツボ、アイゴ、ハゼ、オヤビッチャー、フグ、スズメダイ、フエダイ、クモヒトデ、ミーバイ）

生徒が休日に海で捕獲したいきものを積極的に持ってきてくれる。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

体験ダイビング

２．ねらい

西表の豊かな生きものとサンゴの関係について知る

３．対象学年とカテゴリー

中３：海に親しむ、海を知る

４．実施している教科と時間数

総合的な学習１０時間（事前３、体験６、事後１）

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習で学んだサンゴの名前や、調べていた魚を実際の海の中で見つけることにより、それを見つけたときの感動は大きくなっていた。海の中でこの魚を見たい！という魚や生きものに関する事前の知識を持っていることは、生徒の海での活動をより主体的にすることにおいて、有効であった。また、海洋教育予算で購入した防水デジカメを生徒に持たせ、サンゴやいきものを撮影させた。海の中のきれいな景色や新しい種類のいきものを探そうと海の中で積極的に活動することができ

た。自分で海を撮る、という目的は生徒の海での活動をより主体的なものにしてくれた。

体験を終えて、地域のダイビング関係の方々の海を大切にしている想いや海の素晴らしさを教えてもらうことで、西表の海の大切さに改めて実感することができた。

６．地域や他機関とのかかわり

ダイビング協会に協力を仰ぎ６事業所、７名のダイビング関係者が協力

７．成果と課題

〇サンゴ礁の素晴らしさ、そこに生きる生きものたちの豊かさを、体験の中で学ぶことができた。

〇協力してくれる方々の海への想いを知ることで、改めて地元の海の素晴らしさを確認することができた。

〇事前指導でサンゴ礁やそこで住むいきものについて調べること、自分のお気に入りの魚を意識して海に入ることで、知識と体験がつながり、海での活動がより良いものになった。

●中学校３年生だけでなく全学年を対象にしたいが、時数や協力業者との関係で難しい（協力業者は無償で協力してくれている）

●海での感動をもとに、今後その海を守っていくには、と生徒ひとりひとりの海の保全に向けた行動につなげるための事後学習の工夫が必要

上原小学校

◆実施している海洋教育

①魚まき集会（海に親しむ・海を活用する）

事前指導から当日の体験まで、まき網漁に関わるすべての体験を家庭や地域と一体となって行う。まき網漁で獲れた魚は学校に持ち帰り児童が捌く。そして保護者が中心となって調理をし、保護者や地域の方々も含め、全員で海の命に感謝をしながらいただく。３５年前から続く本校の伝統的な体験活動。

②ビーチクリーン作戦（海を守る）

毎年５月頃、学校周辺の海岸に流れ着く漂流ゴミなどの海岸清掃をする。また、拾ったペットボトルのラベルからどこの国から流れ着いたものか調べる。SDGs の視点を持ち、事後指導では活動をふり返り、自分たちにできることを話し合ったり、新聞にまとめたりするなど探求的な学習を行う。

③防災学習（海を知る）

地震や津波などの災害に備え、正しい初期対応や避難の方法を体験的に学習する。また、有事の際を想定し、避難所体験活動も行っている。身近なものを活用して避難所生活に必要な物を話し合いながら作る。自助・共助・公助の意識を高める体験活動。地域防災連絡会を立ち上げ、地域全体で取り組んでいる。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

魚まき集会

２．ねらい

・竹富町に生息する魚や危険生物、まき網漁について基礎知識を学ぶ。
・とれた魚で調理をし、海の恩恵に感謝をしながら海の環境を守っていこうとする心情を高める。

３．対象学年とカテゴリー

１～６年生（海に親しむ・海を活用する）

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

１～２年生　国語・図工・生活（１０時間）３～６年生　総合的な学習の時間（１５時間）

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習

・竹富町内の海に住む生き物を調べる。
・海の危険生物について学ぶ。（地域人材の活用）
・まき網漁体験で使用する網の修理。（保護者と協働）
・魚の捌き方を学ぶ。（地域人材の活用）

当日の様子

・当日の早朝、地域の方の協力を得て、事前に網を仕掛けておく。
・安全指導を行い、「魚まき集会の歌」を歌う。
・まき網漁体験を行う。（保護者と協働）

・お魚講座（地域人材の活用）
・獲れた魚を学校に持って帰り、それぞれの発達段階に応じて魚を処理する。
（１・２年生…鱗取り　３・４年生…内蔵取り　５・６年生…三枚おろし）
・保護者が調理し全員でいただく。（刺身・魚汁・てんぷら）

事後指導

・これまでの学習を新聞やポスターにしてまとめる。
（SDGs の視点を持ち、自分の意見や感想も入れる）
・まとめたものを発信する。（校内・子どもサミット in おおむた）

６．地域や他機関とのかかわり

・海の危険生物講話（地域人材）
・魚の捌き方講座（地域人材）
・お魚講座（地域人材）
・まき網漁指導（地域人材）

７．成果と課題

○「まき網漁の体験」→「獲った魚を捌く」→「調理した魚を食べる」までを一貫して行ったことで海の命に感謝をすることができたと共に、環境を保全しようとする意識を高めることができた。
○多くの地域の方々に協力して頂くことで、地域に開かれた体験活動を推進することができ、地域の自然や文化などを守っていこうとする行動力を持った「持続可能な社会の担い手」の育成へつなげることができた。
●当日の体験のみならず事前指導や事後指導も含め、ＥＳＤを意識し、系統性を持った教育課程編成。

西表小中学校

◆実施している海洋教育

①**ダイビング・シュノーケル体験**：中学生は、沖に出てダイビング体験。小学生はまるま盆山周辺をシュノーケル体験する。

②**刺し網（アンブシ）漁体験**：地域の海人の方に協力して頂いて、漁師じゃないと使えない漁具、三枚網を使い刺し網漁体験をあさせてもらう。

③**サバニ体験**：地域でサバニを所有している方に、サバニの漕ぎ方や歴史などを教えてもらい、実際にサバニを漕ぐ。

④**白浜海神祭**：白浜で行われる海神祭に全校児童生徒で参加し、集落対抗のハーリーに参加する。

⑤**中学部海洋学習**：昨年度は中学部のみで、海洋教育学習を行っており、昨年度はカヌー体験とマリュウド・カンピレーの滝の散策を行った。

⑥**ビーチクリーン**：３・４年生の社会科(ごみはどこへ)の中で、北泊海岸（西表小中学校裏）において、ビーチクリーンを行った。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

刺し網（アンブシ）漁体験

２．ねらい

（１）地域の方々の協力の下、アンブシ漁を体験することで、郷土の自然に理解を深め「郷土を愛する心」を育てる。

（２）生き物を採って食することにより、自然の恵みに対する「感謝の心」を育てる。

（３）海の危険な生物について事前に調べ、事故を未然に防げるようにする。

３．対象学年とカテゴリー

全学年対象

カテゴリー→海に親しむ、海を守る、海を活用する。

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

総合的な学習　３時間

社会科　　３時間

国語　　３時間

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習

安全面の確認・海洋危険生物の確認・沖縄の近海魚の種類と近海の歴史と特徴などを調べる。

一般的な調理方法（おろし方、魚の種類に合った調理法）を調べる。

当　　日

児童生徒みんなで、干き潮の時に海に入り、講師に教わりながら網に掛かった魚を外していく。

終わった後は、小学校４年生以下はうろこ取りを行い、小学校５年生以上は、内蔵だしを行う。

帰りに、お土産として、自分たちで捕った魚を氷付けにしてお家に持って帰る。

事後学習

学んだことを、絵日記に書いたり、感想を書いたりして振り返る。

小学４年生の社会の授業などでは、そこから海を守るとして、ビーチクリーンを行ったり、以前には、魚図鑑を作った学年もあった。

６．地域や他機関とのかかわり

地域にいる海人にお願いして、網入れや網回収をしてもらっている。他にも、危険生物などの安全講習や、捕れた魚の種類や特徴の説明などを行って頂いている。

７．成果と課題

〇海に対して親しみや、魚を知る機会を作れて、児童生徒の知識が増えた。

〇自分が捕った魚を自分でこしらえて食すことで、魚のおいしさや身近な食材や料理に興味を持つ子が増えた。（食育）

〇西表小中学校に通う９年間の中で、３年おきに３回行うので、漁獲量や海藻の変化など、海の状況の経年変化に児童生徒が気づくことができる。

〇海人の人たちに仕事に、実際にふれることができた。（キャリア教育）

●刺し網が行える時期が限られているので、多忙な時期と重なり、事後学習が深められない。

●得た知識や、経験などを発信する場がなく、その場だけの学びになってしまい、海洋教育の教科横断的な指導計画の作成が必要である。

白浜小学校

◆実施している海洋教育

①春の遠足：船浮湾遊覧マングローブや水落ちの滝、網取集落見学を行った。ガイドからマングローブの役割などについて教えてもらい、網取集落にいるオカヤドカリについても学ぶことができた

②海の体験学習：刺し網漁体験を中心に、潮干狩り体験や獲れた魚を調理したりするなどの体験。特に、魚の調理法は、毎年実施していることもあり高学年になると少しずつ上手に捌けるようになってきた。

③海神祭：白浜地域最大の伝統行事海神祭に、参加することで海への感謝や愛郷心を育んでいる。海神祭がなぜ行われるのか？どういった意味があるのか事前学習などでインタビューするなど、その目的や先人たちの思いについても学習している。

④ビーチクリーン：今年度から実施。海洋教育の中で子供たちが「僕たちに何かできないか？」という視点から活動を実施することになった。西表島エコツーリズム協会の協力を得て、漂着ゴミについて学習している。また、拾ったゴミを利用したアートづくりを行う予定。

⑤山の体験：PTA 主催の本校伝統行事で、毎年目的地が変わり、観光名所の山から、学校の裏山など、多岐に渡る。令和元年度は、内離の炭鉱や集落の跡を見学し、学習発表会の劇で学んだことを発表した。今年度は、海と山のつながりについて学習できないか検討している。

⑥マングローブ探検：マングローブの生態や役割を調べ、海との関わりを学習する。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

海の体験学習

２．ねらい

①地域の豊かな自然・文化に触れることで地域理解と郷土愛を深める。
②自然･生き物への畏敬の念を育てる。
③漁法の一端を体験することにより、海で働く人々の工夫や努力を理解させる。
④魚介類について学ぶことにより、海への関心と理解を深めさせる。

３．対象学年とカテゴリー

対象学年；全学年
カテゴリー：海を活用する

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

・事前学習　１～２年生以上→生活科④　３年生以上→総合④
・体験当日　１～２年生以上→生活科⑤　３年生以上→総合⑤
・事後学習　１～２年生以上→生活科②　３年生以上→総合④

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習

１、２年生→白浜で獲れる魚や危険な生物
３、４年生→漁法について

５、６年生→魚の流通や加工について

当日の様子

干潮に合わせて漁場へ移動し、刺し網にかかった魚を網から外し、その場で味噌汁と刺身をこしらえ、昼食。その後、潮干狩りを行う。白浜に戻って、獲れた魚をすべて鱗や内臓を処理し、各家庭に持ち帰し、各家庭で保護者と一緒に調理する。

６．地域や他機関とのかかわり

・下地鮮魚店

・船浮海運

７．成果と課題

〇地域の自然や色とりどりの魚に触れ合え、命あるものへの畏敬の念が芽生えている。

〇自分の住んでいる地域を大切にしようと思う心が高まっている。

〇地球温暖化などにより、獲れる魚などが変わってきていることを知り、自分自身の生活を見つめ直すきっかけになっている。

〇ESD や SDG s を意識し、持続可能な目標を意識して取り組める子が増えてきた。

●学習のつながりを意識した指導や、取り組みが不足している。

●海人の高齢化や減少で、体験活動の存続が厳しくなってきている。

●知識や思いは少しずつ高まってきたが、行動面へのアクションが不足している。

船浮小中学校

◆実施している海洋教育

①（1学期）【自然編：サンゴの産卵を撮影しよう】海の多様な環境で多様な生物が生きていることを知り，海の環境の中から特にサンゴについて深めていく学習を行う。

②（２学期）【ともに生きる編：人と海との関わり方を考えよう】海を利用した発電について学び，この発電を使って，もしも地域で使う電気を自給自足するとしたら…を考える。

③【自然編】と【ともに生きる編】の２つを通して，海と自分たちとの関わり方について考えを深める

◆発表する活動の詳細

１．行事名

自然編：サンゴの産卵観察会

２．ねらい

船浮近海に生息するサンゴの産卵の様子を観察・記録し，サンゴの生態について学ぶ。

３．対象学年とカテゴリー

小学生・中学生　（海を知る）

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

総合的な学習の時間　2時間

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習①：イダの浜でビーチコーミングをしよう（2時間）

②：船浮湾の多様な海の環境を観察しよう（4時間）【記録（写真）・遠隔地に発信】

③：サンゴの産卵と映える写真の撮り方を学ぼう（2時間）【調べ学習・記録（メモ）】

当日の様子：大潮の日から３日後，夕方から出発し7時～９時まで観察した。しかし残念ながらこの日はサンゴの産卵が起こらなかった。

事後学習①：サンゴとの関わり方についてシンキングツールを使って考えよう。【思考判断表現】

②：考えたこと・体験したことを新聞にまとめよう。【情報活用能力】

６．地域や他機関とのかかわり

（事前学習① 外部講師）NPO法人西表エコツーリズム協会

（事前学習② 外部講師）琉球大学 熱帯生物圏研究センター 西表研究施設

（事前学習③・当日 外部講師）西表島ダイビングサービス遊びなーら

（授業全般におけるiPad(LTEモデル)・ロイロノートの利用）NTTドコモ　沖縄振興推進室

７．成果と課題

○船浮湾における体験を通して，地域にある海の多様な環境について学ぶことができた。
更に，多様な環境の一つとしてサンゴやサンゴ礁について学び，産卵の観察を通して，地球の生き物たちにとってのサンゴの存在の大切さを感じ，自分たちがサンゴとどのように関わっていくかを考えることができた。

●事前活動毎の振り返りに時間を十分とれず，各授業の繋がりを子供たちに意識させることができていなかった。そのため自分事にまで持って行けず，事後学習でのシンキングツールでのアイデアが活発に出てこなかった。

鳩間小中学校

◆実施している海洋教育

①海洋体験学習（カヤック体験）

学校が所有するカヤックを利用し、鳩間島の周りをカヤックで1周する。途中の浜で休憩や昼食をとり、砂浜でレクも行う。ウミガメやサンゴ、魚など多くの生物が見られる。最後にはビーチクリーンを行う。

②星砂学習・採集（5 月）

美ら島自然学校から講師を招き、ホシスナを始めとする有孔虫の学習、観察を通して、有孔虫の生態について学び、午後は干潮に合わせて、島の浜で採集を行う。

③グルクン釣り体験（船釣り体験）

島民に協力してもらい、船釣り体験をする。サビキを使用し、グルクンを釣る。

④島巡り

近隣の島々を訪れ、各島の特徴や自然などについて学ぶ。昨年度は黒島・西表島東部を訪問し、ウミガメやマングローブについて学習した。今年度は西表島西部を訪問する計画。

⑤海岸清掃

毎年 7 月、11 月、3 月に海岸清掃を島民と協力して行う。

◆発表する活動の詳細

１．行事名

星砂学習・採集

２．ねらい:

（１）星砂の生態について総合学習で学習することによって探求心を養う。

（２）保護者、地域の方々の協力を得て、作業を積極的に行い、最後までやり通す態度と保護者地域の方々への感謝の念を育てる。

（３）星砂から得られた資金が、児童生徒会活動費としてまかなわれていることを知る。

３．対象学年とカテゴリー

小学１年生から中学３年生（海を活用する）

４．実施している教科（関連教科を含む）と時間数

総合的な学習（事前学習２、採集２、事後指導３）

美術（２）：星砂のパッケージデザイン

５．事前学習・当日の様子・事後学習（振り返り）について

事前学習（午前）：美ら島自然学校の講師による学習・観察

採集（午後）　　：干潮時間に合わせて浜に行き、星砂の採集と洗浄作業を行った。

事後学習：星砂について学んだこと、わかったことをパワーポイントにまとめ、発表会を行った。

６．地域や他機関とのかかわり

美ら島自然学校から講師の招聘、地域の方々、鳩間公民館

７．成果と課題

○事前学習では研究者ならではの興味深い話を聞けた。また実際に生きている様々な種類の星砂（有孔虫）を顕微鏡で観察し、星砂を始めとする海の生物や、鳩間島の海洋環境に興味を持った。

●鳩間島の海について調べるなど、事前学習をもっと充実させたい。

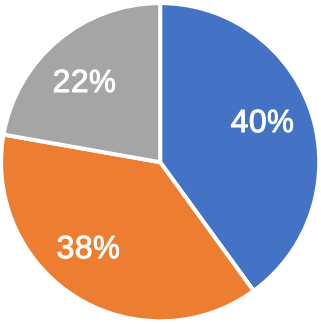
5. 資料

○事前アンケート結果

・回答：13 校

・回答者数：90 名

Q１．竹富町が進める海洋教育について、理解していますか。

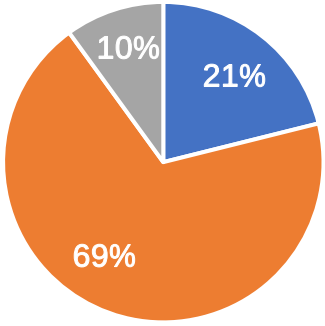


■ １．知っている、担当している

■ ２．聞いたことはあるが内容はあまりわからない

■ ３．聞いたことはあるが、何をしていけば良いのかあまりわからない

Q２．現在実施している海に関わる体験活動について、「竹富町海洋教育基本計画」に記載された目標、方針等に沿って進めていくことはできそうですか。



■ １．概ねできる

■ ２．まだ十分ではないが進めながら出来そう

■ ３．不安である

「３．不安である」理由

・時間的に厳しい中で、さらに海洋教育について取り組めるのか不安である。
・具体的に何をするのか、ゴールは何かがわからない。
・自分自身が海について知らないことが多いので、実際にできるのか想像がつかない。
・赴任したばかりだと、子供たちの方が海やその地域のことを知っている中でどう進めるか。
・準備する期間が無さすぎる。
・新しく体験活動を取り入れる、もしくは元々ある体験活動を海洋教育と位置づけてやる際、少なからず今までの計画に加えて時数を確保する必要がある。
・学校行事は地域と密接な関わりがあるため、行事の精選も行えず負担が大きくなることが予想される。
・海洋教育の目標としているものに感銘を受ける内容もあるが、足元の整備が不十分であり学校教育、地域行事等精選できていないまま進めているため。
・3～5 年ではなく、10 年 20 年、今後ずっと続けること。
・予算の確保。今の予算ありきで出来るものでは続かない。
・全体像も細かいカリキュラムも手探りで進んでいるかどうかもわからない。

Ｑ３．　海洋教育を通して、島個々ではなく“竹富町”としての一体感やアイデンティティーを育むにはどのような取り組みが必要だと思いますか。また、その上で課題に感じることがあればお教えください。

（◆意見、▼課題、◎＝特に多かった意見）

◆意見

＜学習・取り組み内容に関すること＞

◎子供たちが自分の地域以外の活動を知る機会を設ける。

◎他の島々、他校、他地域（町外）との交流学習、発表の機会の創出。

→自分の島を見つめ直したり、他の島のことを分かり合う機会の創出。

→それぞれの島で行っている海洋教育の取り組みの紹介、共有。

→他の島に行きその島の海洋教育体験をしてみる。（地域によってできることが違うため）

→小５集団宿泊学習（同級生が一同に会する素晴らしい機会）

→他の島を知る⇒３年社会科の充実

→多様な文化や考え、「人」に出会う機会の設定

→代表児童だけでも可。直接、集まり、伝える、交流することが大事。

→離島サミット等

→定期的な子どもテレビ会議の実施

◎島々の特色ある取り組みだけでなく、全部の島で共通のテーマ、課題、実践できる取り組みを充実させる

→海の生物調査、竹富町全体で合わせて分布図を作成

→漂着ゴミ、マイクロプラスチック、ビーチクリーン、サンゴ白化、赤土流出

→学校間で共同研究が行いやすい体制を整えてはどうか。

⇒その解決に向けて町として統一した取り組みがあれば一体感が出てくる。

○共通で行う授業が１つはあったほうが良い。

→海洋教育オリエンテーション、海や川の過ごし方等

◎島のこと（自然環境・生活・文化・魅力等）を知り、共通点と相違点を知る。

◎繋がりを意識すること、その必要性を実感すること。「地球は繋がっている」という視点を持たせる取り組み。

○各島が生活上、密接に関連しているのであればそれを取り上げることは可能である。

○海洋教育の必要性や有用性が自覚できるような学習計画や、小中の系統立てた内容等の整理。

○その島にしかない取り組みを出し合って、互いの良い部分を取り入れる。

○文化（伝統芸能や民芸等）の交流や児童生徒がガイドを務める地域巡り等を企画する。

○子供たちはみな海が好きという原点に立ち、海を愛し守るという“レスプブリカ”（公共財）という概念を持たせることが大切

○海の日等に竹富町と海との関わりについての歴史の授業（１時間程度）を用意する。（小１～中３毎に内容を変える）

○各島々の伝統行事一覧等、児童が他の島々を理解できる一覧があると良い。

○第１次産業もある。島・地域に固執せず、町の課題を考えてみては。

○子ども達が自分たちの住んでいる所（島）について、どのように思い、将来についてどこまで考えているのかを知る必要がある。

○児童・生徒が体験できる内容が望ましい。

＜教職員に関すること＞

○教職員も島のことを知る。竹富町教職員全員で何かをする（体験 or オンライン）

○全島の教員（代表者）で海洋教育の勉強会、研修会のようなものを定期的に行う。
▼今行われているのは副読本作成であって、これを使ってどう学びを進めていくかの話し合いは出来ていない。

＜体制・連携等に関すること＞

◎学校だけの取り組みで終わってしまうのではなく、地域と協働、共に学ぶ、取り組む体制づくりが必要。
○地域の方々へ学んだこと、これからしたいこと等を伝える場をつくる。
○島を超えてゲストティーチャー（地域の方等）を派遣する。
○気軽に往来できる船便があると行きやすい。
○ICT 活用、環境整備ができればオンラインで各島々と交流したり発表したりすることが容易になる。

▼課題

＜体験活動の実施に関すること＞

◎日程調整、時間の確保
→自校の都合だけでなく、他の学校、あるいは全学校との調整が必要。
→竹富町は移動にかかる時間と費用負担が大きい。日帰りでやれることにも限りがある。
→地域一体となるとどうしても休日になってしまい、学校行事との調整が必要。
◎予算（竹富町は移動費や、場合によっては宿泊費が伴う）
◎場所（共同で行う場合、大人数が集まれる場所、各所から集まりやすい場所の調整が難しい）
○移動手段
○学習する時間（児童生徒と職員を含む）の確保
○人数が増えたら安全面が気になる。

＜取り組み内容に関すること＞

○「竹富町としての一体感」があまり具体的ではなくわかりにくい。そこの共通見解が取り組みに繋がるのではないか。
○教科化に向けての教育課程編成をどのようにするのか。
○他の島の海洋教育について学ぶ機会をどう確保するのか。

＜連携等に関すること＞

○海洋担当だけの取り組みになっており、職員に周知したり進めていくには多忙な現場ではけむたがられてしまう。
○地域・保護者、各団体等への周知、役割についての理解を深めることがまだまだ進んでいないのではないか。
○伝統文化や行事への参加の取り組みを他地域（本島や石垣）から来ている職員が行う上で職員のモチベーションの維持

＜その他＞

○物理的に離れている（他の島より石垣の方が近い）ため授業を通して、一体感を得るのは難しい。
○「結びあう島々」が使いづらい。
→ノートやテストがあればもっと授業で使いやすい。教師用（答えや補足があるもの）の必要性。

Ｑ４．海洋教育を通して、持続可能な社会を創る人材を育むには、どのような取り組みが必要だと思いますか。また、その上で課題に感じることがあればお教えください。

◆意見

＜学習・取り組み内容に関すること＞

◎実際に体験すること、実感すること。

◎現状を把握すること、分析すること。（過去と比較し、未来を考える）
　→町の現状把握＝課題が大きいだけに身近なことを捉えて自分事にする。
　→自然豊かな竹富町ではあるが、以前とは変わってきていることをしっかり知る。
　→美しい、偉大だけではない負の面の現状も知る。その学びの交流。
○はっきりと事実（現実）を知ること（大人も）
○“海”だけに捉われず、海洋にかかわる生活様式の過去と今と未来を学ぶ取り組みを行う。
○身近な環境、世界とのつながりを知り、課題意識を持つことが必要。
○体験活動から見える課題を自分たちで考えさせる。
　→例）魚とり（活動）→小さな魚や５匹のうち１匹は逃がす（課題）＝魚の保存
◎学んだことを発信する。その方法を学ぶ。
　→家庭や地域等、身近で出来ることを発信、実践する。
　→漂着ごみの多さをインターネットを通して世界に発信する技術を学ぶ。
　　▼伝え方によってはゴミ問題の重要性ではなく「汚い島」と受け取られ観光業等への影響の可能性がある。
○海と人が共生している具体的なモデルを示す。
○海が好きな人材、海で様々な体験ができる人材を育てる。
○現在の海の問題点を話し合い、どう解決していくか考えていくこと。
◎海洋教育に繋がる職業に就いている保護者や地域の方、持続可能な社会を創る活動をしている人にどのような取り組みをしているのか講演等をしてもらい「今」できること「これから先」できることを考えさせる等
○現状把握→問題点→解決をしていく中で、リサイクルやリユース、環境保全等の視点を育てていく必要があるのではないか。
　→例）漂着ゴミ→何か使えないか？→作る→売る（可能であれば）→自然保護への活動費等
○個人的レベルではなく、地球的規模で「世界」「人生」を見つめる取り組み
○各学校の代表の子供たちが“海洋教育リーダー研修”のような形で年間を通して学ぶ機会をつくる。
　→代表児童は自校での報告活動に取り組む。
　→このメンバーで宿泊研修として町内の島を周り、発表したり、まとめ作成、写真記録等をし、役場や各学校の入口、公民館等に掲示する。
　→地域住民も含め、町全体の意識が上がるのでは。
○子ども達の視野を広げること。
○本島もしくは内地の子どもとの継続的な関わりの中で、島の生活の相対化を行う必要がある。
○一人一人が自らの課題を設定し、調べたり、体験する。
◎地球は「循環」していること、生物の繋がりのバランスの上に成り立っている世界であることを知る。
　▼専門性が高くなってしまう。発達段階によって難しい。
◎海洋教育で学んだことを自分達のこれからの将来に繋がっていくこととして捉えることが必要
◎世界と繋がっている海だからこそ、視野を竹富町から日本、世界に少しずつ広げていくことが大切。
○自分の将来と地域社会の未来を繋げる（リンクさせる）等
○①今ある海、自然の素晴らしさを十分に体験、実感できるような機械の学びを行うことが大切。②地域の一員として今あるこの自然、海、環境を守り続けていく上で必要なこと（問題点・課題）に気づかせていく取り組みが必要。③そこから自分達に何が出来るか、できることをしていこうと実践に結びつけていく取り組みが出来れば。
　▼時間が必要（時数）、教科や行事等とのバランスも大切になってくる。
○地域の伝統行事等への積極的な参加。（学校をあげて）　島に誇りが持てる児童・生徒の育成。
○地域の伝統にも目を向け、それを守り発展させていく態度の育成が必要。地域人材を活用したり、ICT

等を利用して竹富町以外の人とも交流をさせたい。
○日頃の生活で（常に長期的に）取り組めるようなことを実践していく。
◎理論と体験の両輪による取り組み、体験活動だけでなく現在の地球環境について等の知識を学ぶ時間をつくる。

＜カリキュラム等に関すること＞

○校外ボランティア、自然体験活動をセットで取り組みたい。
○海洋教育を含めた「ふるさと学習」が重要であると思う。そのためのカリキュラム（計画）をどう編成するのか。
○キャリア教育として取り組めるのではないか。

＜教職員がすべきこと・求めること＞

○教職員が海洋教育について理解を深めること
○カリキュラム編成や実践事例等に関する好事例の情報発信
○海洋教育推進校や地域の取り組み等が知りたい。
○どのような人材育成や社会が良いのか、講演会や具体的な資料の提示等があると良い。

＜体制・連携等に関すること＞

◎家庭、地域、学校全体で海洋教育を意識し、持続可能な社会を創る地域である竹富町として進んでいくことが大切。
→大きな社会問題、環境問題へのアプローチと捉えるのではなく、自分の住む地域でそれぞれができることを考え、実践する。
→学校だけでなく地域も一緒に取り組んでいく必要がある。
→地域の子供たちを地域で育てるために学校で取り組んでいることを知ってもらう。
▼取り組み内容の共有が難しい面がある。
○地域にあった教材や授業作りが必要
▼時間の確保が課題
○継続した取り組みになるようにする。
○島には文化を継承するルートが構築されており、それが人材育成に繋がっている。
▼島のルーツを持たない家庭（職員）はどう関係を築くか。
○海洋教育がねらいとしているものは何かを地域・学校で話し合い、方向性を決める。
○海洋教育について、保護者や地域へ周知をしっかり行う。
○海洋教育に特化した教科の設立が必要。
○学校の取組を支援する行政及び関係機関や民間企業団体の拡充。また、中学卒業後には海洋教育に関連する高校・大学への推薦枠への行政の支援等。併せて関連する企業や就職先の支援。官民一体となった支援。

＜社会環境に関する事＞

○島から出なくても生活できる環境（職業→島でもできる職業の選択の幅を広げてあげる、ネットスーパー、医療等）⇒こうした課題に対して考えることのできる人材育成、話し合い等

▼課題

＜体験活動の実施に関すること＞

○探求活動をするための時間の確保（十分な時間が取れないとただの体験活動で終わる）
○各校たくさんの体験活動がある中で、その時だけ楽しかったで終わらず、子どもたちが課題意識を持ち続けるにはどうしたら良いか気になる。
◎連絡調整係の業務的負担、地域コーディネーター等の必要性
◎地域人材の活用（その方法）

○財政的な裏付け（教育、学校、社会教育への予算化）

＜社会環境に関する事＞

○雇用の確保

○新たな作業（仕事の）の開発

○若者がＵターンできる環境

＜教職員に関すること＞

○海洋教育の意義の理解、教師のモチベーション

Ｑ５．海洋に関わる豊かな体験活動を、どのようにしたら実のあるものにしていけると思いますか。また、その上で課題に感じることがあればお教えください。

◆意見

＜学習・取り組み内容に関すること＞

◎事前・事後学習と繋げ、課題意識を持って取り組ませることが必要→時間数の確保が課題。
　→事前学習：目標や意義の確認、事後指導：まとめや発表する機会、場の設定が必要
　→事後学習からの課題発見で学び、取り組みを継続させる。

◎自分の力でまとめ、アウトプットし、フィードバックを得ること。→時間がかかる

○体験活動として終わらせず、レポートや新聞等を教科と結びつけてまとめていく。（理科、社会、総合等）

○体験のねらいの焦点化。何を学んでいるのか目的の明確化。

○子どもたちの「やってみたい」「知りたい」と教員の思いとのすり合わせ。やらされるでは実のあるものにならない。

○その島々で行えることを題材にして行うだけでなく、一人ひとりの疑問などを解決できるような取り組みを行う

○“海”だけに捉われず、海洋にかかわる生活様式の過去と今と未来を学ぶ取り組みを行う。

○身近なものを題材にすることで、子どもの生活体験とつながる。

◎発信力の育成
　→例）YouTube 配信（周囲への影響力や子供たちの関心意欲を高められると思う）
　→身近な人に伝える。

◎体験することを目的とせず、過程として捉えられること。
　→体験に留まらず、交流→新たな課題を見つける→再構想→発表という流れを作る
　→体験から学んだことを１つでも日常生活で実践する。

○竹富町の子供たちは日々の活動の中に豊かな体験活動がある（休日の釣り等）が、意識していないと感じる部分もあるので、体験した事を発表できる場（島外に）があると良い。

○地元の漁師やダイバーから昔と今の状況を聞き、一緒に考えていくことも必要。

○体験活動から学んだ事を振り返るだけでなく、今後どう活用できるのか、自分の人生にどう役立つのかを考えさせたい。

○現段階でも実のあるものになっていると思う

＜カリキュラム等に関すること＞

○ねらいの実現に向けた教育課程への位置付け、作成。体験だけでなく、事前指導・事後指導を含めたカリキュラムを作成し、指導にあたる。

○海洋教育におけるカリキュラムマネジメントの確立（今ある海洋に関わる体験をどう結びつけるか）

○発達段階に沿った体験活動にする。小中連携も大事だが、各学年で割り切ることも大事。

＜体制・連携等に関すること＞
○学校・地域・家庭が体験活動のねらいをしっかり共有して、地域全体で取り組む。
○地域社会との連携。子供と大人の共同創造
○教育課程外の時間で行うには、保護者、職員（学校）との調整が必要。
○ねらいにせまるための担当教員の専門知識の獲得
○町内の教職員は２～３年で異動となり入れ替わりが激しい。スムーズに引き継ぐための資料を残しておく必要がある。
◎地域人材の活用
→町内には「海のプロ」がたくさんいる。活用すべき。
→本島から赴任している先生方が過半数を占める。「島のよさ」を最大限活かす活動を展開するには地域の力が必要。
→地域の方（人材）にも限りがあるので継続的な活動を中心に行ってくれる団体等が出前授業等をしてくれるとありがたい。
○海洋教育に係る専門職の活用（例）鳩間島：美ら島財団の活用

▼課題
＜体験活動の実施に関すること＞
◎授業時数の確保
→丁寧に取り組みたくても時間が足りない。学校行事・活動の精選が必要。
→時間がなく、かつかつのまま進めたらそれほどの事しかできない。
○予算の確保
→現在の予算が切れたときにどうなるのか心配。
○安心・安全面の確保。野外体験が多く、業者へもお願いして説明をして頂いているが、不安が全くないわけではない。
◎教員自身の知識がない。
○特に小規模校などでは）全体で実施すると安全対象の年齢を下げて行うのでやれることが限られる。
○子ども達が主体的に活動するためにどう支援するか。
○体験から学んだことを次に生かす、結び付けるにはどうしたらよいか。教職員にもまだそこまで学びがないように思う。
＜体制・連携等に関すること＞
○教育委員会、教員、地域の人材確保（安定した継続した活動を繋げていくための）
◎地域連携担当者（コーディネーター）の配置
◎人材リストの作成
→教員の入れ替わりが激しいので、赴任してすぐ分かるような人材リストを作成する必要がある。

Ｑ６．海洋教育を進めて行く上で、地域との連携やプログラム実施において、課題に感じることがあればお教えください。

＜体制・連携等に関すること＞
◎地域との連携が必要不可欠なので、上手に引き継げるよう、地域の相談役、世話役のような方がいると助かる（あるいは地域コーディネーター等）。人材バンクの作成も必要。
→どのような方（人材）が、どのように活用できるのかが、分かるような資料・データがないため、管外から赴任した先生方は、その年々手探り状態で行っているのが現状である。
→やりたいことがあっても誰が手伝い可能かがわからなくて困った。
→教職員は３年で変わることで取組が変化したり、継続できなくならない仕組みが必要。

→地域人材は豊富に思うが誰に頼めば良いかわからない。
→教育委員会等から、地域人材・資料などの支援をお願いしたい。
→多くの人材がいて助かるが、どの方に頼むか大変だと思う。小さな地域ならではのしがらみがある。
→講師や校外学習の際の関係機関や企業、人材等の整理と拡充を行い、学校間で重複したりしないようにすることも必要では。
○地域の方も入ってどんなことをしているのか知っておくと引継ぎがスムーズ。
○海洋教育は“教育”と付いているせいか、「学校」が行うものという認識で地域住民もいる
→竹富町のすごさは、学校だけでなく町全体が海洋教育を行いという点だと思う
○地域と学校現場の違い。→地域：「体験をたくさん」、学校：事前・事後学習も充実させたい。
○地域の方で「海洋教育推進チーム」などというのを設置してもらい、様々な体験活動や講話などを繋いでもらう場所をつくってもらえたらありがたい。
○地域はすでに協力的。その他の負担との調整、行事の取捨選択が必要。
○地域連携との連携には早めに日程を決めて伝えることが必要。観光業も多いので急なお願いは難しい。
○地域の方々の理解を得ること、プログラム実施のための事前、事後打合せの時間の確保、予算の確保
○竹富町は素晴らしい海のプロ、自然のプロが揃っている地域。町から協力費などがあればもっと充実できる。
◎海洋教育に関する地域や保護者への周知がまだまだ足りていない。取り組みの必要性を実感してもらう必要もある（研修等）。委員会からもっと周知してほしい。
○体験活動は子どもたちの学びの場である（保護者にとっても）という意識の共有、価値観を保護者にもしっかりもって参加してもらう体制づくり

＜カリキュラム等に関すること＞

○“海”だけに捉われず、小中９年間を見通した教育課程の編成が必要。
○実施するときの教科は？年計へ入れること（総合のない１，２年生は年計を見直す必要がある）
○教育課程への位置づけ
○単発的な行事としては実のあるものにならないと思う。ＰＤＣＡサイクルの確立。

＜体験活動の実施に関すること＞

○潮の干満と学校行事との日程の調整
○海産物に関わる体験（巻き網、海藻採り等）における漁業権取得者との連携　（漁業権取得者が少ないのでは）
○自然環境に人が入る込む上でのバランス。人数が多すぎてしまうと環境に良くないことも今後出てくるかも。
○校外学習が多くなる

＜教職員に関すること＞

◎担当教諭の負担
→準備、地域や関係者との調整時間が大きな負担。
→外（地域・外部機関）と内（学校）との間で板挟みになることが多い。
○教職員の海洋教育の認識差。海洋教育の必要性を実感させる必要がある。（研修等）
○担当以外何をしているかわからない。知る機会がない。
◎教職員の誰が担当してもできるようにしたい。しなければいけない。
○管理職の積極的な意識
○地域の人のことを教員が知らない。接していない。
○学校行事との関連、潮汐表をしっかり読み取れる職員が必要

＜その他＞

○予算の運用、見積予定を早めに出してほしい。

○予算の確保。講師や備品が必要になってくるので、継続していくためにどうするのか。
○連携したくても交通の便が悪いことが一番の課題。島間航路が週１、せめて月１あると良い。
○地域の方にはほとんどボランティア（無料）で対応してもらっており、経済的な負担をかけている。
○東京都品川区の市民科の科目と似たような取り組みか。

Ｑ７. 竹富町海洋教育基本計画の内容について、不明点や課題に感じることがありましたら、お書きください。

＜海洋教育について＞

○来年度から実施とあるが、具体的にどのように進めていけばよいのか、不透明なことが多い。
　→時数はどのように確保するのか、研修・公務分掌など担当教員への配慮はあるのか。学校ごとの対応になるのかと思うが、限りや負担がある。
○予算の確保はいつまでできるのか、いつまで実施するのか。
○「お金があるからできること」だけでは学校での学びとしてどうなのか。

＜推進体制に関すること＞

○職員の出入りが激しい中で、新しい取り組みが継続して行われるか。
○委員会や学校長のリードがとても必要だと感じる。良いものを良い状態で続けていってほしい。
○海洋教育に対しての温度差が各学校で違うと取り組みの充実度が変わってしまう。
　→どの学校、どの教員でも充実した学習にしなければいけない。
○他の学校でどんな内容をしているか共有してほしい
○重要な取り組みだと思うので、いつまでも継続するための方法を具体的に考えていきたい。どのようなことができるかアイデアを出し合う場を設けてほしい。
○交流するにもその地域の実態や内容が分からないので、どことどのような交流ができるのか不透明である。各地域の特徴や交流（学習）できる内容等が分かる資料があると、実施しやすい。

＜学校内の体制に関すること＞

○担当のみが理解し進めている
○担当以外の先生には、共有や共同研究しづらい。

＜カリキュラム等に関すること＞

○総合にあてることで他の内容の時数が著しく減るので、現場の負荷を見据えてほしい。
○総合的な学習の時間の取り組みと重なる内容が多い。
○今後海洋教育学習が教科化となるならば、授業時数が増えるのか、それとも他の教科が削られるのか等、詳しく知りたい。

＜学習・取り組み内容に関すること＞

○海洋教育についての意見発表、絵、写真、自由研究を推奨し、発表の場を作ってはどうか。
○各校の活動以外にも、通年で海洋教育に関わる子どもたちのリーダー育成研修や、教職員のリーダー育成研修をやることが重要であると思う。（代表者だけでも）
○極小規模校は全員で海洋教育を行っていくため、学年ごとにやる内容を変えにくいので、毎年同じ内容の繰り返しになってしまう可能性がある。

＜副読本に関すること＞

○副読本が完成し、全体で取り組めるようになればある程度の課題が解消されると思う。
○副読本編集に向けた取り組みは大変良いと思う。完成し学校に配布されるのを心待ちにしている。
○副読本が出来ても、それを参考に各校が取り組むという形は変わらないので、そこからどういう人材を育みたいか、育む方法は教職員が考えていかなければ、これまでの活動とは変わらない。
○「海洋教育」とはいうが結局体験がメインである。本当に海を守る、持続可能な社会を創る人材を育成していくには、もう少し専門的な学習もあっても良いのでは。せっかく海洋環境に恵まれた地域なのだ

から。

○事前事後はとても充実しそうだけれど、体験事例集になりかねない。環境に関わる専門的要素（知識等）ももう少し入れるべきでは。また、この学習を通してどんな子供たちをどう育むかの教員の学びも必要。

＜その他＞

◎教職員のがもう少し SDGs からの海洋教育や自然環境に関する勉強が必要。

○先生だけではなく、地域の方たちも昔とは違うということを知る必要がある。当たり前にやってきたことが海を汚す原因になっていること等。

○海に関連する仕事に携わる人（マリンレジャー、漁業、エコツーリズム等）への海洋教育の啓発活動がどうなっているのか。

○児童生徒の環境整備（予算・人材・資料など）を充実させる必要がある。

○行事計画をした時にどれくらい協力をしてくれるか不明。

○アンケートに回答出来ないほど中身がわからない。何をどうすればよいのか説明（研修）を受けたい。

○安全第一で。